

平成 30 年度

新入生の生活に関する調査報告書

平成 31 年 3 月

お茶の水女子大学

はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センターが平成 23 年度から実施している「新入学生（学部）とその保護者を対象に実施した調査」の平成 30 年度版です。

調査の目的は、学生本人および保護者の大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に行うための基礎資料とすることであり、新入学生およびその保護者を調査対象として実施してきました。調査内容は、出身高校、家族、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（入学生調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（保護者調査）などです。

この調査は、学生の保護者を対象とした学内で唯一の公的調査として位置づけられており、大学としてより充実した学生生活を支援する上での貴重な資料として活用させていただいております。

末筆となりますが、本調査にご協力くださった本年度新入学生とその保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。

平成 31 年 3 月 吉日

国立大学法人 お茶の水女子大学
理事 副学長
学生・キャリア支援センター長
三浦 徹

.....

平成 30 年度新入生調査報告書のポイント

1. **新入生の 84.5%は「お茶大を第一志望」として入学しているが、理学部でやや減少**
 - ・理学部の第一志望者 70.2%(平成 29 年度より 7.2 ポイント減少)
2. **「大学の授業」を頑張ろうとする割合は非常に高いが、「授業」への不安もある**
 - ・この 1 年で頑張ろうと思う活動（複数回答）は「大学の授業」99.2%、「留学」は 35.4%で増加傾向。「授業についていけるか」を心配する割合 75.5%
3. **卒業後の進路希望は、理学部では進学、文教育学部・生活科学部では民間企業就職が多い**
 - ・卒業後の進路希望（複数回答）は、「民間企業に就職する」53.5%、「大学院などに進学する（海外含む）」43.9%、「公務員」31.0%、「教師など専門職」20.9%
4. **実家から通学する学生は 60.2%、仕送りがない学生は減少、10 万円以上の仕送り者は増加**
 - ・入学後の住居の予定として、実家から通学 60.2%、賃貸アパートやマンション居住 29.4%、国際学生宿舎 16.3%、お茶大 SCC は 11.1%
 - ・「仕送りはない」と回答した学生は 3.6%（昨年度より 5.1 ポイント減少）、10 万円以上 38.1%(昨年度より 3.8 ポイント増加)
5. **大学に期待する学生支援活動は「就職支援」**
 - ・大学の学生支援活動への期待（複数回答）は、「就職支援」に期待する人が 77.3%と最も多く、次いで「進路相談」64.3%。保護者調査でも「就職支援」への期待は 86.2%と高い。

目次

調査の概要	3
第1章 「新入生調査」の結果	5
(1) 出身高校	5
(2) 家族構成	7
(3) これまでの進路選択や学生生活	8
(4) 大学入学後の生活の予定	10
(5) 将来の進路	20
第2章 「新入生の保護者調査」の結果	25
(1) 家庭の暮らし向き	25
(2) 親の職業・学歴	28
(3) 大学生活の不安・心配事	31
第3章 新入生および保護者調査の結果－奨学金・学生寮に関するクロス集計－	35
(1) 問題・目的	35
(2) 奨学金に関する結果	35
(3) 学生寮に関する結果	46
(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較	55
第4章 新入生「追加質問票」（高校時代の進路選択）の結果	59
第5章 考察および今後の課題	67
(1) 平成30年度新入生の特徴と考察	67
(2) 奨学金と学生寮に関する考察	68
(3) 学生・キャリア支援における課題	69

付表

1. 調査票（新入生調査）	70
2. 調査票（保護者調査）	78
3. 追加質問票（新入生調査）	84
4. 基礎集計表（新入生調査）	86
5. 基礎集計表（保護者調査）	92
6. 追加質問票自由記述集計（新入生調査）	95

執筆担当者

- 三浦 徹 （副学長、学生・キャリア支援センター センター長）
担当：はじめに
- 大風 薫 （学生・キャリア支援センター 准教授）
担当：1章、2章、5章(1)(3)、
- 三浦 憂紀 （学生・キャリア支援センター アソシエイトフェロー）
担当：調査の概要、3章、4章、5章(2)、付表3、付表4

調査の概要

- **目的：**

入学を予定している学生の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とし、次の4点から構成される。

1. 新入生の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を、入学時から行うための情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定し、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭・進路などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

- **調査時期：**2018年3月

- **調査方法：**

質問紙調査票の郵送による送付・返送である。一般入試合格者および保護者に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査票返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。その他の選考による合格者および保護者には、別途、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。

- **分析対象：**

回答をいただいたが、調査データの使用許可を得ることができなかった回答者を分析対象者から除いた。よって対象者は、平成30年度学部入学者394名、保護者384名である。但し、無回答・非該当の場合など、調査項目によって、サンプル数に多少の違いがある。各章を参照のこと。調査別の詳細は以下の通りである。

1. 「新入生を対象とした調査（新入生調査）」

平成30年度学部入学者486名。有効回答数394名（入学者のうち81.1%）。

学部別内訳	文教育学部	181名(入学者のうち83.8%)
	理学部	105名(同76.6%)
	生活科学部	107名(同80.5%)
	学部不明	1名

2. 「新入生の保護者を対象とした調査（新入生保護者調査）」

平成30年度学部入学生の保護者486名。有効回答数384名（入学者のうち79.0%）。

- **実施主体：**国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

- **個人情報について：**

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めている。

(詳細は、http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html 参照)

調査票は、大学で付けたID番号で管理をし、回答者の氏名や住所などは記載せずに回答・返送を求めた。

参考文献

ベネッセ教育総合研究所（2009）

「第1回 大学生の学習・生活実態調査報告書[2008年]」

<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail/1.php?id=3161>

日本学生支援機構（2018）

「平成28年度 学生生活調査」

http://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/12.html

お茶の水女子大学（2017a）

「平成29年度 新入生の生活に関する調査報告書」

お茶の水女子大学（2017b）

「平成28年度 新入生の生活に関する調査報告書」

総務省統計局（2011）

『平成22年国勢調査』

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センター（2008）

「全国大学生調査 第一次～第三次調査 基礎集計表」

http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/kiso2008_01.pdf

全国大学生生活協同組合連合会（2018）

「第53回 学生生活実態調査の概要報告」

<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>

第1章 「新入生調査」の結果

第1章では、新入生387名に対する調査結果について報告する。

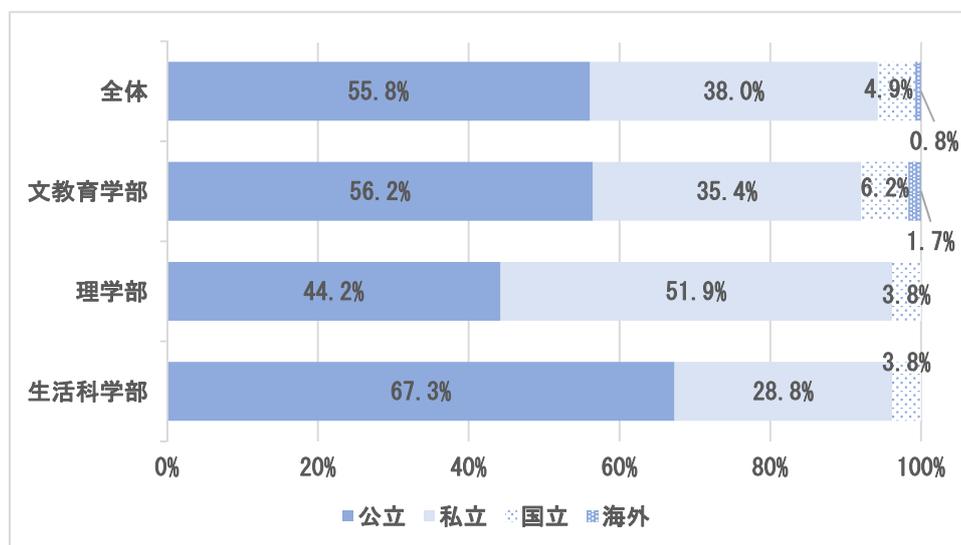
(1) 出身高校

はじめに出身高校について①設置者、②種類、③学科を示す。図表では新入生全体と学部別の内訳を示した。

① 設置者

図表 1-1 に出身高校の設置者についての結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

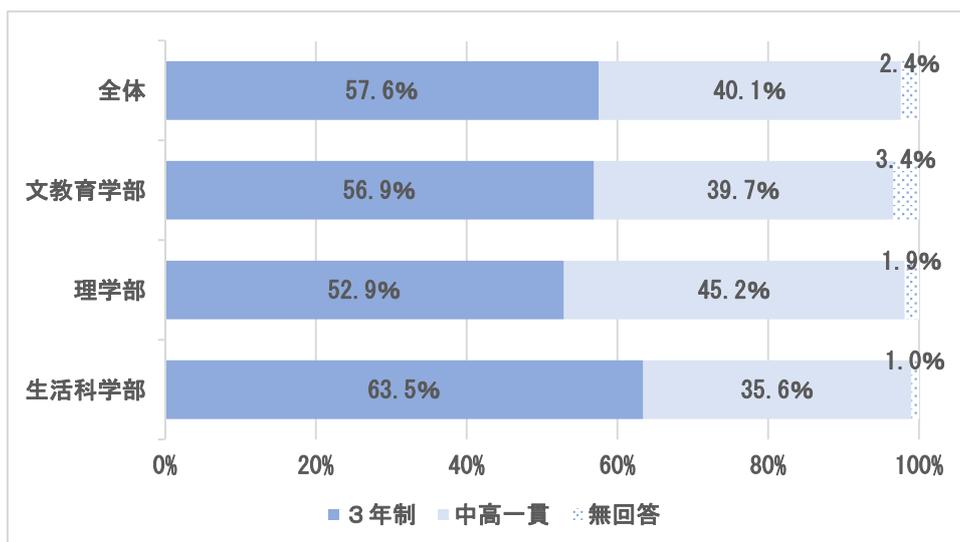
全体では、「公立」55.8%、「私立」38.0%、「国立」4.9%、「海外」0.8%であった。学部別では、生活科学部は「公立」の割合が高く(67.3%)、理学部は「私立」の割合が高い(51.9%)。平成28年度からの結果と比較すると、全体として「公立」の割合が低下する傾向と、理学部において「私立」の割合が上昇する傾向が見られた(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。



図表 1-1 出身高校の設置者

② 種類

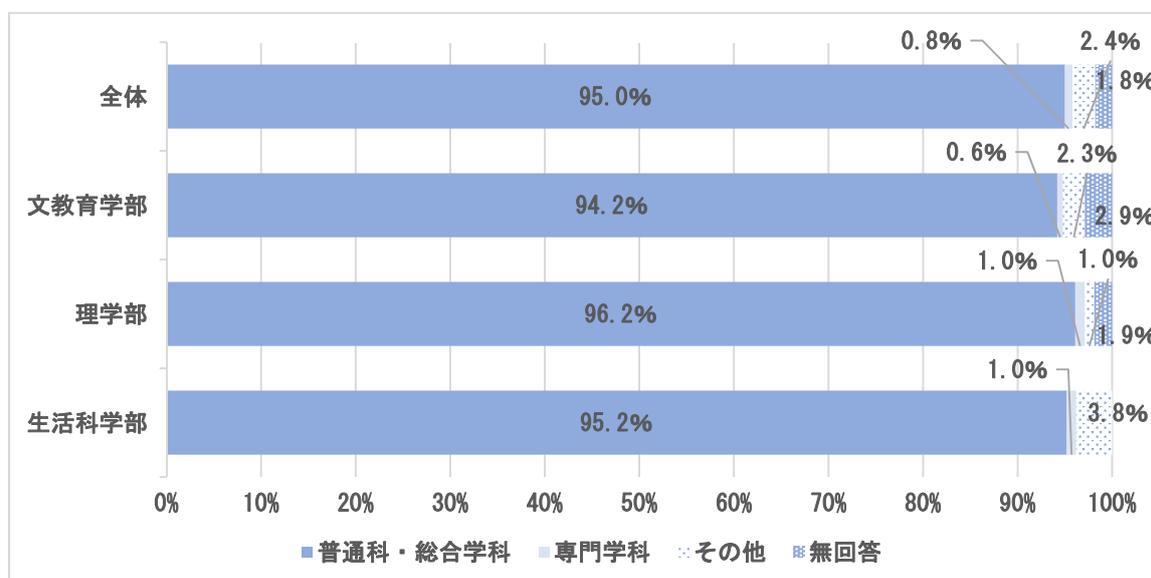
図表 1-2 に出身高校の種類について、「3年制」「中高一貫」の別に示す。全体では、「3年制」が57.6%、「中高一貫」40.1%であり、文教育学部では、平成29年度および平成28年度と比較し、「中高一貫」が増加する傾向がみられた(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。



図表 1-2 出身高校の種類

③ 学科

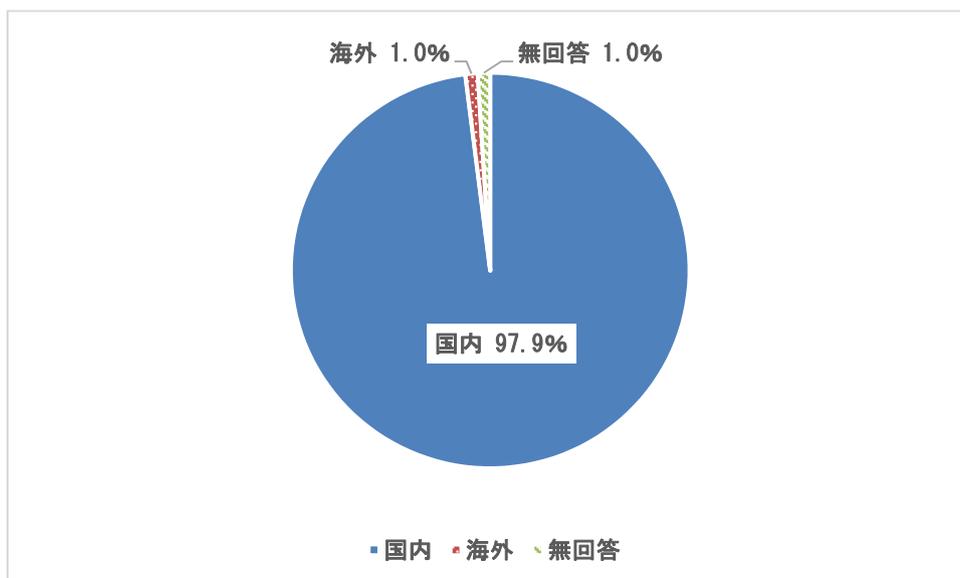
図表 1-3 に出身高校の学科を「普通科（理数科も含む）・総合学科」「専門学科（商業・工業、家庭、農業科など）」「その他」別に示す。全体の95.0%が「普通科・総合学科」であり、学部間の差異はない。この傾向は、平成29年度および平成28年度においても同様であった。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の97.9%が「国内」であり、1.0%が海外の高校を卒業している。これは、平成29年度においても同様の傾向であった。



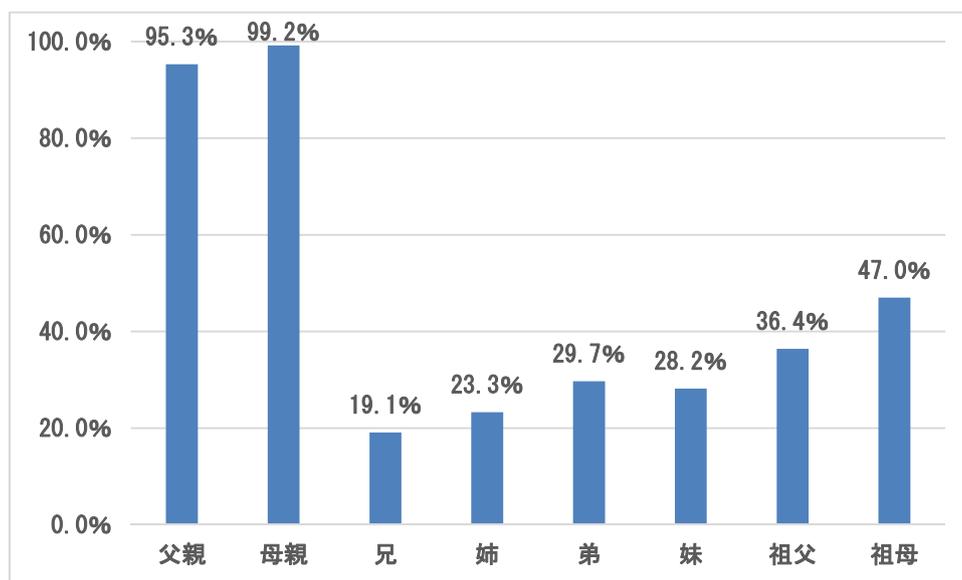
図表 1-4 出身高校の所在地

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②きょうだい数について示す。

① 家族の構成

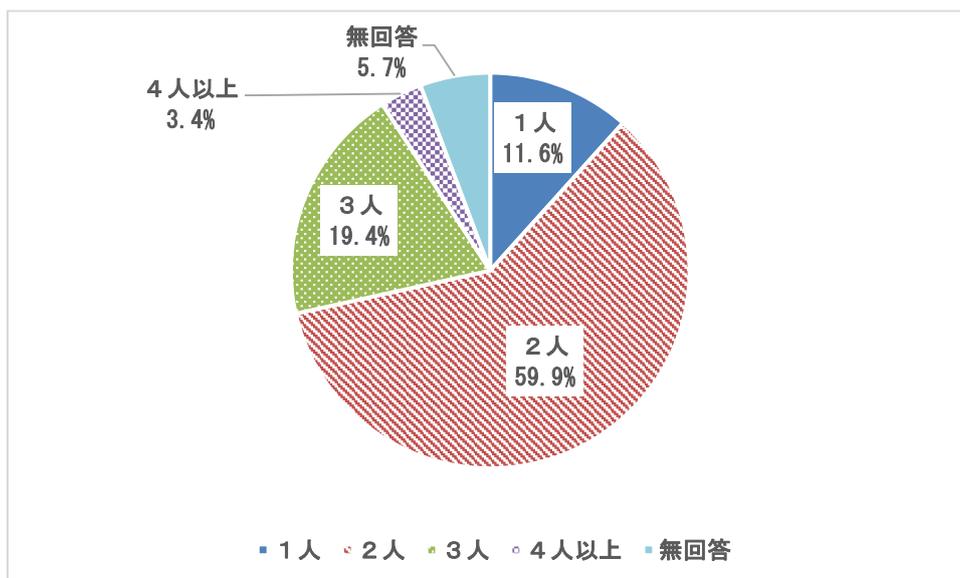
図表 2-1 に新入生の家族構成に関する結果を示す。同居を問わず家族構成について、複数選択可として回答を得た。家族の構成について、平成 29 年度や平成 28 年度からの変化は見られなかった。



図表 2-1 家族構成

② 高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数

図表 2-2 は自分を含めたきょうだい数を尋ねた結果である。2 人きょうだいの割合が最も高く (59.9%)、3 人きょうだいも 19.4%であった。



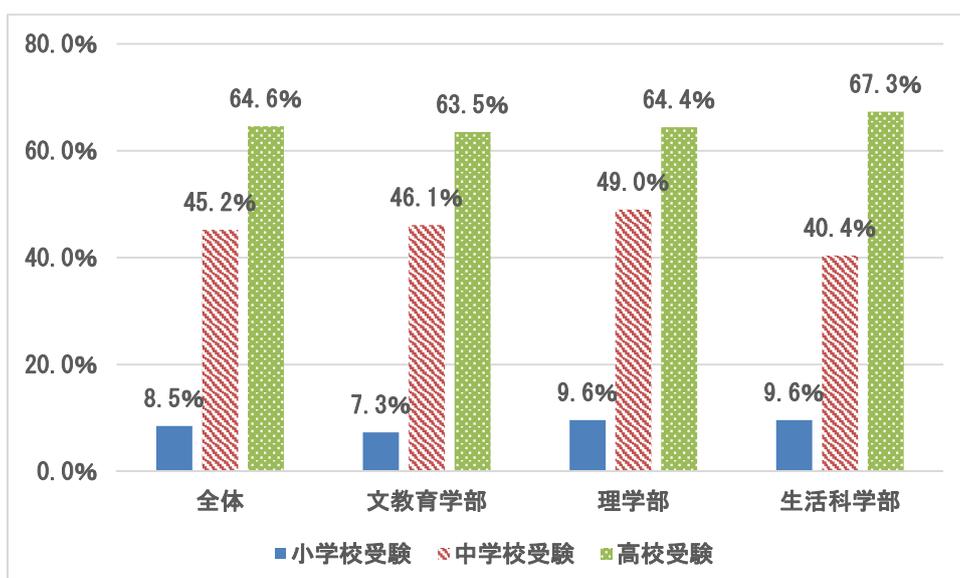
図表 2-2 自分を含めたきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

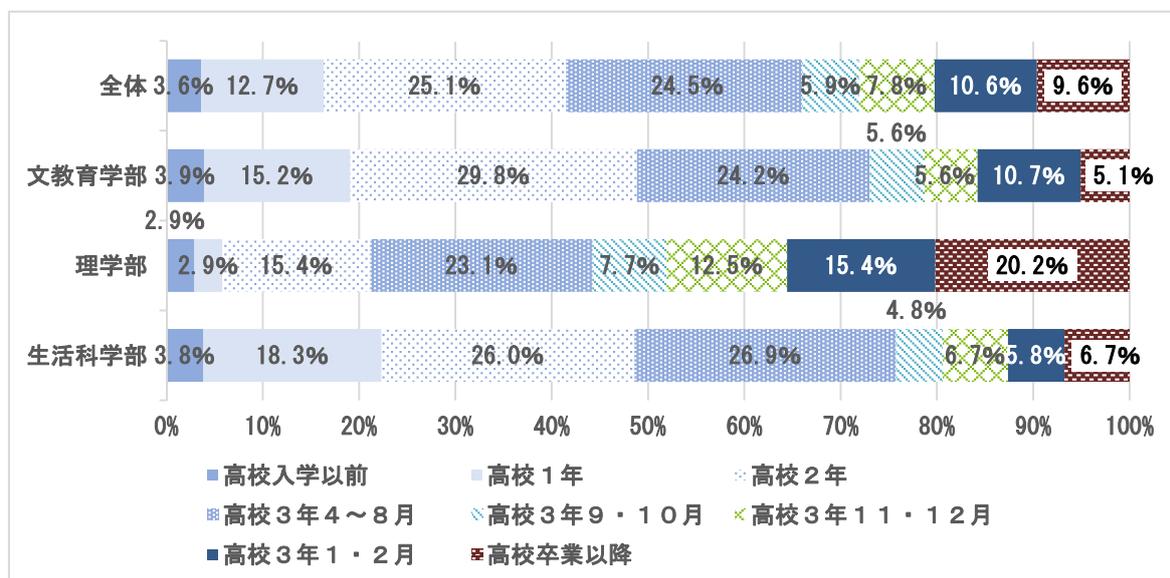
図表 3-1 は、これまでの受験経験について尋ねた結果である。全体の 8.5%が小学校受験を、45.2%が中学受験を、64.6%が高校受験を経験していた。この傾向は平成 29 年度および平成 28 年度においても同様であった(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。「第 1 回 大学生の学習・生活実態調査」における全国の大学生の中学受験経験率 18.8% (ベネッセ教育研究開発センター 2008, p.41)との比較では、本学の新入生の中学受験経験率は高い方に偏る傾向があった。



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

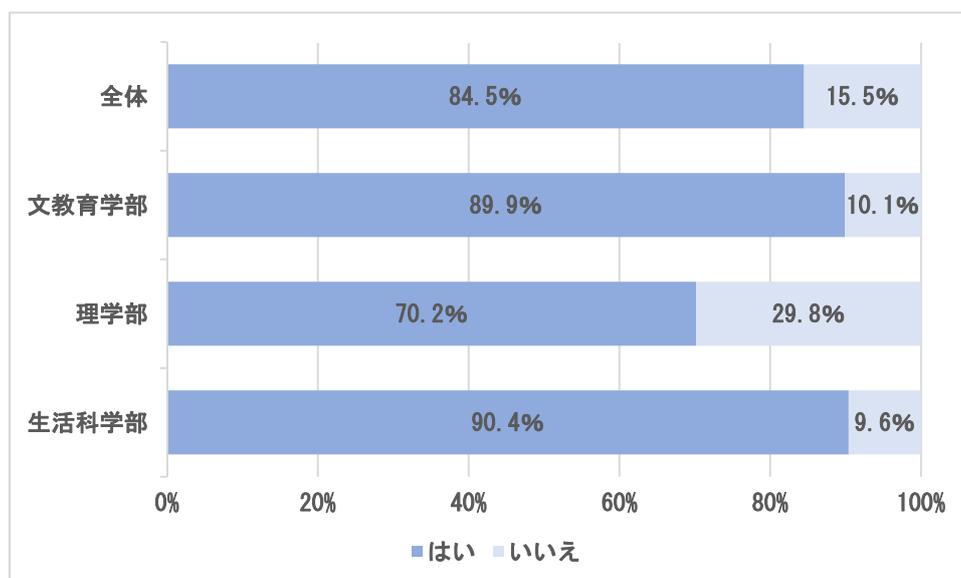
本学の受験を決めた時期について、その時期を尋ねた結果が図表 3-2 である。全体では「高校 2 年」25.1%および「高校 3 年 4～8 月」24.5%が高い。学部別では、理学部は平成 29 年度に比べて高校 1 年の割合が約 10 ポイント低下し、高校卒業以降の割合が約 7 ポイント増加しており(お茶の水女子大学 2017a)、高校 3 年以降に本学の受験を決めた割合が多いという特徴が見られた。



図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体でみると 84.5%の新入生が本学を第一志望としており依然高いが、平成 29 年度からは約 2 ポイント、平成 28 年度からは約 6 ポイント低下している(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。学部別では、文教育学部、生活科学部は 9 割程度の新入生が本学を第一志望と回答しているのに対して、理学部の第一志望の割合は 70.2%で、平成 29 から 7.2%ポイント、平成 28 年度からは 8.4 ポイント低下した。

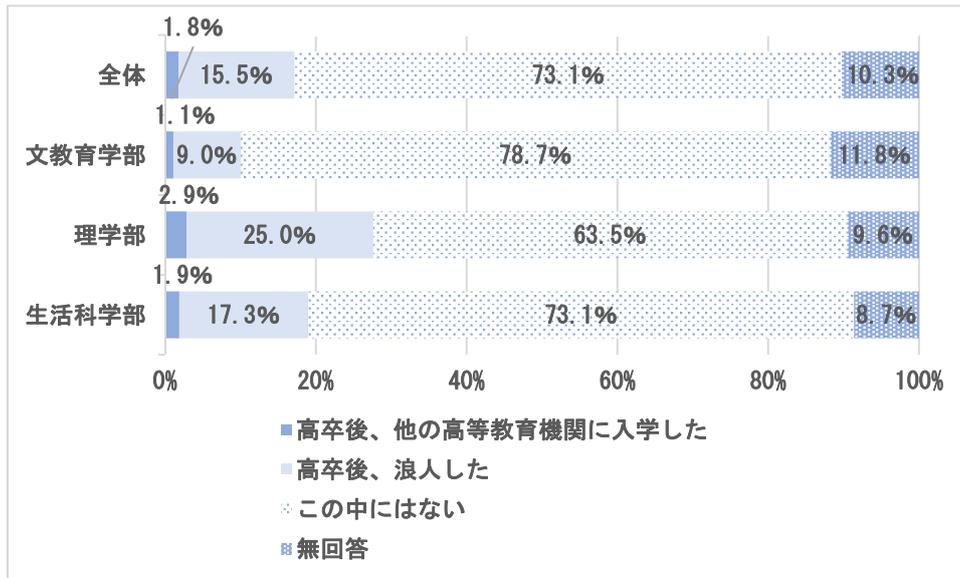


図表 3-3 本学の第一志望の度合い

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-4 である。

「浪人」は全体で 15.5%であり、「この中にはない」が全体の 73.1%であった。浪人の割合は平成 29 年度と大きな違いはない。学部別では浪人の割合が異なり、文教育学部が 9.0%と少なく、生活科学部は 17.3%、理学部は 25.0%であるが、このような学部ごとの傾向は平成 29 年度・平成 28 年度も同様である。今年度の新入生においても昨年度と同様に、高校卒業から調査時点までの間に海外留学をしたものはいなかった。



図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

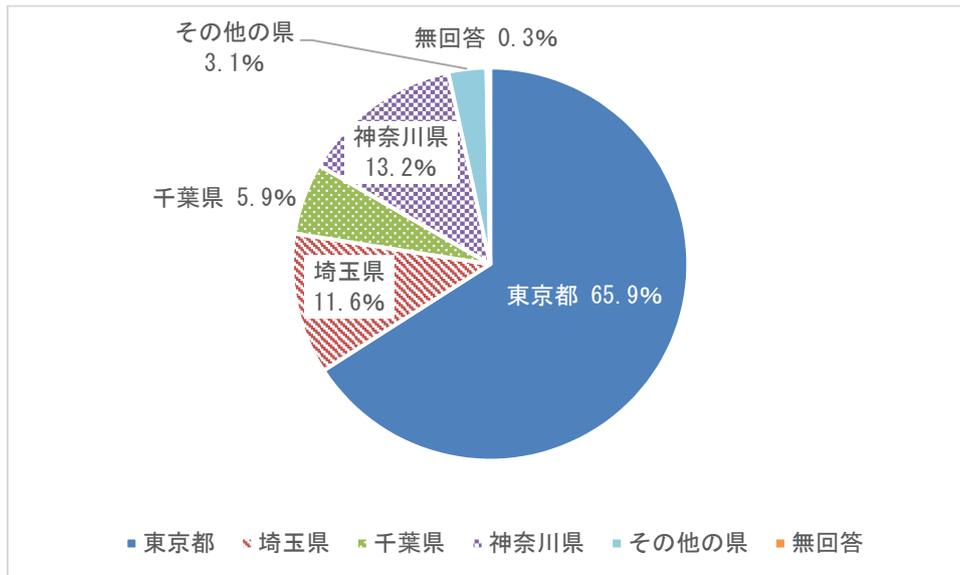
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定についての調査結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1 か月の家賃の予算、④1 か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧大学生活での不安・心配事、⑨本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

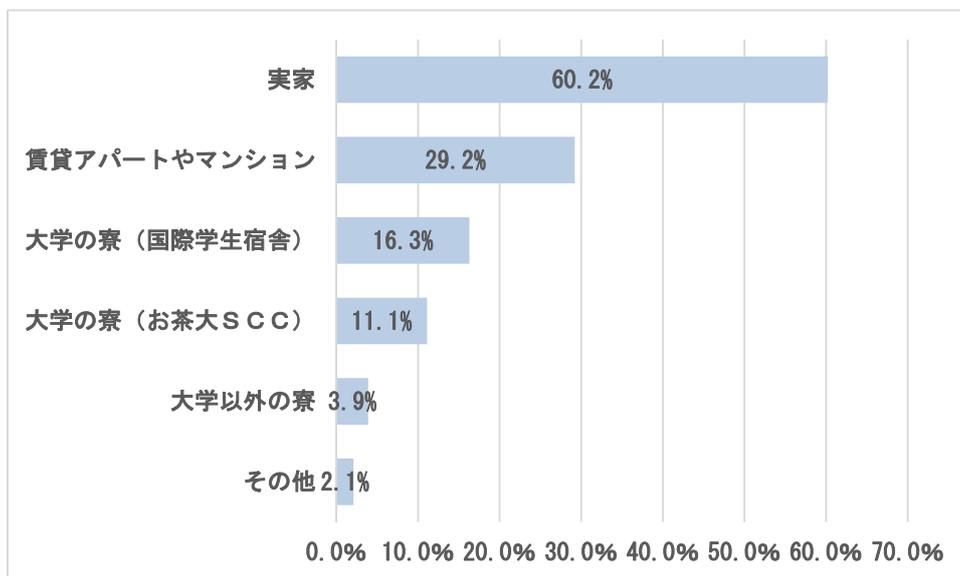
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について示す。全体では、東京都が 65.9%と最も高く、神奈川県、埼玉県、千葉県と続く。昨年度は埼玉県が神奈川県を上回っていたが、例年と同様の傾向である



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

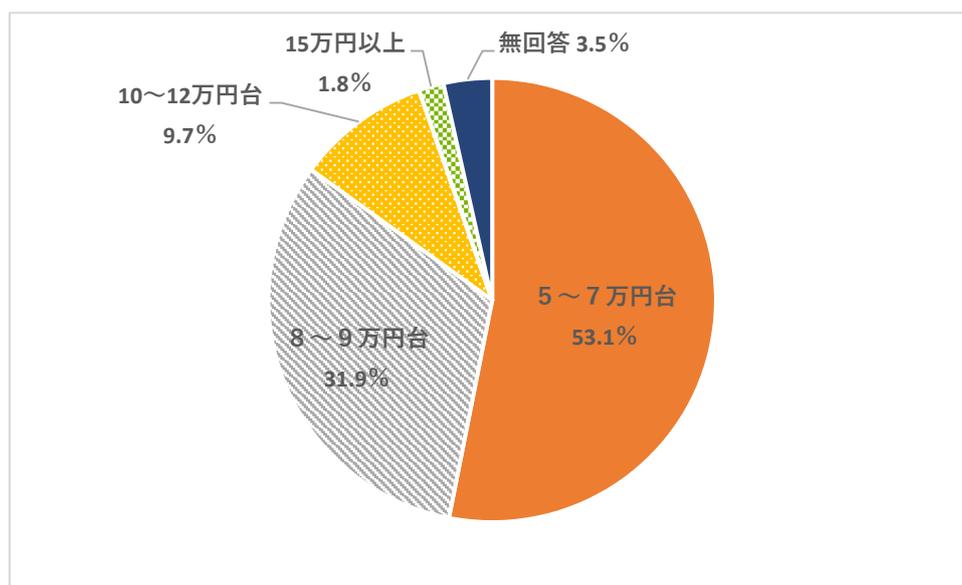
図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果である。全体では「実家」が 60.2% を占め、次いで「賃貸アパートやマンション」 29.2%、「国際学生宿舎」 16.3%、「お茶大 SCC」 11.1% といった学生寮が続く。実家と回答した人の割合は、平成 29 年度 54.2% であり、今年度は実家の割合がやや上昇する傾向が見られた。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である¹。「5～7万円」が53.1%と最も多く、次いで「8～9万円」31.9%である。両者を合わせると8割超の学生が1か月の家賃として5～9万円を予定していることがわかる。平成29年度と比較すると「8～9万円」の割合が約4ポイント上昇、「10～12万円」の割合も約4ポイント上昇する傾向が見られた(お茶の水女子大学2017a)。



図表 4-3 1か月の家賃（管理費込み）の予算

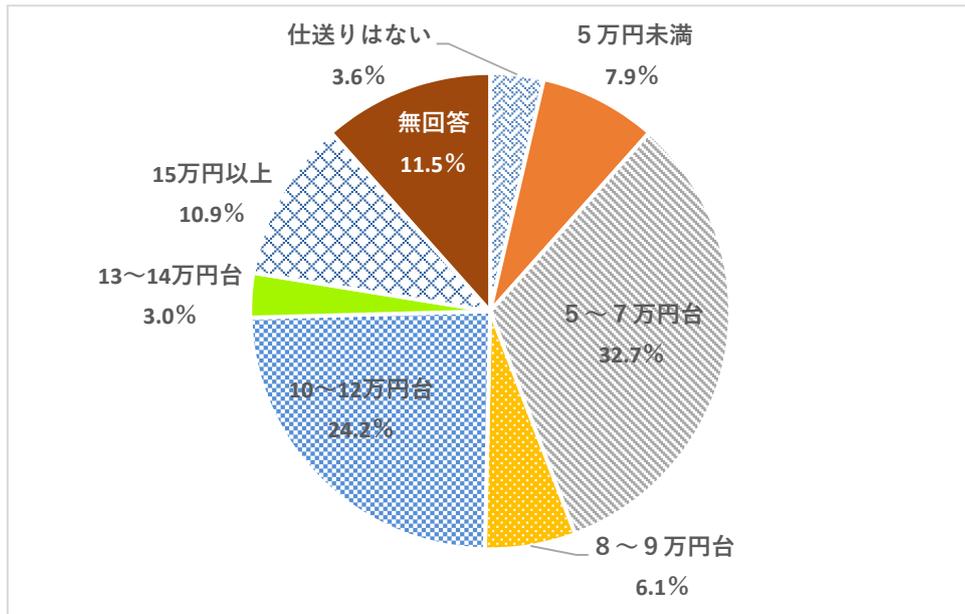
④ 1か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 は、1か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である²。「5～7万円台」が32.7%と最も多く、次に「10～12万円」24.2%となっており、例年と同様である。しかし、各カテゴリーの変化を詳細に見ると、「仕送りがない」新生入生は、平成28年度は9.9%、平成29年度は8.7%、平成30年度3.6%と減少する傾向が見られ、10万円以上の仕送りがある割合は、平成28年度31.1%、平成29年度34.3%、平成30年度38.1%と上昇する傾向が確認できた(お茶の水女子大学2017a; 2017b)。

なお「第53回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生生活協同組合連合会2018）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が5～10万円の学生の割合が最も多く(37.2%)増加傾向にある。また、仕送り10万円以上は30.9%、仕送り0の割合は7.1%、5万円未満は15.5%となっている。この調査との比較において、本学学生の仕送り金額は、全国の大学生の平均的な水準よりもやや多いといえる。

¹ 本分析の対象者数は112名である。

² 本分析の対象者数は165名である。

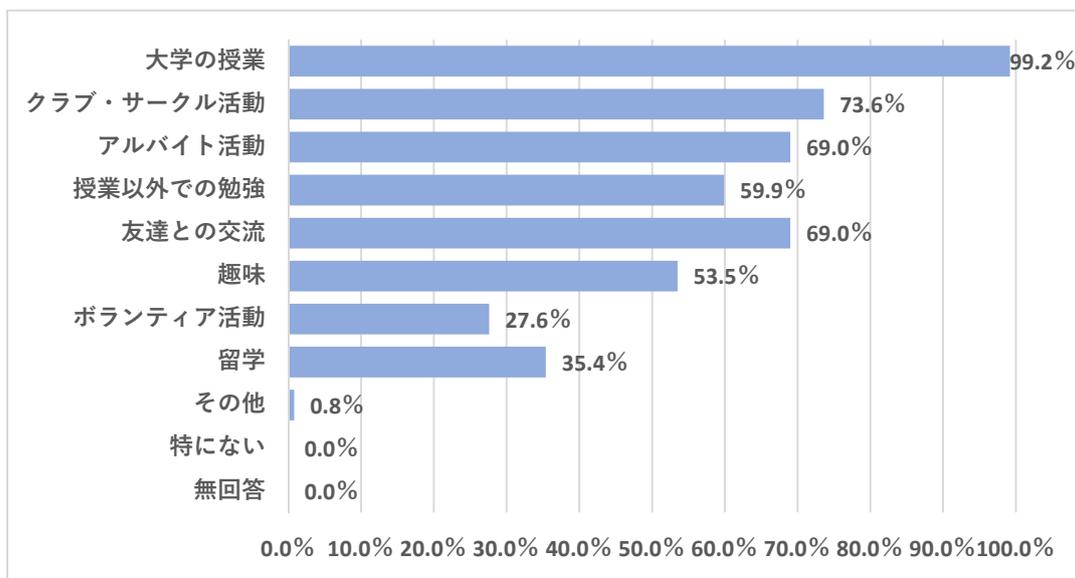


図表 4-4 1 か月あたりの仕送り予定額

⑤ 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

図表 4-5 に、入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が 99.2%と例年通り最も高い。続いて、「クラブ・サークル活動」73.6%、「友達との交流」「アルバイト活動」が 69.0%と全体の7割程度になっている。

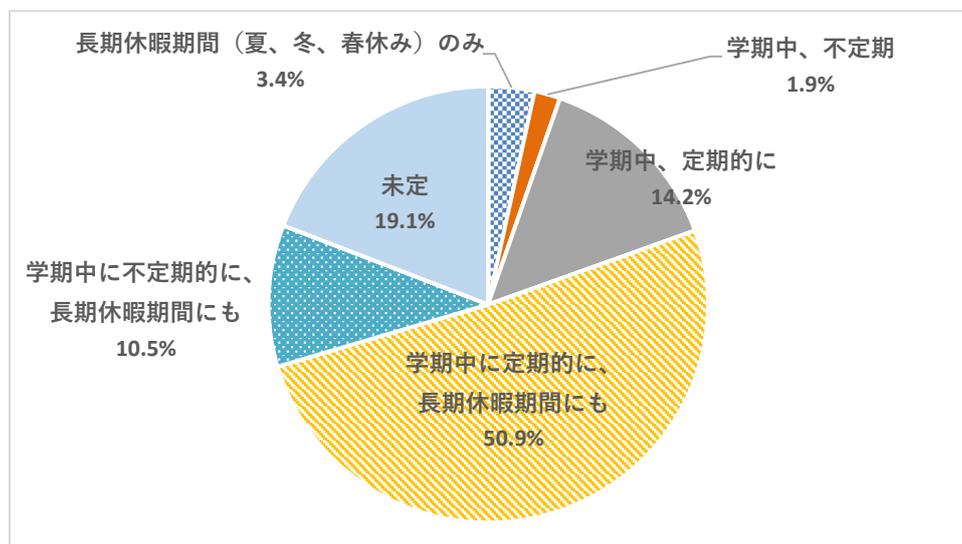
一方、平成 29 年度の調査から加えた「留学」は、平成 29 年度が 25.2%、平成 30 年度は 35.4%と増加している。また、相対的に割合は小さいもののボランティア活動をあげる学生も増加する傾向が見られた(お茶の水女子大学 2017a)。



図表 4-5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

⑥ アルバイト活動の予定

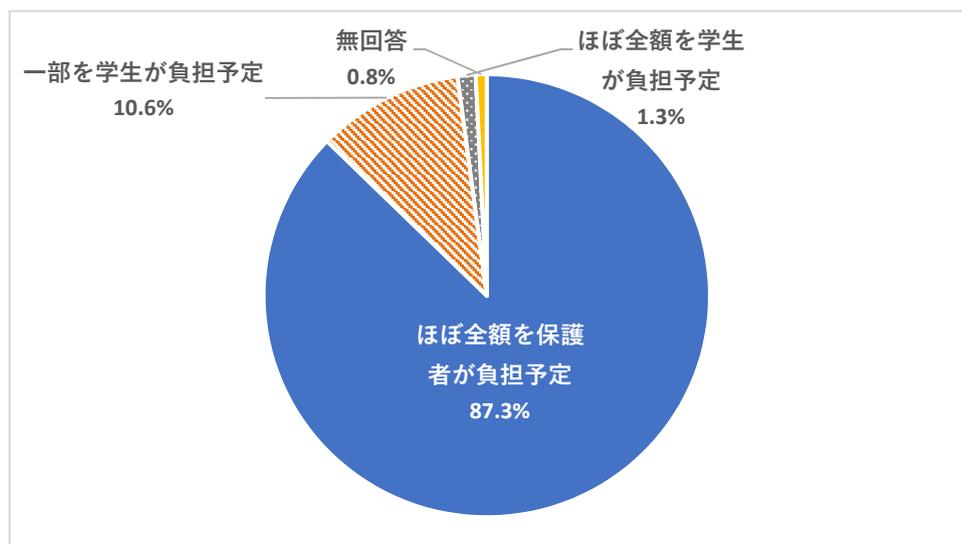
図表 4-6 は、入学後にアルバイト活動を予定している者に対して、具体的な活動時期や仕方を尋ねた結果である³。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」50.9%であり、「学期中に定期的に」14.2%と合わせると 65.1%になった。この傾向は平成 29 年度・平成 28 年度も同様であった。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 は、授業料の負担予定について尋ねた結果である。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 87.3%と高く、平成 29 年度・平成 28 年度に比べて約 3 ポイント増加した(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。「一部を学生が負担（奨学金、アルバイトなどを含む）」は 10.6%、「ほぼ全額を学生が負担」する新入生は 1.3%であった。



図表 4-7 授業料の負担予定

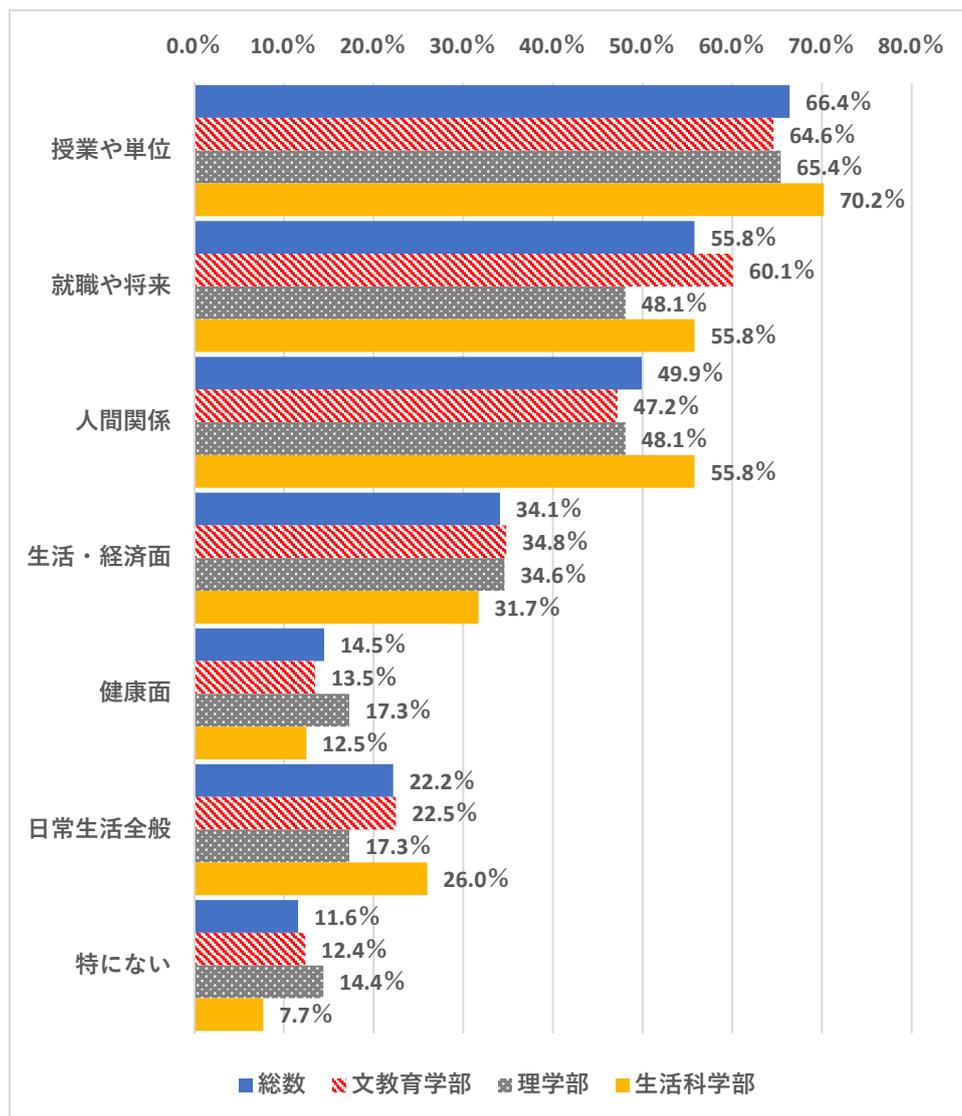
³ 本分析の対象者数は 267 名である。

⑧ 大学生活での不安・心配事

図表 4-8 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果である。

最も高い割合を示したのは「授業や単位」(66.4%)で、「就職や将来」(55.8%)、「人間関係」49.9%が続く。これら上位3項目の割合は例年とほぼ同様である。学部別では、「授業や単位」「人間関係」について生活科学部の割合がやや高く、文教育学部は「就職や将来」についての回答が6割を超え、他学部より高い傾向が見られた。

一方、「特にない」は全体の11.6%で平成29年度より5ポイント高かったが、学部別では生活科学部で7.7%とやや低かった。



図表 4-8 大学生活が始まって心配なこと

さらに図表 4-9 から図表 4-15 に大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ちについて4件法で尋ねた結果を示す。図 4-9 「友達ができるか」について心配事として「あてはまる」「ある程度あてはまる」と回答した新入生は、全体の7割近くであった。同様に、「大学になじめるか」を不安に思う割合は、全体で6割超となった(図表 4-10)。

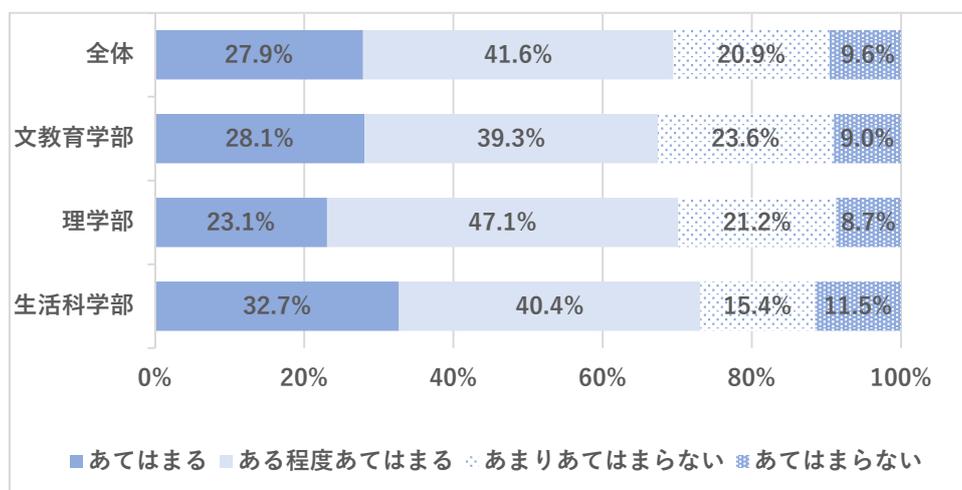
図表 4-11 「金銭面で負担がかからないか」は、全体で「あてはまる」20.2%、「ある程度あては

まる」37.5%となっており、この割合は理学部で低い傾向が見られた。

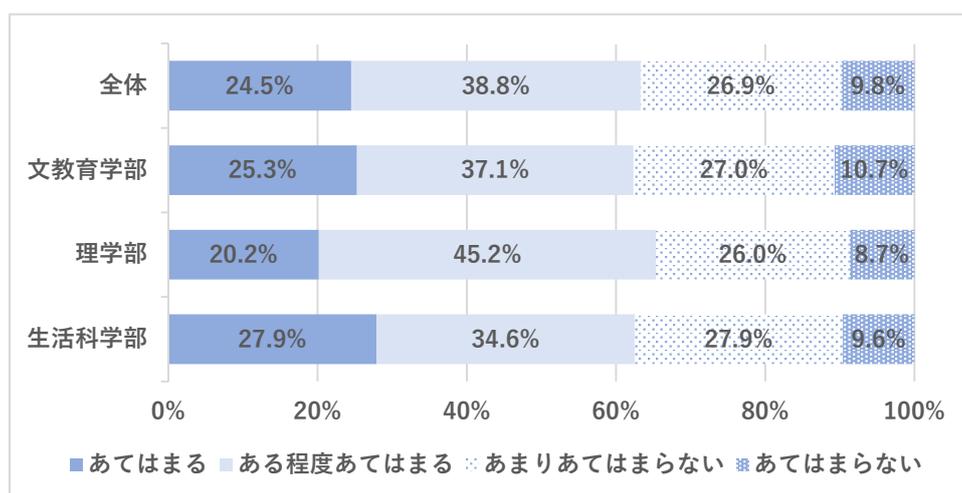
図表 4-12 「授業についていけるか」については、「あてはまる」32.0%、「ある程度あてはまる」43.7%で合計75.5%と、調査したすべての項目の中で最も高かった。図表 4-13 「進級や卒業ができるか」について「あてはまる」「あてはまらない」と回答した割合は49.3%である。

図表 4-14 「将来の目標が見つかるか」は、22.7%、29.7%と全体の約半数であり、「卒業後ちゃんと就職できるか」は30.5%、37.5%と約7割であった。

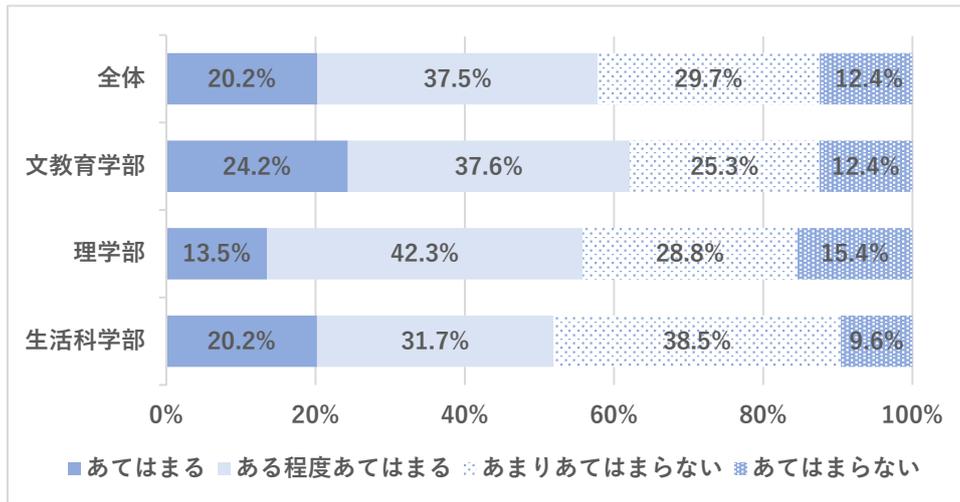
いずれの項目についても、新入生の半数以上は不安を抱えており、特に、友達、授業、就職に対する不安がより大きい傾向が見て取れる。また、学部別には、文教育学部はいずれの項目においても「あてはまる」に回答する割合が高い傾向があった。生活科学部は、友達や大学へなじめるかについて「あてはまる」と回答する割合が高かった。



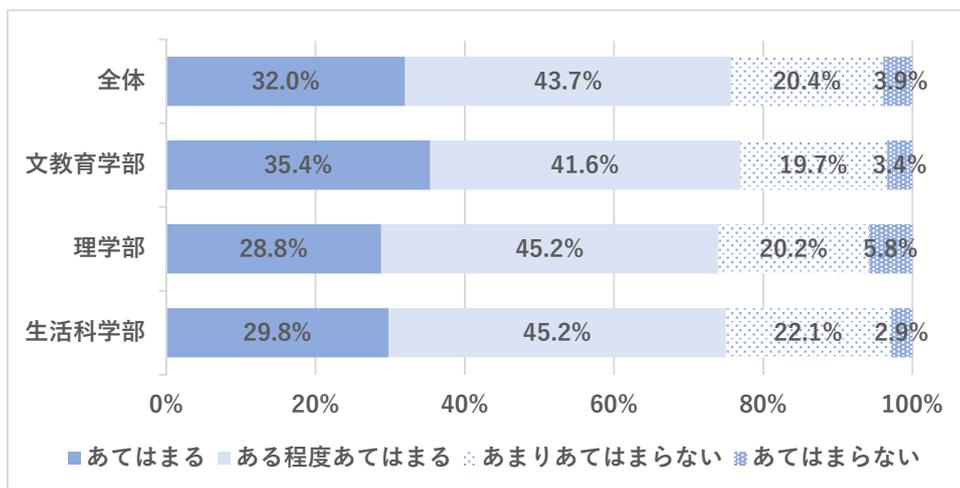
図表 4-9 友達ができるか



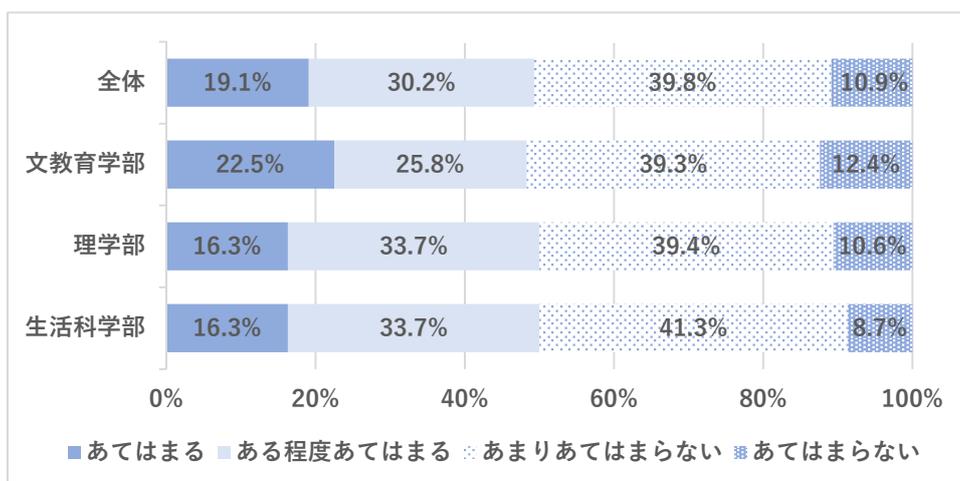
図表 4-10 大学になじめるか



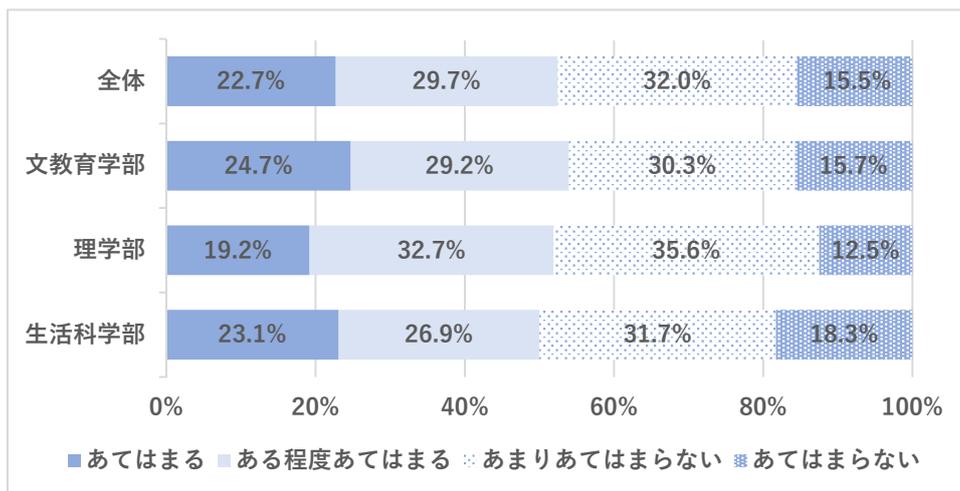
図表 4-11 金銭面で負担がかからないか



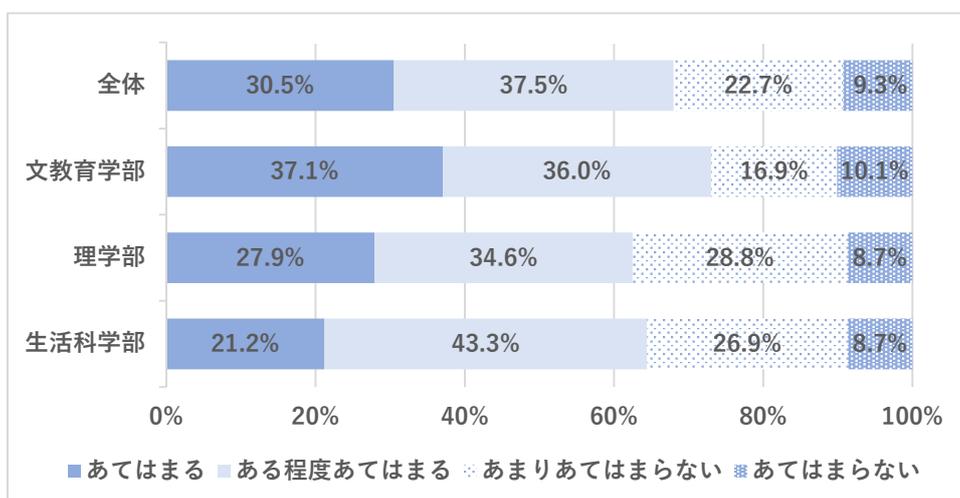
図表 4-12 授業についていけるか



図表 4-13 進級や卒業ができるか



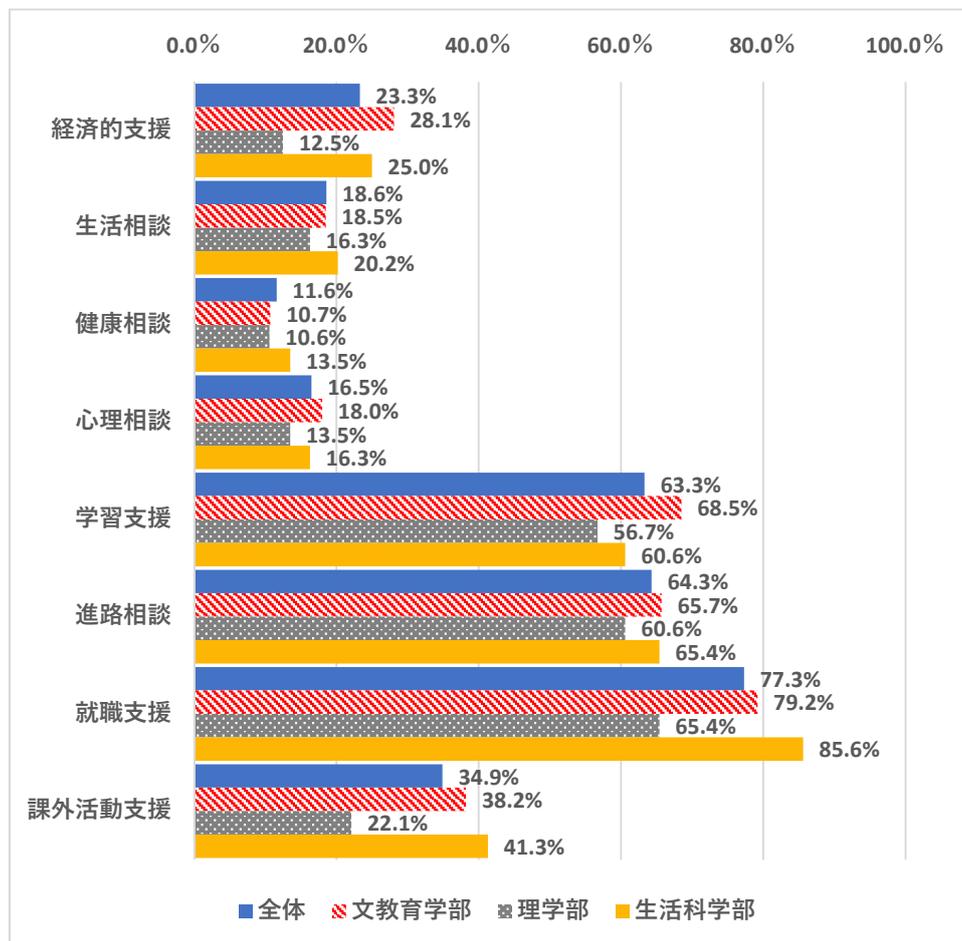
図表 4-14 将来の目標が見つかるか



図表 4-15 卒業後ちゃんと就職できるか

⑨ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-16 は、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。全体では「就職支援」が 77.3%と最も高く、次いで「進路相談」64.3%、「学習支援」63.3%となっている。この傾向は平成 29 年度も同様である。学部別では、いずれの活動においても理学部の割合が低く、特に他学部との差異が大きいのは、「就職支援」、「課外活動支援」、および「経済的支援」であった。



図表 4-16 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

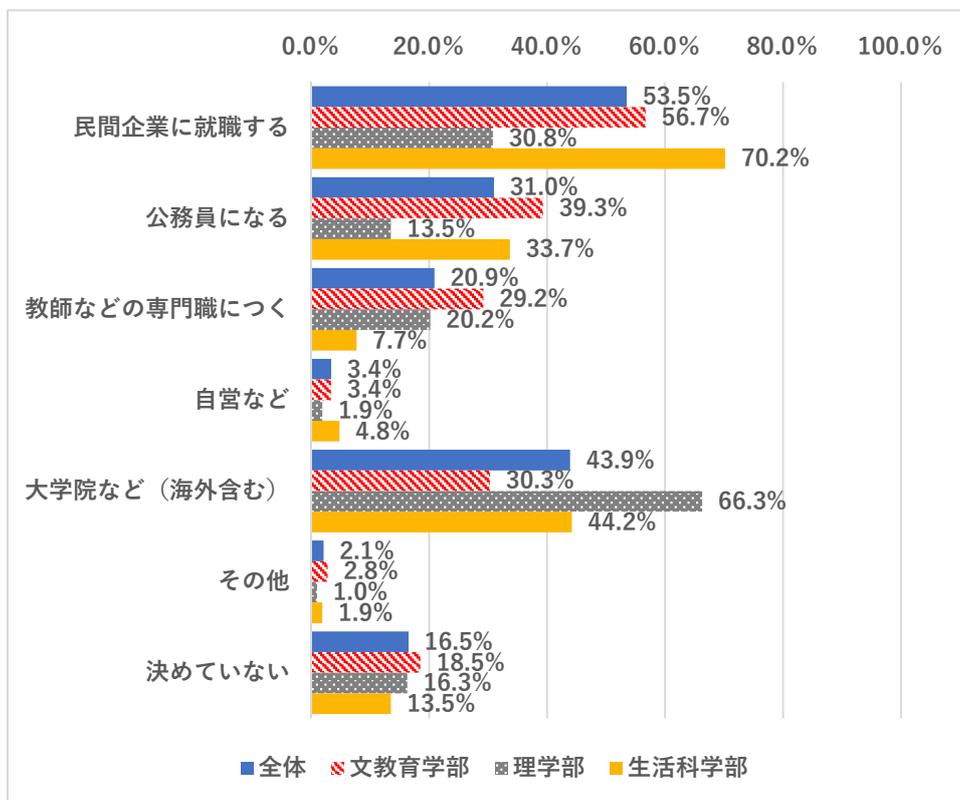
本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、複数回答可として尋ねたものである。

全体で見ると、「民間企業」が最も高く 53.5%、「大学院など（海外含む）」がそれに続いて 43.9%であった。ただし「民間企業」は生活科学部が 70.2%と高く、「大学院など（海外含む）」は理学部が 66.3%と高いといった学部間の違いがあり、これらの傾向は、平成 29 年度でも同様であった。

「公務員」を志望する新入生は全体の 31.0%、「教師など専門職」を志望する新入生は全体の 20.9%である。公務員を志望する新入生は、生活科学部、文教育学部に多く、教師など専門職は文教育学部が他学部に比べて多かった。そして、進路を決めていない学生も 16.5%ほどおり、その割合は平成 29 年度、平成 28 年度よりも 4 ポイント程度高かった。



図表 5-1 大学卒業後の進路希望

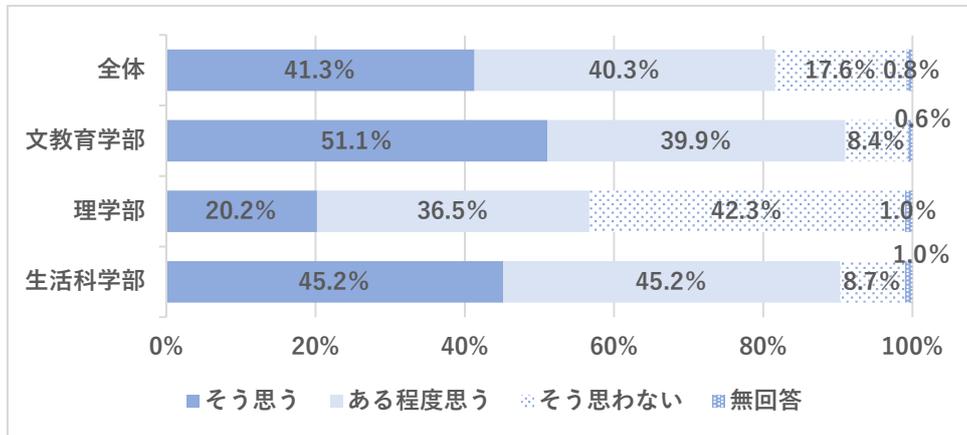
② 大学卒業後のキャリアについての考え

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センターが 2007 年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する 9 項目について 3 件法で尋ねた結果を図表 5-2 から図表 5-10 に示す。

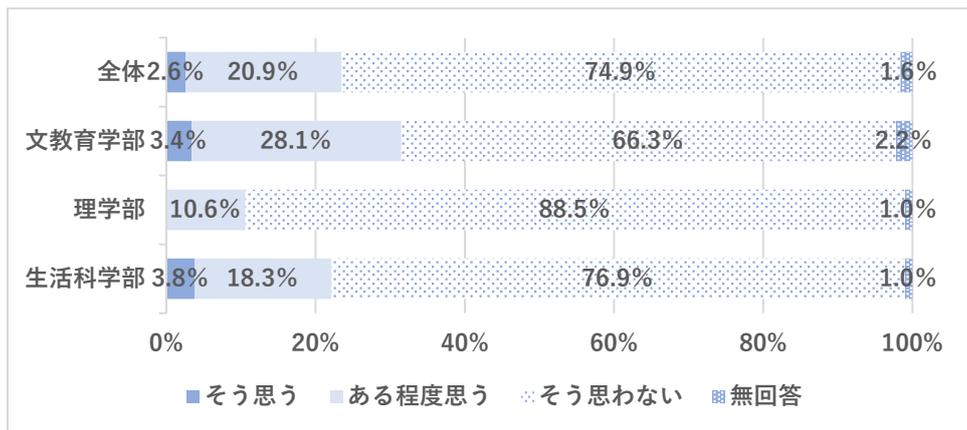
図表 5-2 から図表 5-6 は、「卒業後の進路」について尋ねた結果である。「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」について、全体で「そう思う」「ある程度思う」と回答した人（該当率）は 81.6%で、「すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない」は 23.5%である。この結果は、これまでの新入生と同様の傾向であり、新入生が大学卒業後すぐに正規雇用を志向し

ていることがうかがえる。

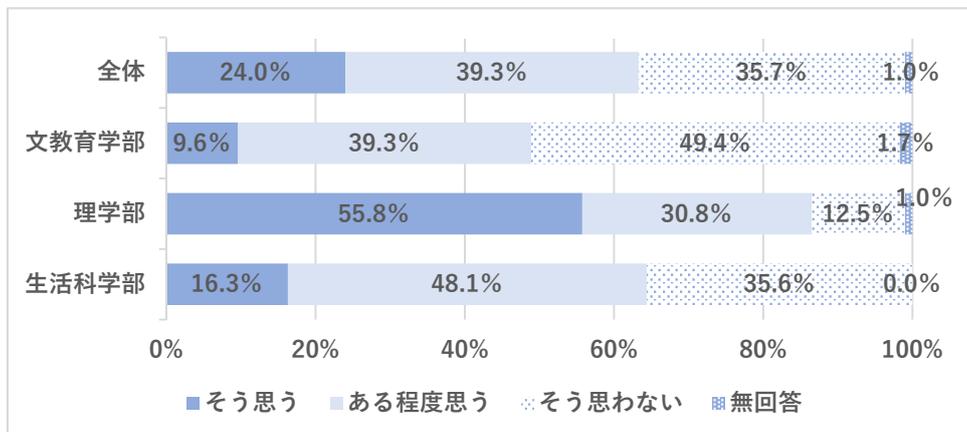
一方で、卒業直後の進学についても全体で63.3%が検討しており、その割合は理学部で特に高い(86.6%)。ただし、就職後の大学院進学は2割弱にとどまった。また、「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」と考える新入生の割合は2割を超え、「卒業後すぐに就職をしなければいけない」と考える人の割合も3割を超え、特に理学部が高かった。



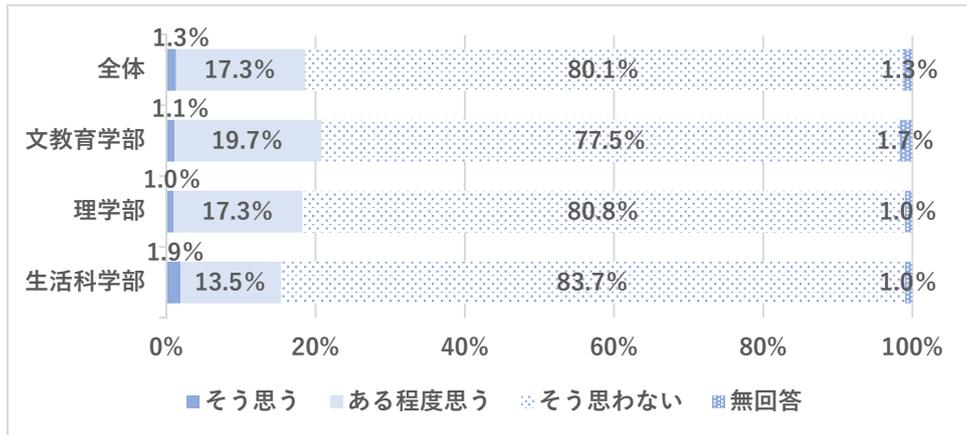
図表 5-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



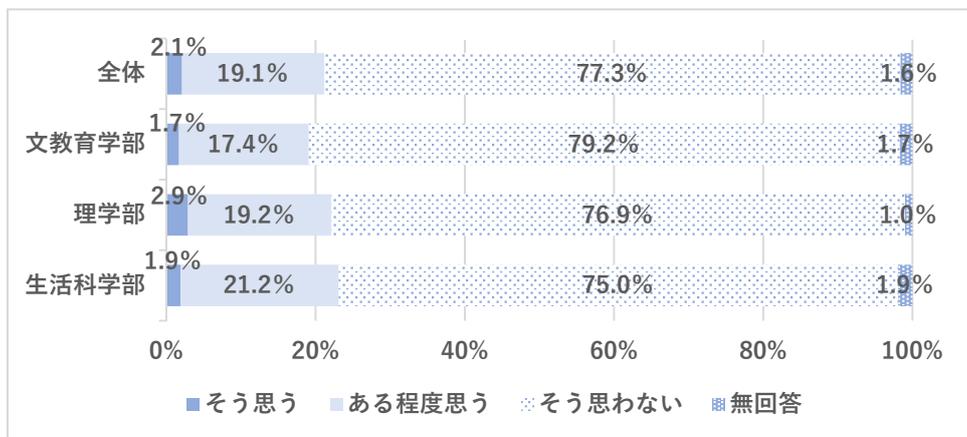
図表 5-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない



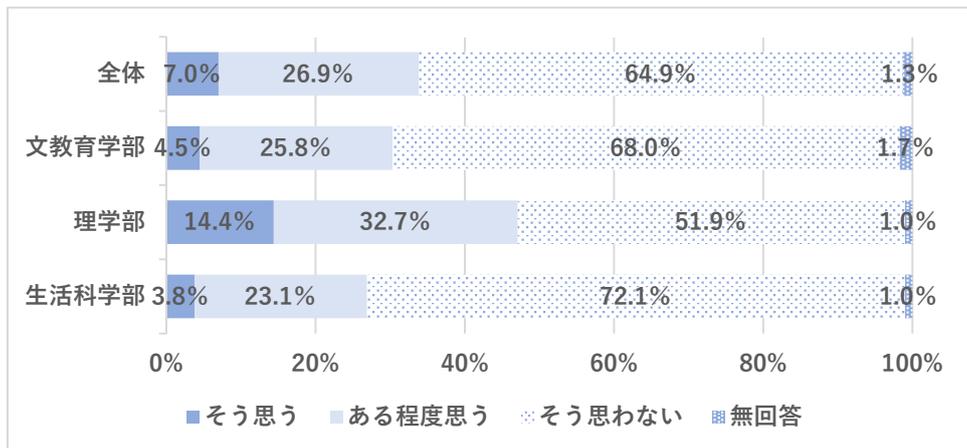
図表 5-4 すぐに大学院などに進学する



図表 5-5 就職してから大学院への進学を考える

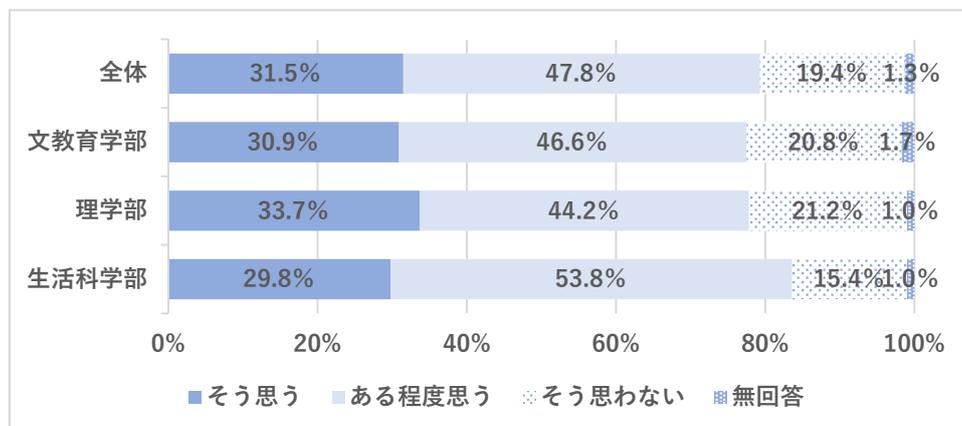


図表 5-6 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない

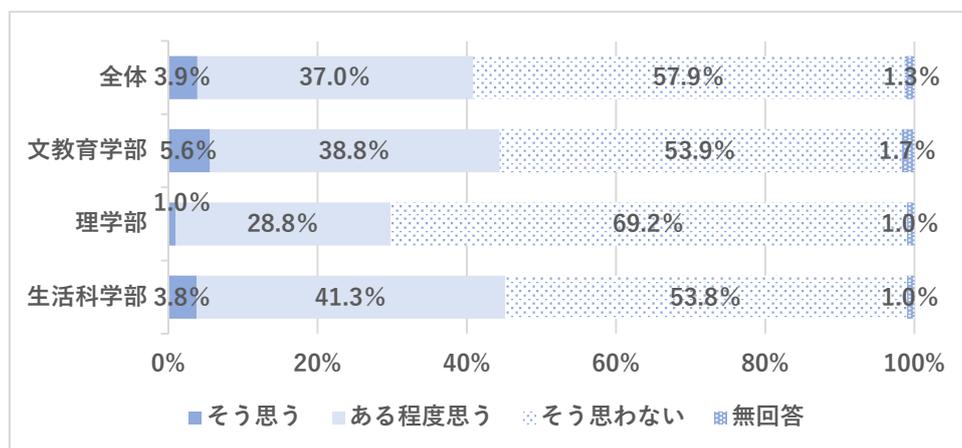


図表 5-7 卒業後すぐには就職しなくてもよい

図表 5-8 と図表 5-9 は、「就職後の勤務や退職」について尋ねた結果である。「最初の就職先にできるだけ長く勤める」と考える人は全体の 79.3%と、例年通り初職の継続意識は高かったが、平成 29 年度からは 7 ポイント低下した(お茶の水女子大学 2017a)。そして、転職や独立の意識を持つ人は全体の約 4 割にのぼった。

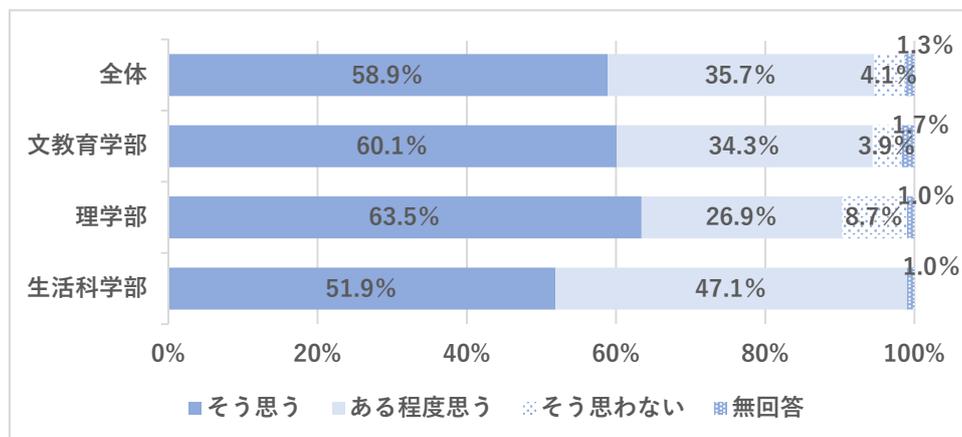


図表 5-8 最初の就職先にできる限り長く勤める



図表 5-9 何年かして転職や独立をする

図表 5-10 「結婚・出産しても仕事を続ける」の該当率は全体で 94.6%と非常に高く、この傾向は平成 29 年度と同様であった。



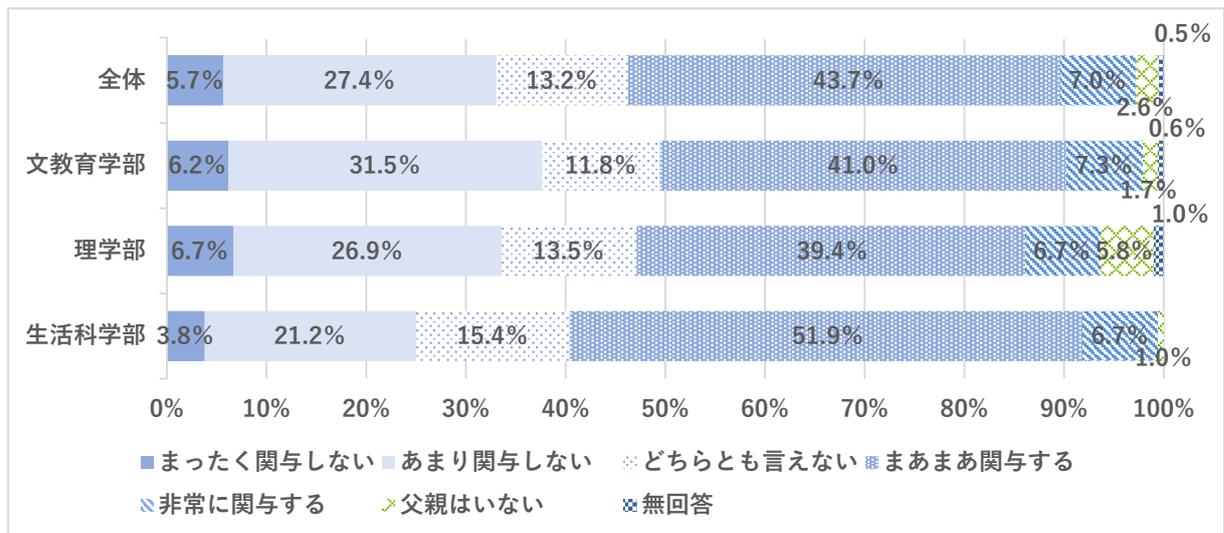
図表 5-10 結婚・出産後も仕事を続ける

③ 就職や将来に関する親の関与

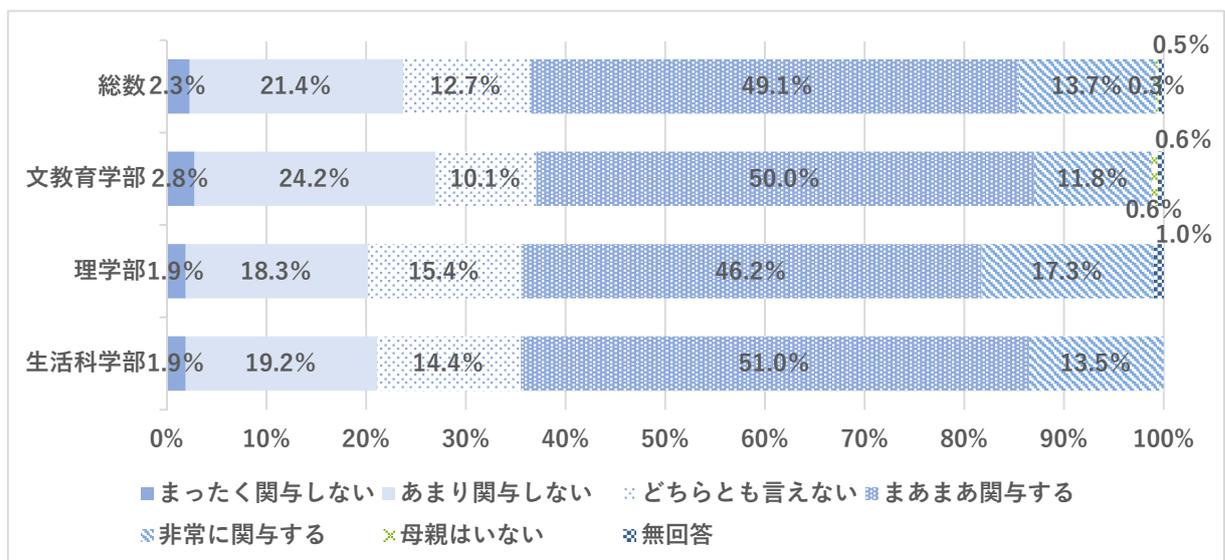
就職や将来に関する親の関与について「あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに、どれくらい関与しますか。」として5件法で尋ねた。図表 5-11 に父親の関与についての結果を、図表 5-12 に母親の関与についての結果を示す。

はじめに父親の関与について、平成 30 年度新入生は、就職や将来のことに、全体の 50.7% に父親の関与がある（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」）と回答している。同様に母親に関しては、全体の 62.8% に母親の関与があると回答した。この傾向は平成 29 年度も同様であった。

学部別では、父親の関与は生活科学部で 58.6%(51.9+6.7%)とやや高い傾向があるが、母親の関与について学部間の大きな違いは見られなかった。



図表 5-11 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-12 就職や将来のことに関する母親の関与

第2章「新入生の保護者調査」の結果

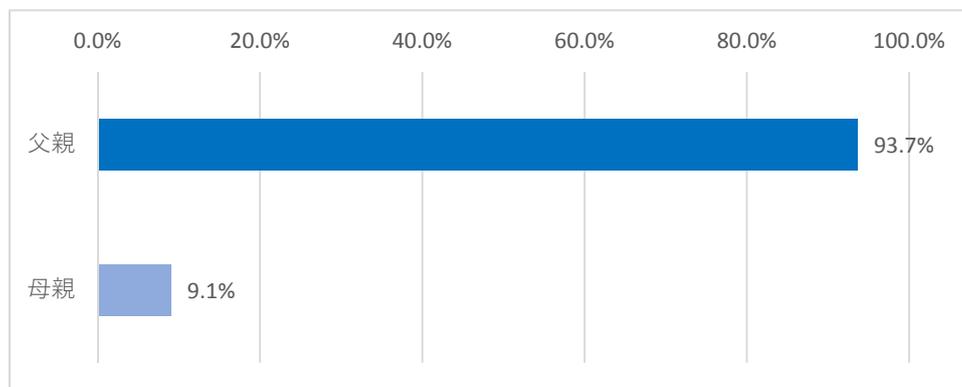
第2章では、新入生の保護者383名に対する調査結果について報告する。

(1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者の年収、④世帯年収、⑤大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

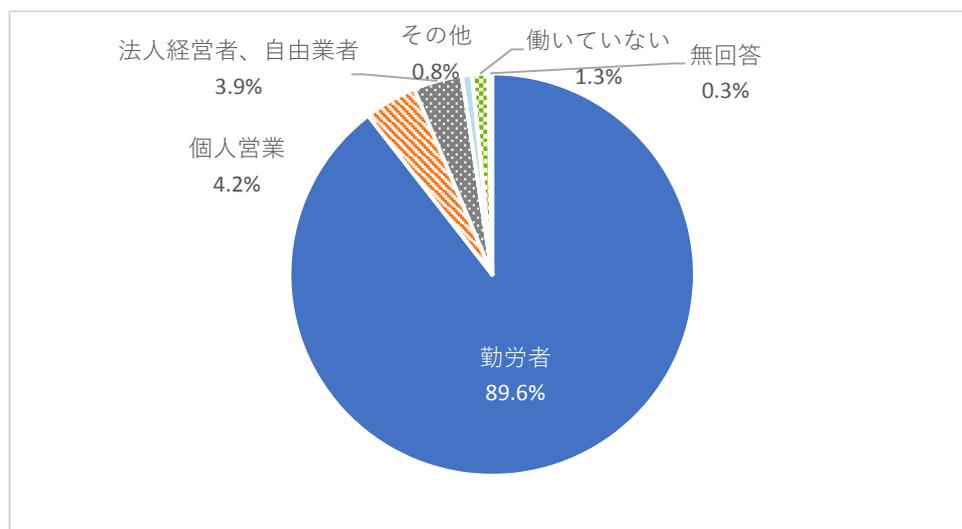
図表 1-1 は、新入生の主な家計支持者について尋ねた結果である。主な家計支持者は、全体の93.7%が「父親」、9.1%が「母親」である。複数回答を含むため、父親と母親と両方を回答した場合が含まれている。この傾向は平成29年度と同様である。



図表 1-1 家計支持者

② 家計支持者の職業

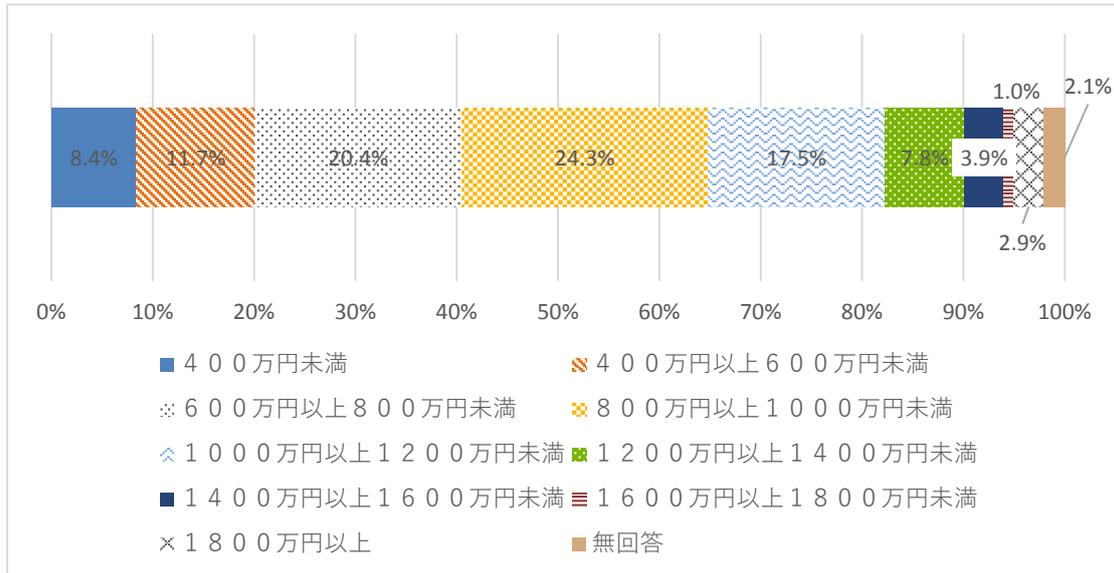
図表 1-2 に主な家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の89.6%を占め、次いで「個人営業」4.2%、「法人経営者、自由業者」が3.9%である。平成29年度新入生の保護者も同様の傾向を示した。



図表 1-2 家計支持者の職業

③ 家計支持者の年収

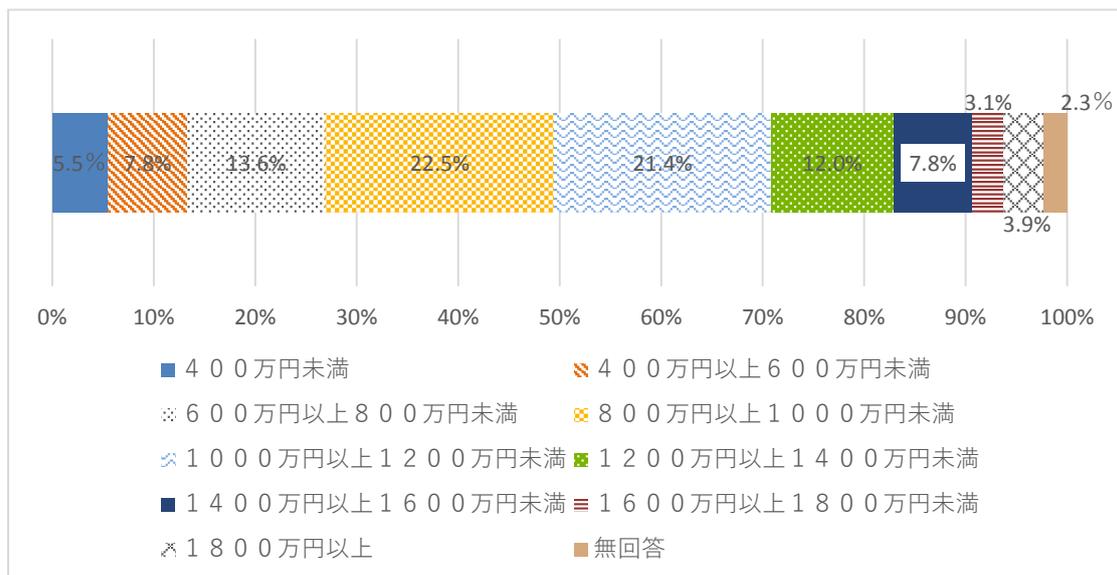
図表 1-3 に新入生の家計支持者の年収について示す。「800 万円以上 1000 万円未満」24.3%が最も多く、次いで「600 万円以上 800 万円未満」20.4%、「1000 万円以上 1200 万円未満」17.5%と続く。この傾向は平成 29 年度新入生の保護者とほぼ同様である。



図表 1-3 家計支持者の年収

④ 世帯年収

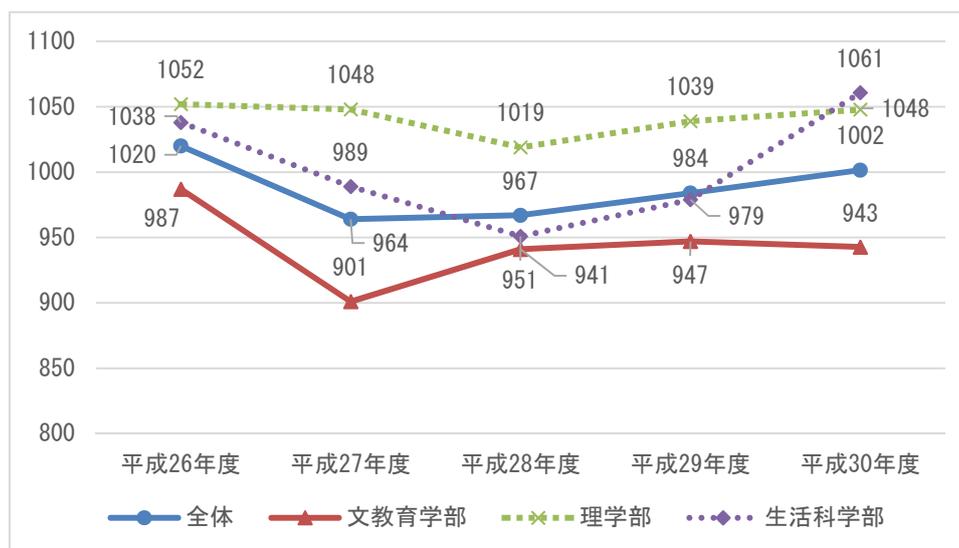
新入生の家庭の世帯年収について、家計支持者同様に尋ねた結果が図表 1-4 である。全体でみると、「800 万円以上 1000 万円未満」が 22.5%と最も高く、「1000 万円以上 1200 万円未満」21.4%、「600 万円以上 800 万円未満」13.6%がそれに続く。平成 29 年度と同様の傾向ではあるが、1000 万円以上の世帯収入の割合は 48.2%で、平成 29 年度より 3.3 ポイント上昇した(お茶の水女子大学 2017a)。



図表 1-4 世帯年収

『平成 28 年度学生生活調査』（日本学生支援機構 2018）によると、家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）について、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 26.1%、国立大学・女子では 28.7%である。それに対し図表 1-4 に示すように、本学新入生の家庭のうち、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭は少なくとも全体の 48.2%を占めており、家庭の世帯年収は全国水準に比べて、高い方に偏っている。これは、平成 29 年度新入生でも同様の傾向である。

参考として、図表 1-5 に、各カテゴリーの中央値に基づき、平成 26 年度以降の新入生の家庭の世帯年収平均（推計）の推移を示す。年度による差異はあるが、この 5 年の平均世帯年収は 1000 万円前後となっており、学部別には理学部が高い傾向が見られた。

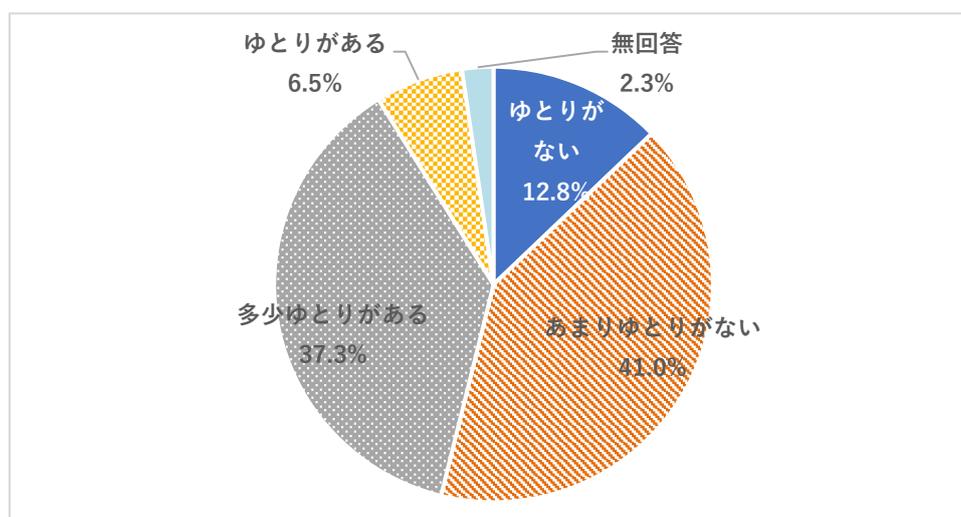


図表 1-5 世帯年収平均（推計）

⑤ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-6 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体で見ると「あまりゆとりがない」が 41.0%と最も高く、「ゆとりがない」12.8%と合わせると全体のおよそ 5 割超の家庭が「ゆとりがない」と回答している。この結果は平成 29 年度においても同様であった。



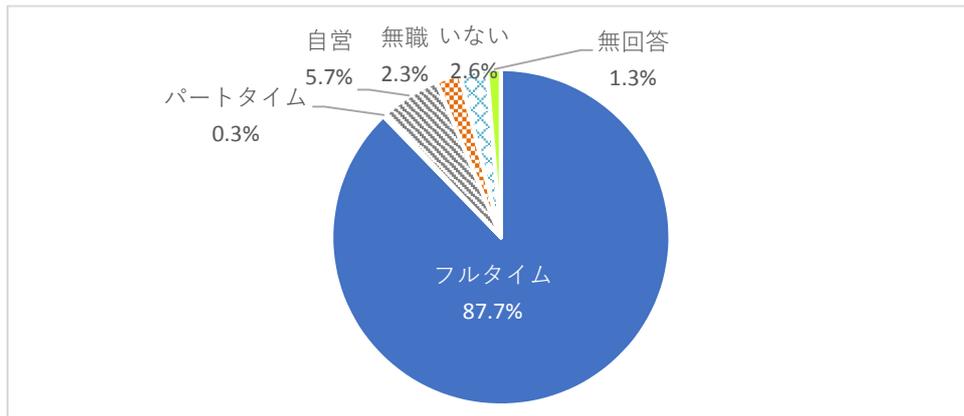
図表 1-6 入学した後の家庭の暮らし向き

(2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

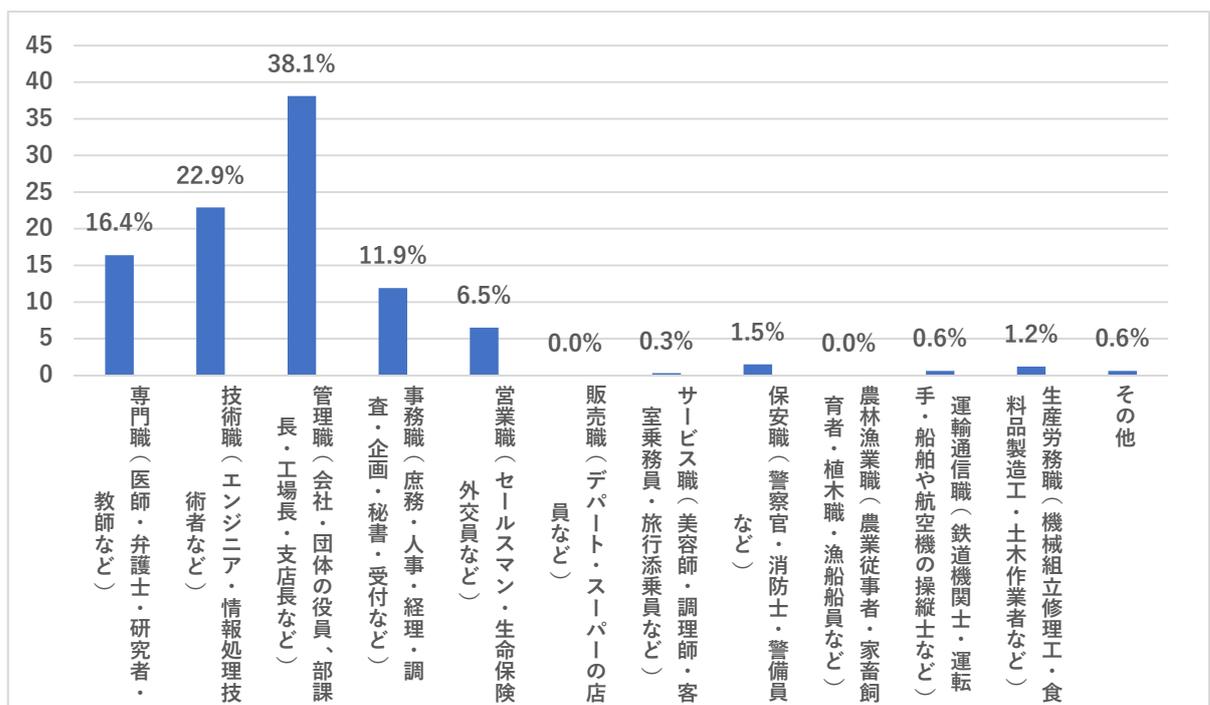
① 親の勤務形態および職種

図表 2-1 は、新入生の父親の勤務形態について、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」別に尋ねた結果である。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 87.7% と約 9 割を占め、次いで「自営」が 5.7% である。これらの勤務形態の割合は例年と同様である。



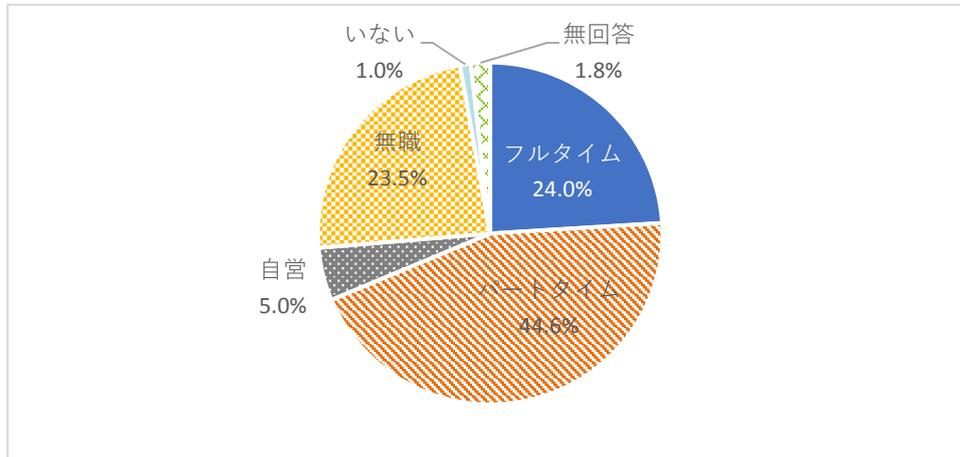
図表 2-1 父親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する父親だけに職種を尋ねた結果を図表 2-2 に示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）38.1% である。次いで、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）が 16.4%、技術職（エンジニア・情報処理技術者など）22.9% である。この傾向も平成 29 年度と同様である。



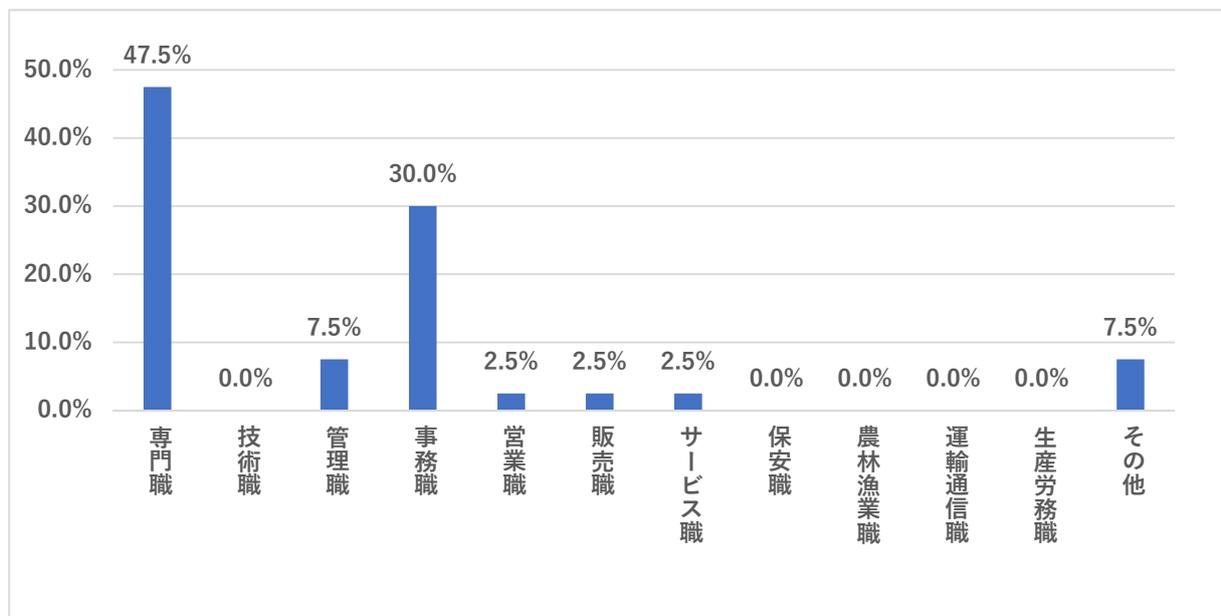
図表 2-2 父親の職種

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。「パートタイム勤務」が全体の 44.6%で最も多く、「無職」23.5%、「フルタイム勤務」24.0%と続く。平成 29 年度の新入生と比較し、パートタイムの割合が 7 ポイント強上昇し、無職が減少している。フルタイム・パートタイムを合わせて新入生の約 7 割の母親が就業していることが示された。



図表 2-3 母親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する母親だけに職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す。最も多い職種は、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）47.5%、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）30.0%、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）7.5%と続く。父親と比較をすると、母親は専門職および事務職の割合がそれぞれ高く、管理職は少ない。この傾向は平成 29 年度も同様であった。

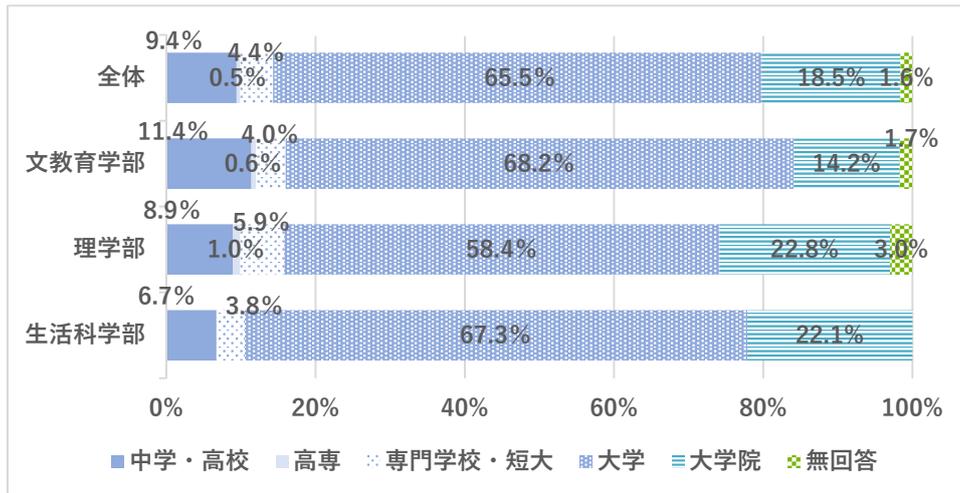


図表 2-4 母親の職種

② 親の学歴

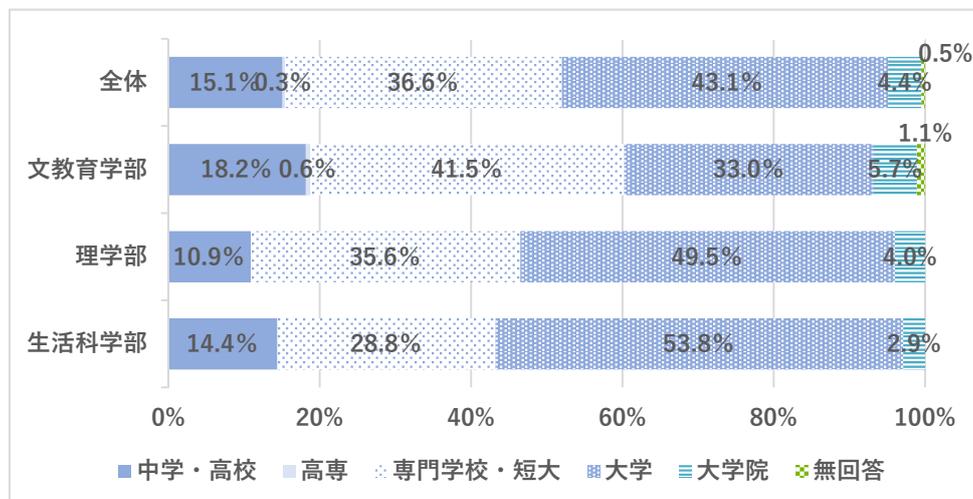
図表 2-5 は、新入生の父親の最終学歴を「大学院」「大学」「専門学校・短大」「高等専門学校」「中学・高校」別に集計した結果である。全体でみると、「大学」が 65.5%と最も高く、続いて「大学院」18.5%、「中学・高校」9.4%であり、例年同様の傾向が示された。

学部別では、「大学院」の割合が理学部 22.8%、生活科学部 22.1%と高い傾向が見られる。『平成 22 年度国勢調査』（総務省統計局 2011）によると、最終学歴が大学・大学院である男性は 28.7%であり、これと比較すると平成 30 年度新入生の父親の学歴はかなり高いほうに偏っており、この傾向も平成 29 年度と同様であった。



図表 2-5 父親の最終学歴

同様に、新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果が図表 2-6 である。全体で「大学」43.1%、「専門学校・短大」36.6%、「中学・高校」が 15.1%である。学部別では、生活科学部と理学部では「大学」がそれぞれ 53.8%、54.5%と高い。『平成 22 年度国勢調査』（総務省統計局 2011）によると、最終学歴が大学・大学院である女性は 11.9%であり、これと比較すると父親と同様に平成 30 年度新入生の母親の学歴も高いほうに偏っている。



図表 2-6 母親の最終学歴

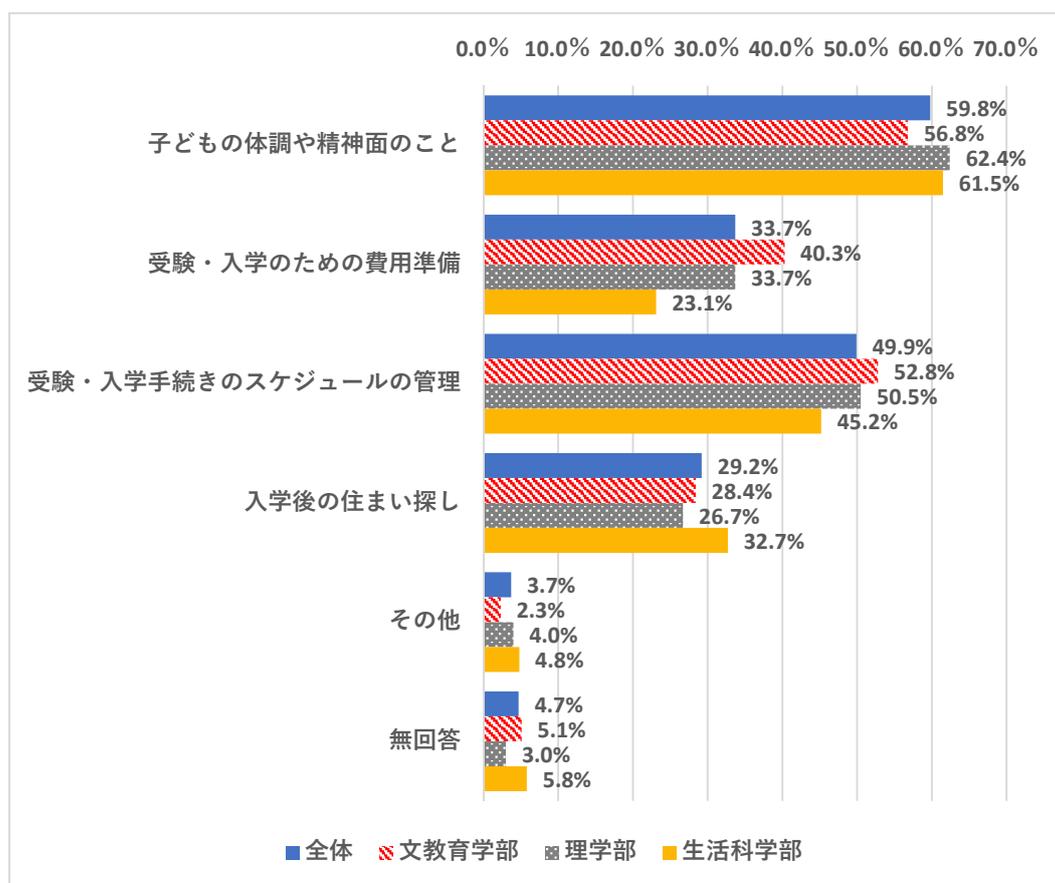
(3) 大学生生活の不安・心配事

本節では保護者から見たご子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

① 受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 は、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果である。

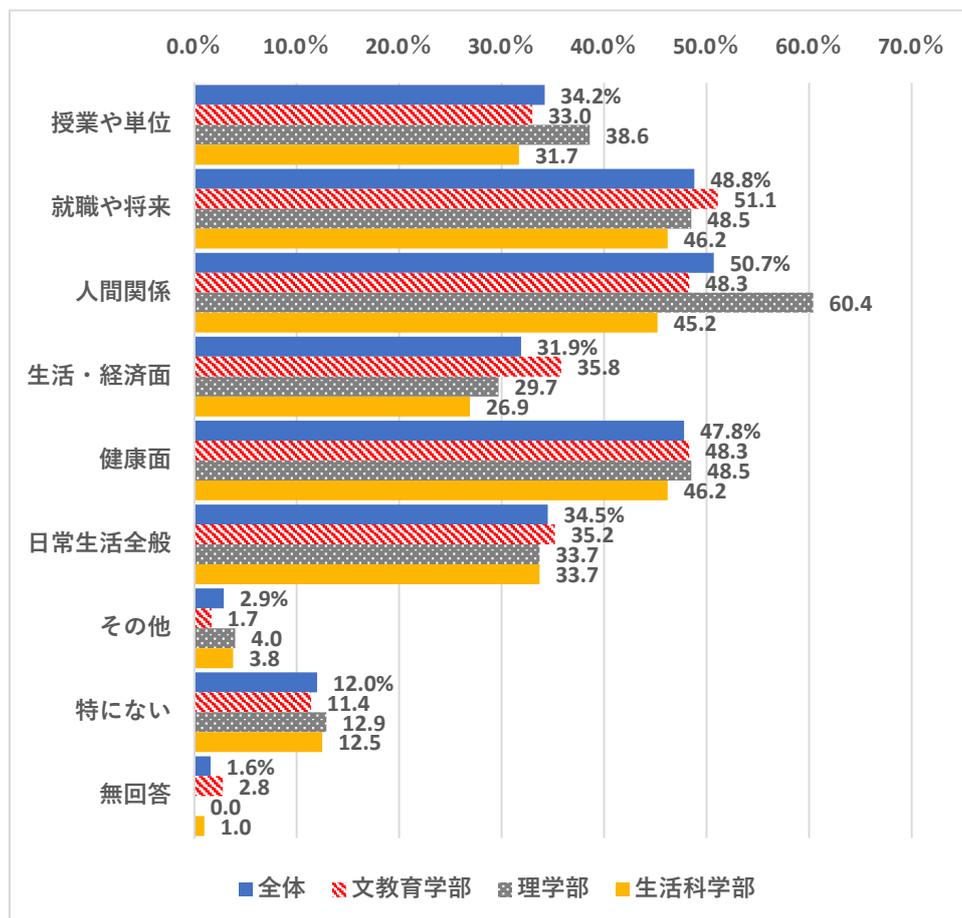
困ったこととして「子どもの体調や精神面」が全体の 59.8%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が 49.9%と続いている。学部別では、文教育学部の保護者が「受験・入学のための費用準備」に回答する割合が高い傾向が見られた(40.3%)。



図表 3-1 受験から入学までに困ったこと

② 大学生生活が始まって心配なこと

図表 3-2 は、大学生生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。心配なこととして、全体で「人間関係」50.7%、「就職や将来」48.8%、「健康」47.8%が高かった。学部別では、理学部では、「人間関係」(60.4%)、「授業や単位」(38.6%)、文教育学部では、「生活・経済面」(35.8%)と、他学部よりも心配する親の割合がやや高い傾向が見られた。

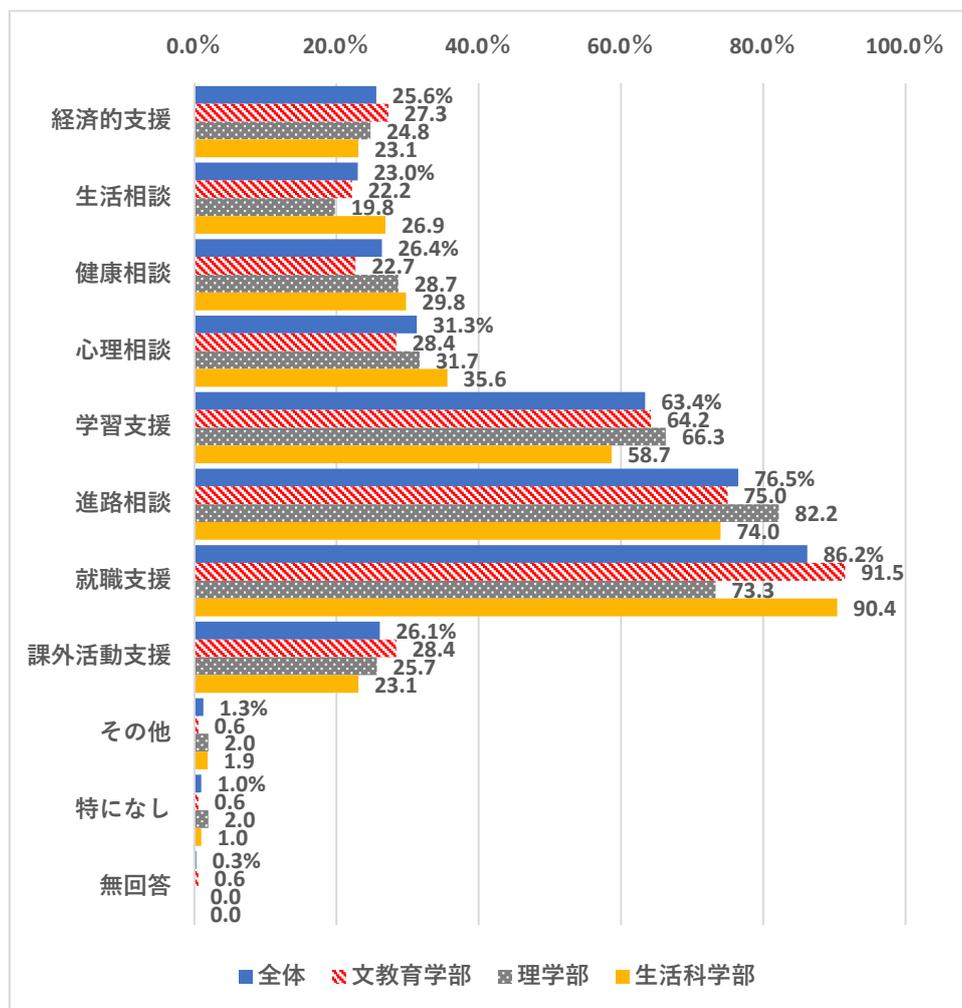


図表 3-2 大学生生活が始まって心配なこと

③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果である。

「就職支援」が全体の 86.2% で最も高い。次いで「進路相談」76.5%、「学習支援」63.4%が続くが、この傾向は平成 29 年度新入生の保護者でも同様である。学部別では、文教育学部では特に「就職支援」への期待が高かった(91.5%)。生活科学部でも文教育学部同様に「就職支援」への期待は高いが(90.4%)、「生活相談」「心理相談」への期待が他学部よりも高い傾向が見られた。理学部では「進路相談」が 82.2% と他学部より高かった。



図表 3-3 本学の学生支援活動で期待するもの

第3章 新入生および保護者調査の結果

—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

第3章では、新入生394名、新入生の保護者384名に対する調査結果について報告する。

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を取り上げ、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較して、今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点について明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

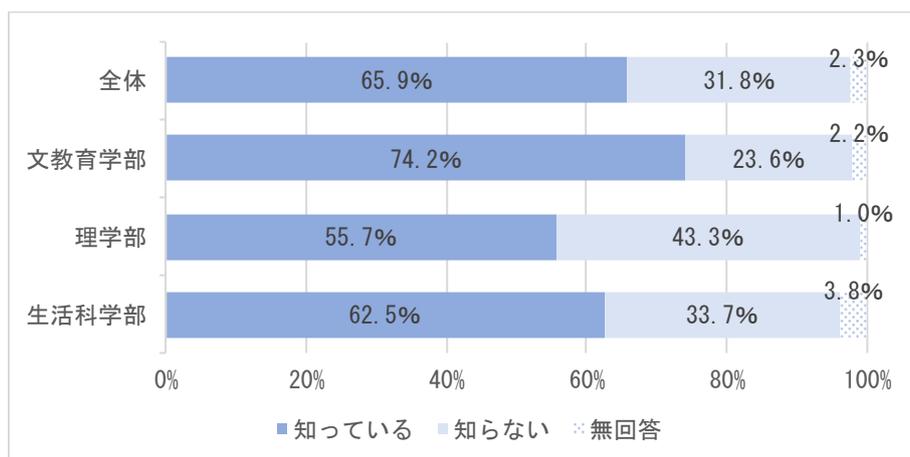
① 新入生の結果

<奨学金等制度の認知と受給経験>

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

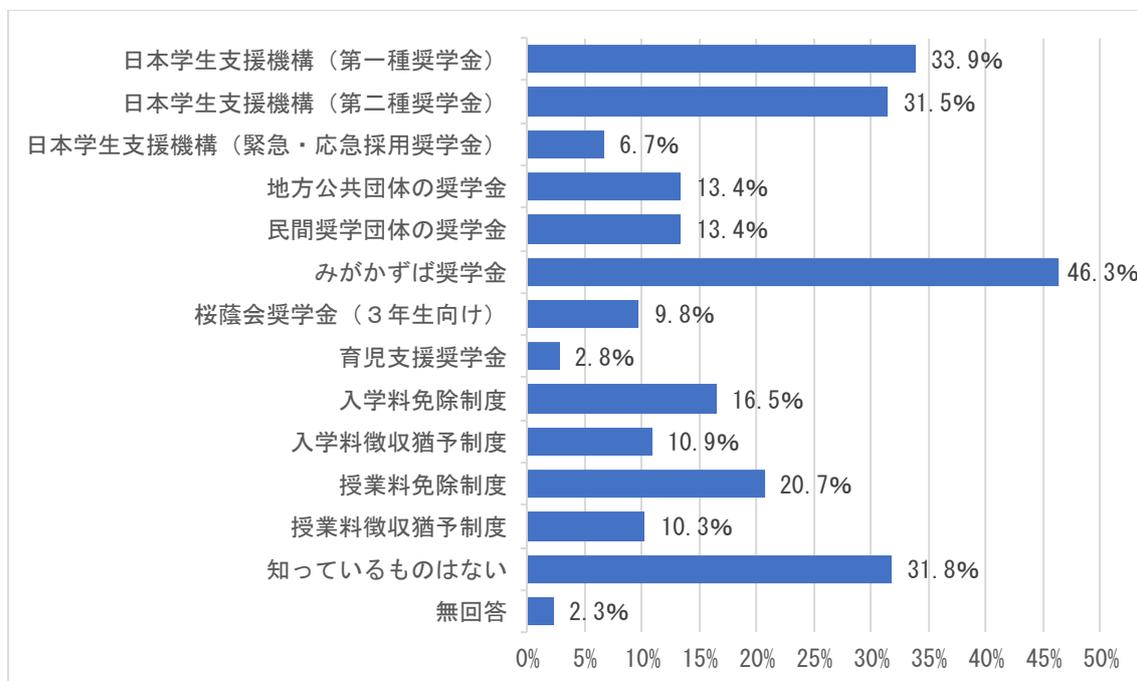
図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に表示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

全体では65.9%の新入生が奨学金等制度について認知している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く、55.7%であり、これは昨年度と同様の傾向である。



図表1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。最も認知度が高いものは本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」で46.3%である。それに次いで日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種が33.9%、31.5%と続いている。また、「知っているものはない」が31.8%と多く、これは昨年度の27.0%と比べて4.8ポイント高い結果となった。



図表1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「特待生」が5.4%と最も多く、ほかの奨学金等制度の受給経験は1~2%程度と低い割合を示している。

奨学金等制度名称	日本学生支援機構	地方公共団体	学校独自	民間奨学団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けたことがある	1.8%	0.3%	2.1%	1.0%	0.0%	0.5%	1.6%	5.4%

図表1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

<奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4~1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知について有意な関連はみられなかった。

図表1-4 きょうだい数 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	31	14	45
		%	68.9%	31.1%	100.0%
	2人きょうだい	度数	161	73	234
		%	68.8%	31.2%	100.0%
	3人以上	度数	58	28	86
		%	67.4%	32.6%	100.0%
合計		度数	250	115	365
		%	68.5%	31.5%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。ただし出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連は見られなかった。

図表1-5 出身高校設置者 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	141	73	214
		%	65.9%	34.1%	100.0%
	私立	度数	103	43	146
		%	70.5%	29.5%	100.0%
	国立	度数	16	4	20
		%	80.0%	20.0%	100.0%
	海外	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
合計		度数	261	122	383
		%	68.1%	31.9%	100.0%

n.s.

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高いことが明らかとなった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-6 奨学金受給経験 と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	221	119	340
		%	65.0%	35.0%	100.0%
	経験あり	度数	41	4	45
		%	91.1%	8.9%	100.0%
合計		度数	262	123	385
		%	68.1%	31.9%	100.0%

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生が、奨学金等制度について認知している割合が高い傾向がみられた。ただし入学後の予定住居と奨学金認知について有意な関連は見られなかった。

図表1-7 入学後の予定住居 と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の 予定住居	実家以外	度数	110	42	152
		%	72.4%	27.6%	100.0%
	実家	度数	151	81	232
		%	65.1%	34.9%	100.0%
合計		度数	261	123	384
		%	68.0%	32.0%	100.0%

n.s.

図表1-8は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表1-8での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額と奨学金認知との間に有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-8 仕送り額 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	5	0	5
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	5万円未満	度数	11	2	13
		%	84.6%	15.4%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	43	23	66
		%	65.2%	34.8%	100.0%
	10万円以上	度数	47	14	61
		%	77.0%	23.0%	100.0%
合計		度数	106	39	145
		%	73.1%	26.9%	100.0%

n.s.

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高く、これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-9 学生寮認知 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	194	50	244
		%	79.5%	20.5%	100.0%
	知らない	度数	68	73	141
		%	48.2%	51.8%	100.0%
合計		度数	262	123	385
		%	68.1%	31.9%	100.0%

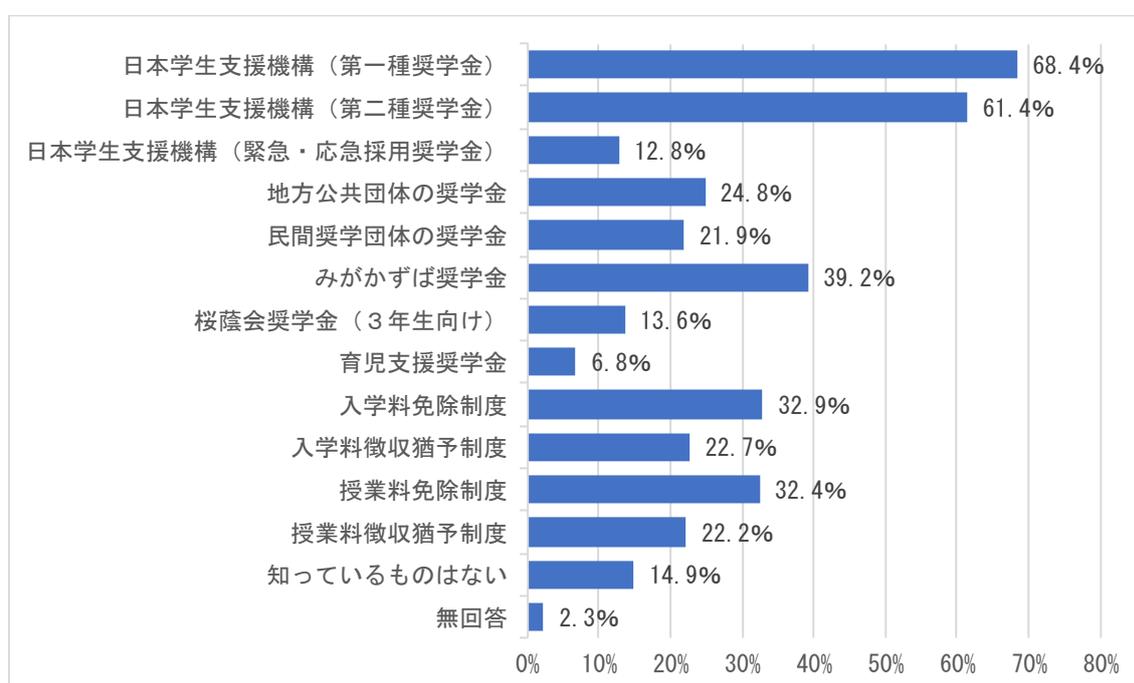
② 保護者の結果

<奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者の票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

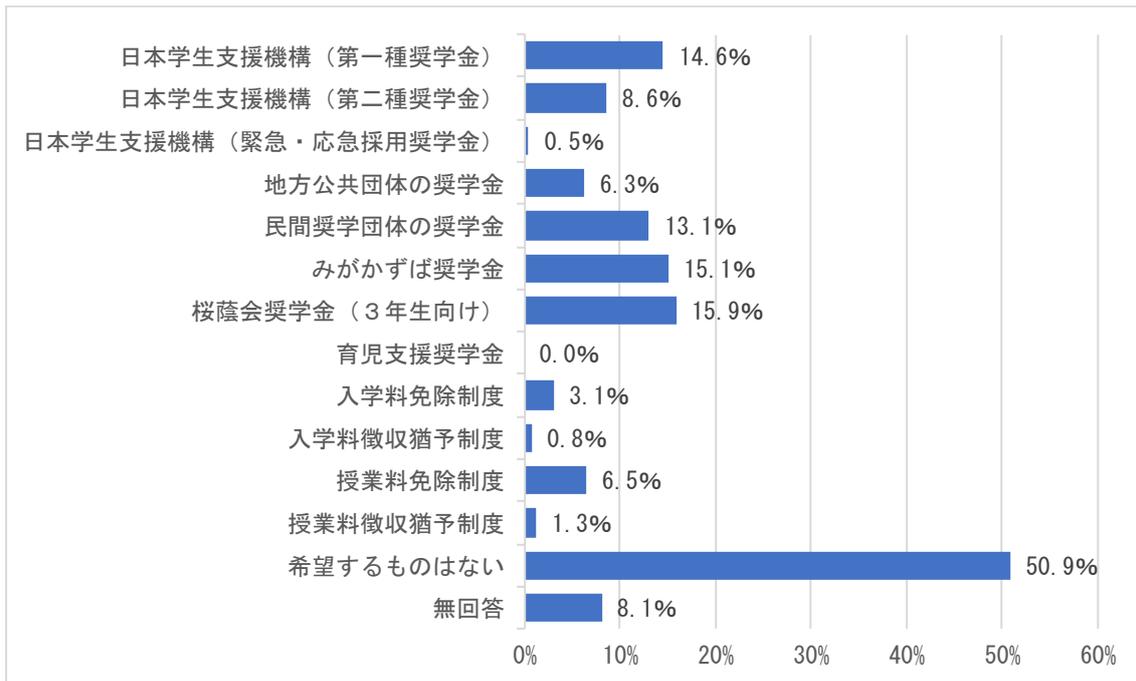
図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

奨学金制度に関しては、日本学生支援機構第一種が68.4%と最も高い認知率であり、第二種が61.4%と続く。本学独自の奨学金制度である「みがかずば奨学金」については39.2%で、これは平成29年度の保護者の36.5%よりも3ポイント程度高い認知率を示していた。「入学料徴収猶予制度」と「授業料徴収猶予制度」以外のものはすべて昨年度調査より高い認知率を示していた。(お茶の水女子大学2017)



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。もっとも利用希望率が高かったものとしては、本学独自の奨学金である、「桜蔭会奨学金 (3年生向け)」が 15.9%、次いで「みがかずば奨学金」が 15.1%であった。これら 2つの奨学金は給付型奨学金である。過去 7年の調査の中では希望率が最も高いのは日本学生支援機構 (第一種奨学金) であり、今年度調査で初めて本学独自の給付型奨学金が最も高い利用希望率を示すこととなった。また、「希望するものはない」と回答した割合が 50.9%であり、これは過去 7年の調査と比べて最も高い割合である。



図表 2-2 奨学金等制度の利用希望

<奨学金希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親の場合、奨学金を希望する割合が高いという傾向がみられた。ただし、家計支持者と奨学金希望について、有意な関連はみられなかった。

図表2-3 家計支持者 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者	父	度数	152	191	343
		%	44.3%	55.7%	100.0%
	母	度数	6	4	10
		%	60.0%	40.0%	100.0%
合計		度数	158	195	353
		%	44.8%	55.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「フルタイム勤務」以外の場合は奨学金を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし、奨学金希望と父親の就労形態には有意な関連はみられなかった。

図表2-4 父親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	127	182	309	
		%	41.1%	58.9%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	1	0	1	
		%	100.0%	0.0%	100.0%	
	自 営	度数	11	10	21	
		%	52.4%	47.6%	100.0%	
	無 職	度数	8	2	10	
		%	80.0%	20.0%	100.0%	
	いない	度数	7	1	8	
		%	87.5%	12.5%	100.0%	
	合計		度数	154	195	349
			%	44.1%	55.9%	100.0%

n.s.

図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。「母親の就労形態」を「フルタイム勤務」もしくは「いない」と回答した場合、奨学金を希望する割合が高く、それ以外の場合は奨学金を希望する割合が低い傾向がみられた。

図表2-5 母親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	40	43	83	
		%	48.2%	51.8%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	70	89	159	
		%	44.0%	56.0%	100.0%	
	自 営	度数	8	11	19	
		%	42.1%	57.9%	100.0%	
	無 職	度数	36	47	83	
		%	43.4%	56.6%	100.0%	
	いない	度数	2	1	3	
		%	66.7%	33.3%	100.0%	
	合計		度数	156	191	347
			%	45.0%	55.0%	100.0%

**

図表2-6は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-6 入学後の暮らし向き と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	147	65	212
		%	69.3%	30.7%	100.0%
	ゆとりがある	度数	24	114	138
		%	17.4%	82.6%	100.0%
合計		度数	171	179	350
		%	48.9%	51.1%	100.0%

**

図表2-7は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。世帯年収が1000万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が1000万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-7 世帯年収 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	28	1	29	
		%	96.6%	3.4%	100.0%	
	400万円以上	度数	28	6	34	
		%	82.4%	17.6%	100.0%	
	600万円未満	度数	35	16	51	
		%	68.6%	31.4%	100.0%	
	600万円以上	度数	45	37	82	
		%	54.9%	45.1%	100.0%	
	800万円未満	度数	16	48	64	
		%	25.0%	75.0%	100.0%	
	800万円以上	度数	20	70	90	
		%	22.2%	77.8%	100.0%	
	合計		度数	172	178	350
			%	49.1%	50.9%	100.0%

**

図表2-8は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-8 家計支持者年収 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	38	3	41
		%	92.7%	7.3%	100.0%
	400万円以上 600万円未満	度数	31	9	40
		%	77.5%	22.5%	100.0%
	600万円以上 800万円未満	度数	42	32	74
		%	56.8%	43.2%	100.0%
	800万円以上 1000万円未満	度数	36	44	80
		%	45.0%	55.0%	100.0%
	1000万円以上 1200万円未満	度数	15	48	63
		%	23.8%	76.2%	100.0%
1200万円以上	度数	10	42	52	
	%	19.2%	80.8%	100.0%	
合計		度数	172	178	350
		%	49.1%	50.9%	100.0%

**

図表2-9は「奨学金受給経験」と「奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-9 奨学金受給経験 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
奨学金 受給経験	経験なし	度数	137	173	310
		%	44.2%	55.8%	100.0%
	経験あり	度数	36	10	46
		%	78.3%	21.7%	100.0%
合計		度数	173	183	356
		%	48.6%	51.4%	100.0%

**

図表 2-10 は「学生寮認知」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様に、学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。

図表2-10 学生寮認知 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮認知	知っている	度数	126	81	207
		%	60.9%	39.1%	100.0%
	知らない	度数	44	99	143
		%	30.8%	69.2%	100.0%
合計		度数	170	180	350
		%	48.6%	51.4%	100.0%

**

図表2-11は「学生寮希望」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様に、学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。

図表2-11 学生寮希望 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮希望	希望する	度数	69	18	87
		%	79.3%	20.7%	100.0%
	希望しない	度数	100	160	260
		%	38.5%	61.5%	100.0%
合計		度数	169	178	347
		%	48.7%	51.3%	100.0%

**

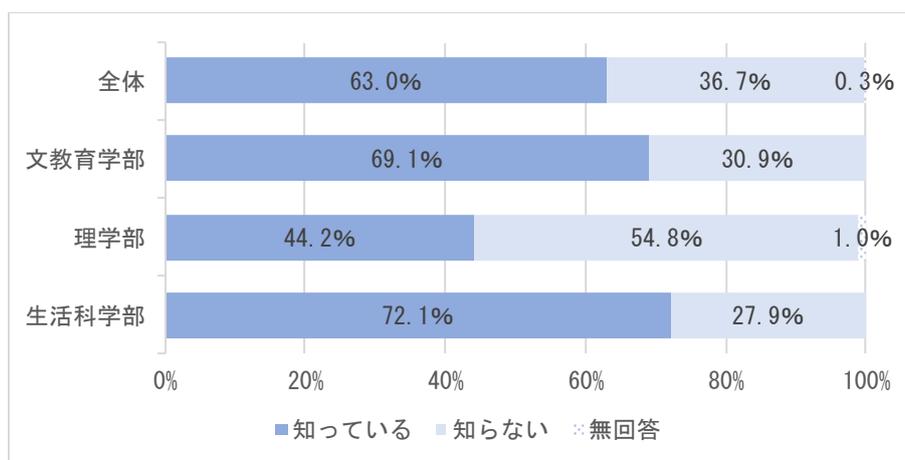
(3) 学生寮に関する結果

① 新入生の結果

<学生寮の認知>

図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では63.0%の新入生が学生寮について認知している。

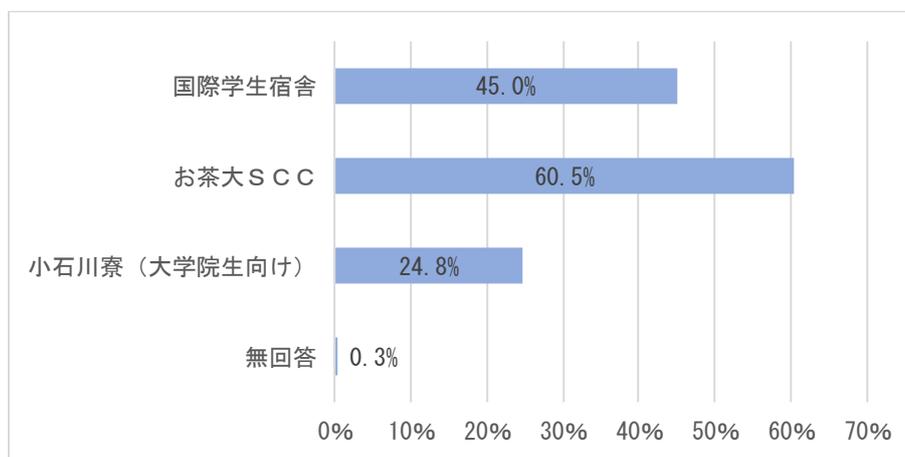
学部別にみると、理学部が他学部比べて20ポイント以上低い結果となっており、これは昨年度調査でも同様の結果であった。



図表 3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

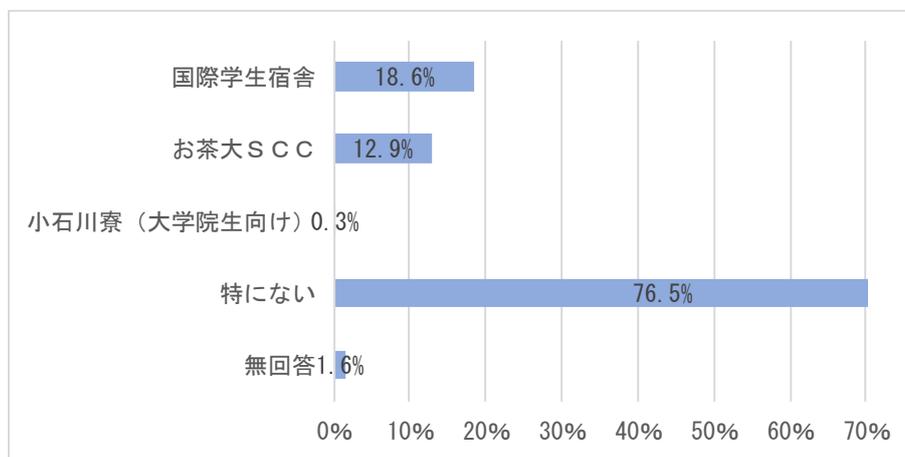
図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学には国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（学部 1・2 年生対象）、小石川寮（大学院生対象）の 3 つの学生寮がある。

認知率は、お茶大 SCC が 60.5% と最も高く、これは昨年度調査での 60.1% とほぼ同様の結果であった。国際学生宿舎の認知率 45.0% は、昨年度新入生の 51.0% と比べ 6 ポイント低くなっている。（お茶の水女子大学 2017）



図表 3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特
にない」と回答した新入生が最も多く 76.5%であった。国際学生宿舎を希望する学生は 18.6%で、
昨年度の 18.5%とほぼ同様の結果である。お茶大 SCC を希望する学生は 12.9%であり、これは昨
年度調査の 9.4%と比べて 3 ポイント程度高くなっている。



図表 3-3 本学の学生寮への入寮希望 (寮別)

<学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新入生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の
認知」と各項目とのクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。それぞれ結果を図表 3-4~3-8 に
示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1 つでも知っているものがあれば「知ってい
る」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知
との間には有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表3-4 きょうだい数 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	28	17	45
		%	62.2%	37.8%	100.0%
	2人きょうだい	度数	158	81	239
		%	66.1%	33.9%	100.0%
	3人以上	度数	51	36	87
		%	58.6%	41.4%	100.0%
合計	度数	237	134	371	
	%	63.9%	36.1%	100.0%	

n.s.

注 *** $p < .000$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間には有意な関連は見られなかった。

図表3-5 出身高校設置者 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	140	80	220
		%	63.6%	36.4%	100.0%
	私立	度数	95	53	148
		%	64.2%	35.8%	100.0%
	国立	度数	13	7	20
		%	65.0%	35.0%	100.0%
	海外	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
合計		度数	249	142	391
		%	63.7%	36.3%	100.0%

n.s.

図表3-6は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。奨学金受給経験がある場合、学生寮について認知している割合が高い傾向がみられた。ただし、「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には有意な関連はみられなかった。

図表3-6 奨学金受給経験 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	217	130	347
		%	62.5%	37.5%	100.0%
	経験あり	度数	33	13	46
		%	71.7%	28.3%	100.0%
合計		度数	250	143	393
		%	63.6%	36.4%	100.0%

n.s.

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高いことが明らかになった。

図表3-7 居住予定の住居 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
居住予定の住居	実家以外	度数	128	28	156
		%	82.1%	17.9%	100.0%
	実家	度数	121	115	236
		%	51.3%	48.7%	100.0%
合計		度数	249	143	392
		%	63.5%	36.5%	100.0%

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表3-8 仕送り額 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計	
			知っている	知らない		
仕送り額	仕送りなし	度数	4	2	6	
		%	66.7%	33.3%	100.0%	
	5万円未満	度数	13	0	13	
		%	100.0%	0.0%	100.0%	
	5万円以上 10万円未満	度数	53	14	67	
		%	79.1%	20.9%	100.0%	
	10万円以上	度数	53	10	63	
		%	84.1%	15.9%	100.0%	
	合計		度数	123	26	149
			%	82.6%	17.4%	100.0%

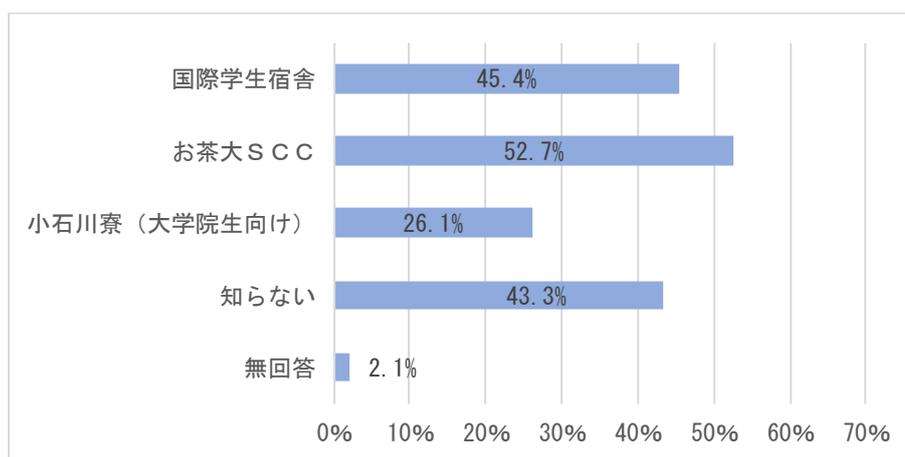
n.s.

② 保護者の結果

<学生寮の認知と利用希望>

図表 4-1 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

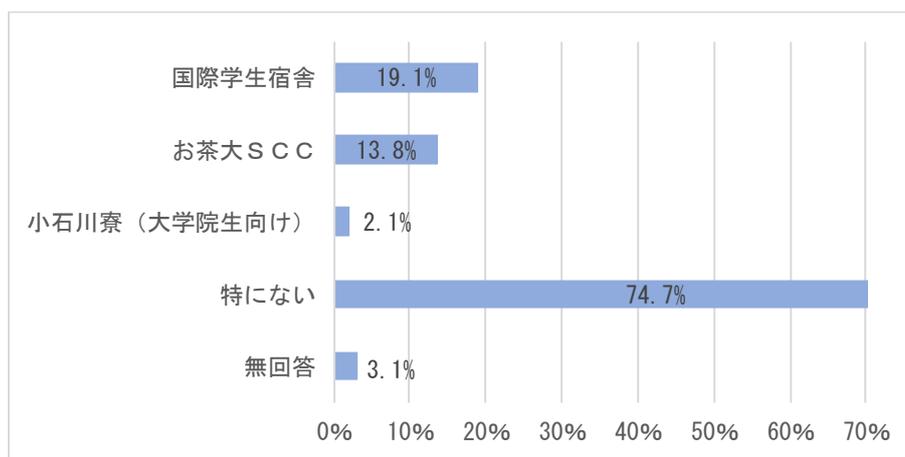
お茶大 SCC が 52.7%と最も高く、次いで国際学生宿舎が 45.4%であった。「知らない」と回答した割合は 43.3%であり、昨年度調査の 39.5%と比べて 3.8 ポイント高い結果となった。これは過去 7 年間の調査と比べて最も高い割合を示している。(お茶の水女子大学 2017)



図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

「国際学生宿舎」への入寮希望が 19.1%、次いで「お茶大 SCC」が 13.8%であり、昨年度と同様の結果を示している。また、「特にない」が 74.7%であり、これは昨年度調査の 70.6%と比べて 4.1 ポイント高い結果となっており、過去 7 年間の調査と比べて最も高い割合を示している。(お茶の水女子大学 2017)



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

<学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」とのクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。それぞれ結果を図表 4-3~4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者が母親である場合には学生寮を希望する割合が高い傾向がみられるが、「家計支持者」と「入寮希望」の間に有意な関連はみられなかった。

図表4-3 家計支持者 と 入寮希望 のクロス表

		入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者	父	度数	82	280	362
		%	22.7%	77.3%	100.0%
	母	度数	3	7	10
		%	30.0%	70.0%	100.0%
合計		度数	85	287	372
		%	22.8%	77.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」、「パートタイム勤務」以外の場合には学生寮を希望する割合がやや高い傾向がみられた。ただし、「父親の就労形態」と「入寮希望」の間には有意な関連はみられなかった。

図表4-4 父親の就労形態 と入寮希望 のクロス表

		入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	72	254	326
		%	22.1%	77.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	0	1	1
		%	0.0%	100.0%	100.0%
	自 営	度数	6	16	22
		%	27.3%	72.7%	100.0%
	無 職	度数	3	6	9
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	いない	度数	3	6	9
		%	33.3%	66.7%	100.0%
合計		度数	84	283	367
		%	22.9%	77.1%	100.0%

n.s.

図表 4-5 では「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親が「フルタイム勤務」もしくは「パートタイム勤務」の場合には学生寮を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし「母親の就労形態」と「入寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表4-5 母親の就労形態 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	25	61	86
		%	29.1%	70.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	44	123	167
		%	26.3%	73.7%	100.0%
	自 営	度数	1	18	19
		%	5.3%	94.7%	100.0%
	無 職	度数	15	75	90
		%	16.7%	83.3%	100.0%
	いない	度数	0	4	4
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	85	281	366
		%	23.2%	76.8%	100.0%

n.s.

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表4-6 入学後の暮らし向き と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
暮らし向き	ゆとりがない	度数	66	137	203
		%	32.5%	67.5%	100.0%
	ゆとりがある	度数	16	148	164
		%	9.8%	90.2%	100.0%
合計		度数	82	285	367
		%	22.3%	77.7%	100.0%

図表 4-7 では「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。世帯年収について「1200 万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。世帯年収が 1000 万円未満の場合は学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表4-7 世帯年収 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	10	11	21	
		%	47.6%	52.4%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	10	20	30	
		%	33.3%	66.7%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	18	31	49	
		%	36.7%	63.3%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	21	64	85	
		%	24.7%	75.3%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	15	66	81	
		%	18.5%	81.5%	100.0%	
	1200万円以上	度数	9	92	101	
		%	8.9%	91.1%	100.0%	
	合計		度数	83	284	367
			%	22.6%	77.4%	100.0%

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者の年収が 800 万円未満の場合は、学生寮を希望する割合が高いことが明らかとなった。昨年度は、「家計支持者年収」と「入寮希望」には有意な関連がみられ、家計支持者年収が 1000 万円未満の場合に学生寮を希望する割合が高かった。

図表4-8 家計支持者年収 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	13	19	32	
		%	40.6%	59.4%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	20	24	44	
		%	45.5%	54.5%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	19	55	74	
		%	25.7%	74.3%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	18	74	92	
		%	19.6%	80.4%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	11	55	66	
		%	16.7%	83.3%	100.0%	
	1200万円以上	度数	4	56	60	
		%	6.7%	93.3%	100.0%	
	合計		度数	85	283	368
			%	23.1%	76.9%	100.0%

図表4-9は「奨学金受給経験」と「入寮の希望」のクロス表である。過去に奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし、「奨学金受給経験」と「学生寮の希望」には有意な関連はみられなかった。

図表4-9 奨学金受給経験 と入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	71	256	327
		%	21.7%	78.3%	100.0%
	経験あり	度数	14	29	43
		%	32.6%	67.4%	100.0%
合計		度数	85	285	370
		%	23.0%	77.0%	100.0%

n.s.

図表 4-10 が「学生寮認知」と「入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合がやや高いことが推察される。ただし、「学生寮認知」と「入寮希望」には有意な関連はみられなかった。

図表4-10 学生寮認知 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮認知	知っている	度数	85	121	206
		%	41.3%	58.7%	100.0%
	知らない	度数	0	166	166
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	85	287	372
		%	22.8%	77.2%	100.0%

n.s.

(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

① 新入生

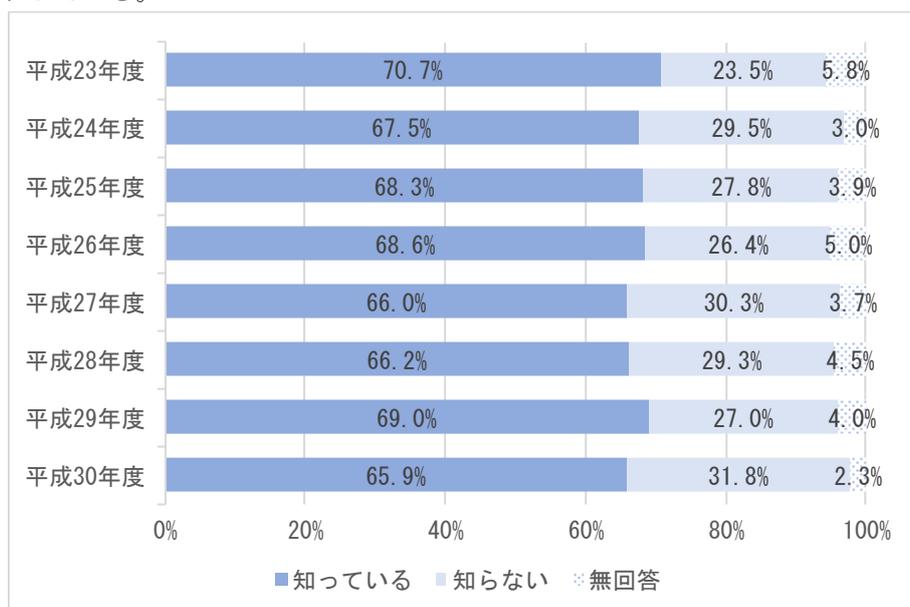
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去7年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表5-1～5-3に示す。

図表5-1は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去7年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が11.7%であり、これは平成25年度の13.4%に次いで2番目に高い割合である。



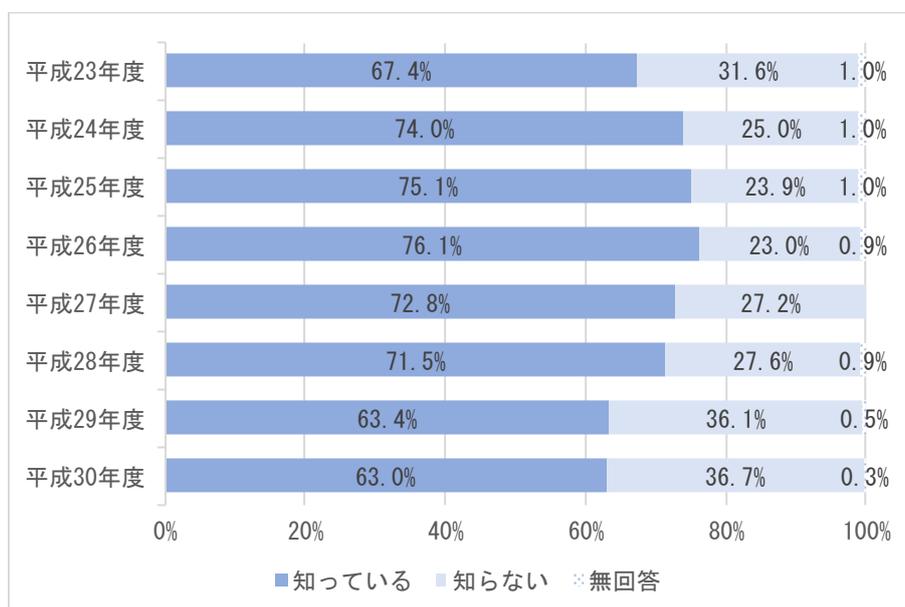
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表5-2は新入生の奨学金等制度の認知について過去7年間の結果と比較したものである。奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が65.9%と、過去7年の結果と比べて最も低い割合を示している。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 7 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率については、平成 26 年度以降認知率が低下しており、今年度調査では、「知っている」が 63.0%と最も低い割合を示している。

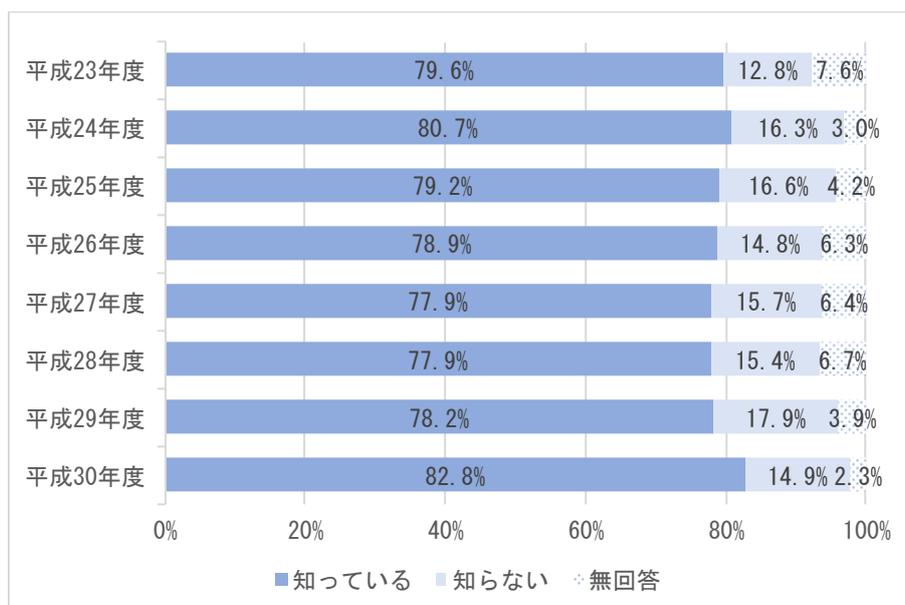


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

② 保護者

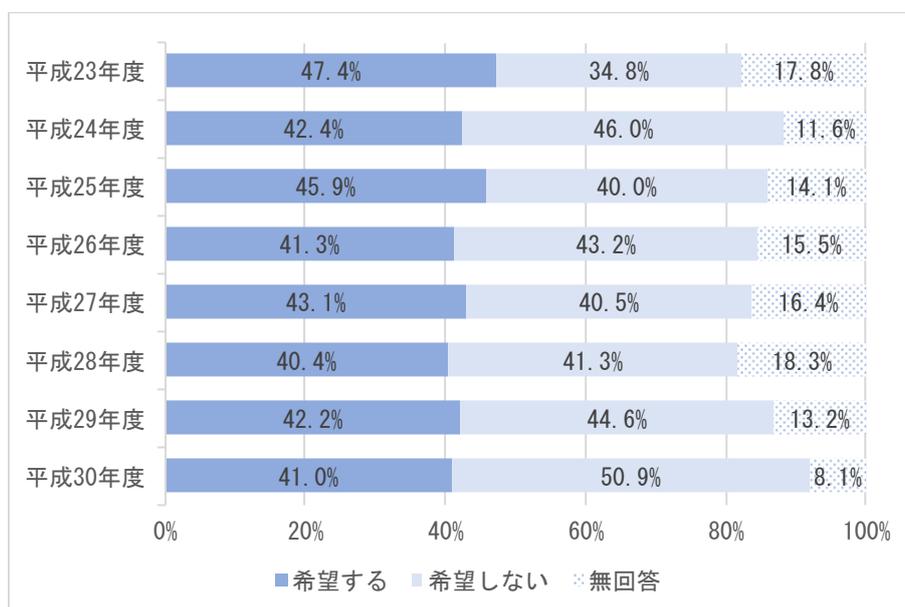
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 7 年間の結果と比較したものを図表 6-1~6-4 に示す

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 7 年間の結果と比較したものである。「知っている」が 82.8%、「知らない」が 14.9%であった。「知っている」と回答した割合は過去の調査の中で最も多い割合であった。



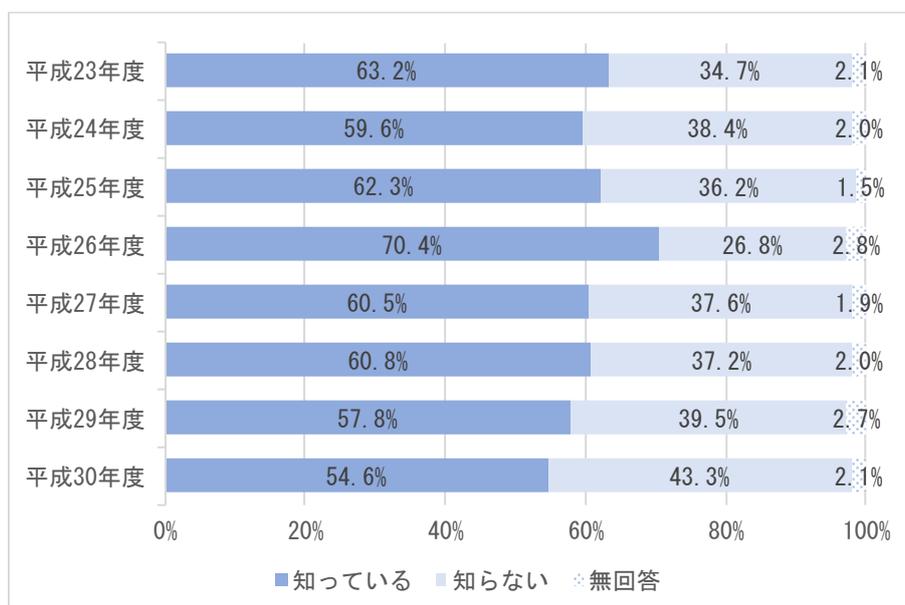
図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 7 年間の結果と比較したものである。今年度調査では「希望しない」が 50.9%であり、今年度調査で初めて「奨学金を希望しない」と回答した割合が 50%を超える結果となった。



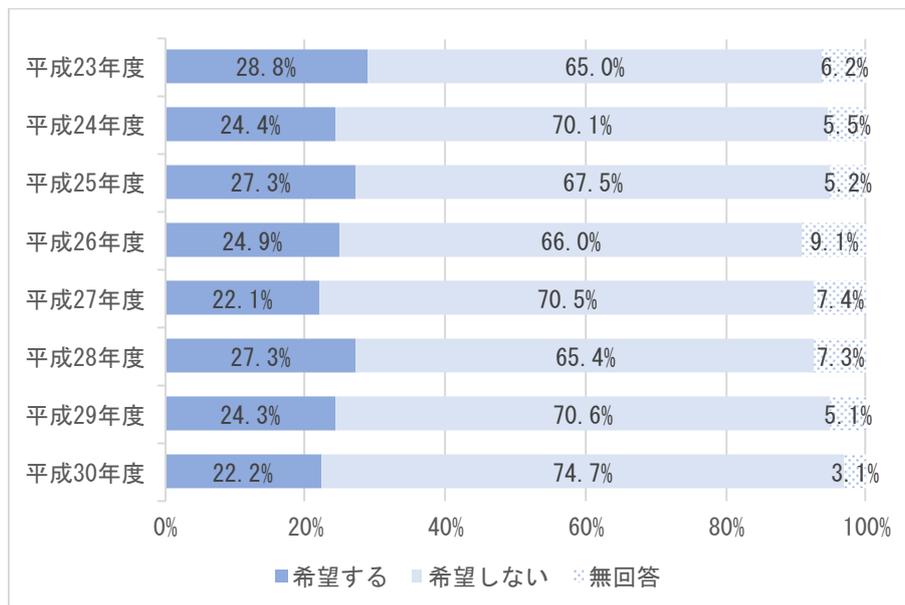
図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 7 年間の結果と比較したものである。「知っている」が 54.6%と、昨年度調査の 57.8%と比較して 3.2 ポイント減少しており、過去の調査の中で最も低い認知率を示している。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 7 年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合は 22.2%、「希望しない」と回答した割合は 74.7%である。今年度調査では、「希望しない」と回答した割合が過去調査の中で最も高い割合であった。

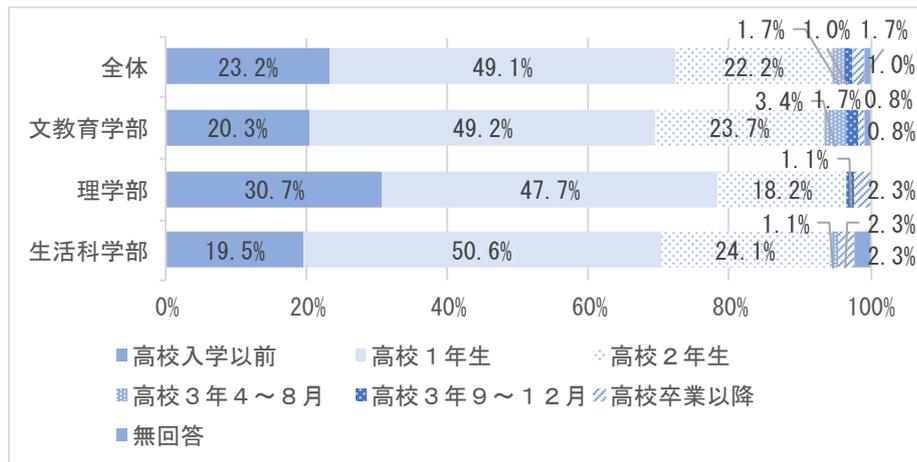


図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較

第4章 新入生「追加質問票」(高校時代の進路選択)の結果

本章では、一般入試合格者のみに配布した追加質問票 298 名の結果を報告する。追加質問票では、これまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねている。

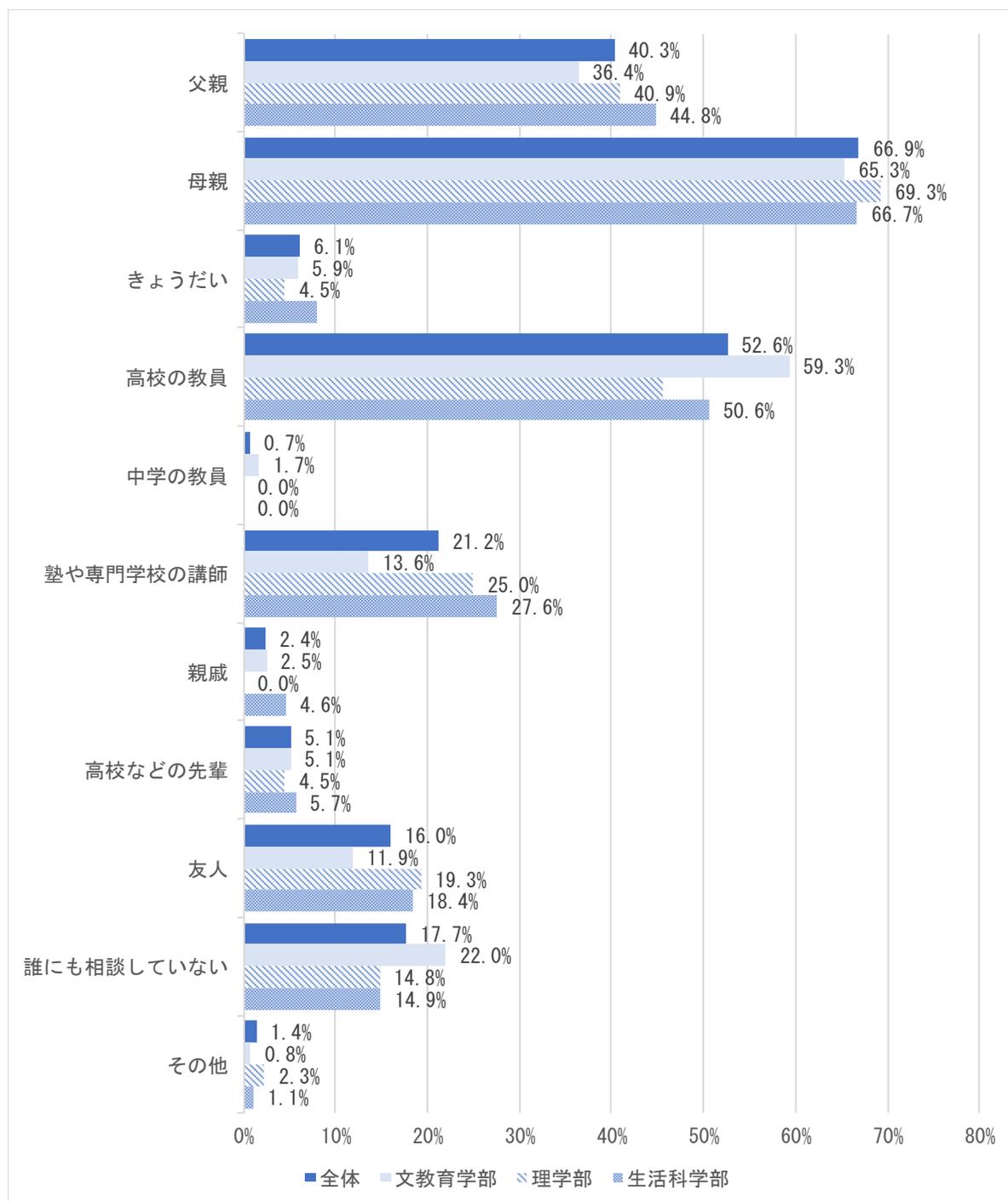
図表 1-1 では、高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、尋ねたものである。



図表 1-1 文理選択の時期

全体では「高校1年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が49.1%と最も多い割合を示しており、次いで「高校入学以前」が23.2%、「高校2年生」が22.2%と続く。全体の90%以上が、高校3年生になる前に文理の選択が終了している。

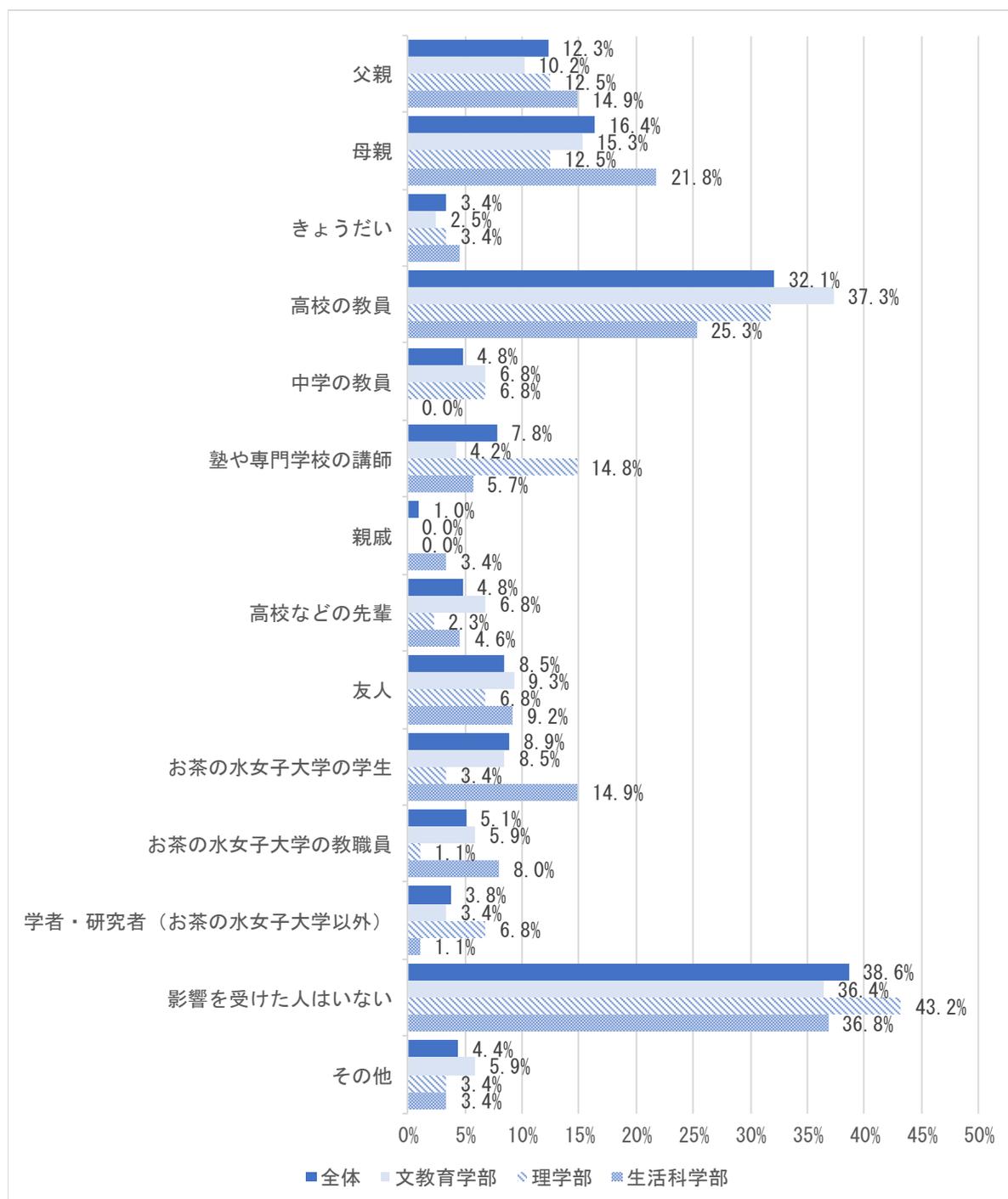
図表 1-2 では、専門（学科）を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の 66.9%であり、次に「高校の教員」52.6%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も 17.7%と一定数あることが示された。



図表 1-2 専門（学科）を選ぶ際に相談した人

図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で 38.6%であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く 32.1%、次に「母親」が 16.4%、

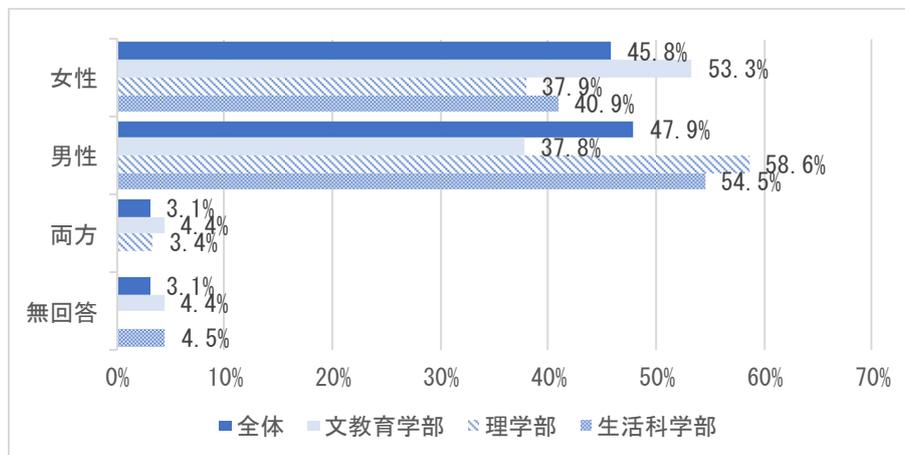
「父親」が12.3%であった。学部別にみると、理学部では「塾や専門学校の講師」から影響を受けたと回答した割合が14.8%と他2学部と比べて高く、生活科学部では「お茶の水女子大学の学生」と回答した割合が14.9%と他2学部と比べて高い結果を示していた。



図表 1-3 専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新生に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6・1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

図表 1-4 では、全体でみると性別による特徴はほとんどみられなかった。学部別にみると、文教育学部では男性教員より女性教員から影響を受けたと回答する割合が高く、理学部・生活科学部では女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高い。また図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものである場合が多いことが示された。

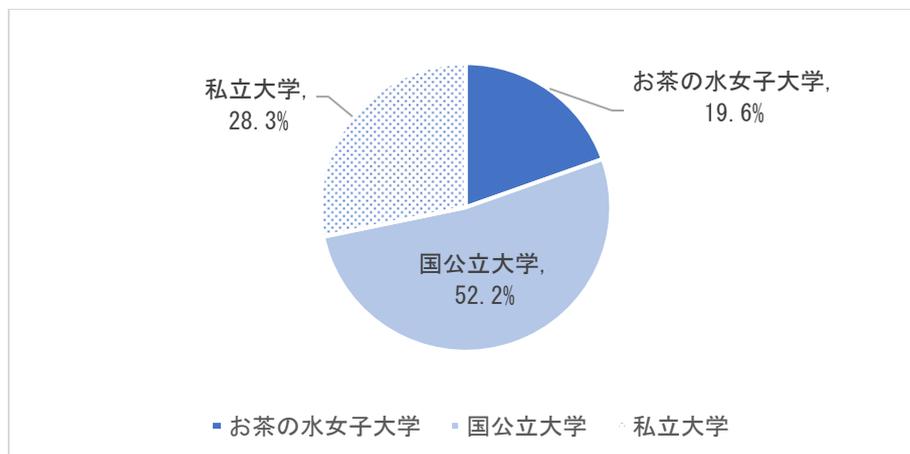


図表 1-4 影響を受けた教員（中学/高校）の性別

入学学部	入学学科	影響を受けた先生の専門
文教育学部	人文科学科	世界史（3）、西洋史（ローマ）、地理、日本史/現代文、古典文学、日本文学、国語（2）/英語/数学（2）
	言語文化学科	現代文、古典文学（源氏物語）、古文、日本文学（2）、国語（7）/英語（2）/民俗学/中国文学/数学/生物
	人間社会学科	国語/日本史/生物
	芸術・表現行動学科	音楽、声楽/国語/数学/英語/家庭科
理学部	数学科	数学（2）/古典・現代国語
	物理学科	物理（2）、超電導
	化学科	化学（6）、生物/数学/家庭科
	生物学科	生物（8）、藻、理科/国語
	情報科学科	化学
生活科学部	食物栄養	数学（3）/英語（2）/化学、生物、物理/家庭科/体育
	人間・環境学科	数学（2）/英語、外国語/国語/物理
	人間生活学科	国語（3）/英語（3）/政治経済
	心理学科	国語/教育（養護）

図表 1-5 影響を受けた教員（中学/高校）の専門（カッコ内は人数）

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について、お茶の水女子大学、その他の国立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、19.6%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示された。お茶の水女子大学以外では、その他の国公立大学が 52.2%、私立大学が 28.3%という結果となった。

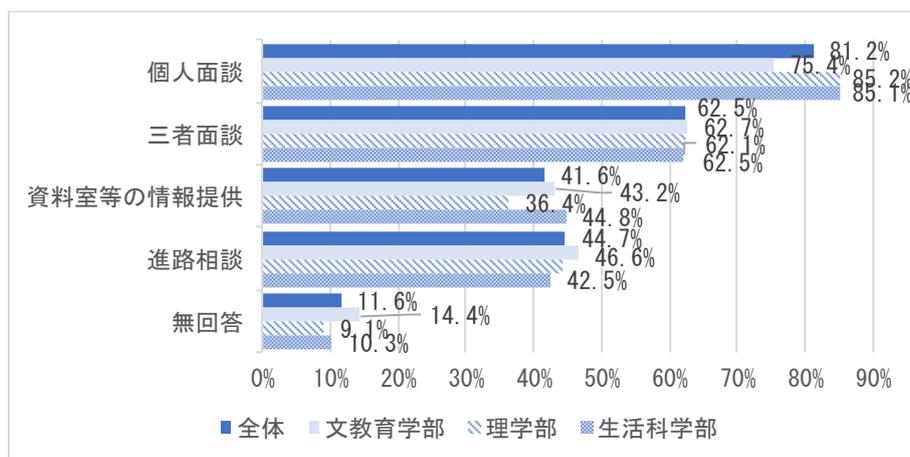


図表 1-6 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

国立大学	お茶の水女子大学（9）鹿児島大学、九州大学（2）、京都大学（2）、佐賀大学、島根大学、千葉大学、筑波大学（2）、東京大学（2）、東京学芸大学（2）、東京工業大学（2）、東京農工大学、富山大学、奈良女子大学（2）、名古屋大学（2）、新潟大学、北海道大学
私立大学	学習院大学、慶応義塾大学、国際基督教大学、東京理科大学（3）、南山大学、立教大学、早稲田大学（5）

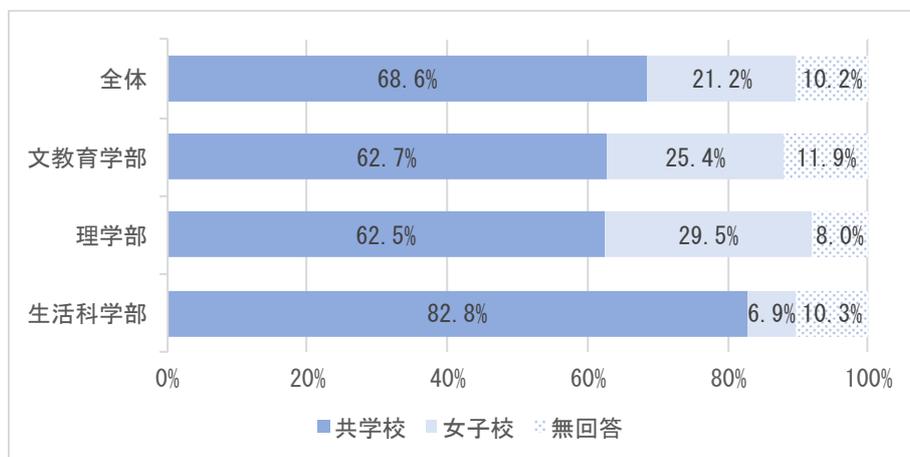
図表 1-7 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の4つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で81.2%であった。



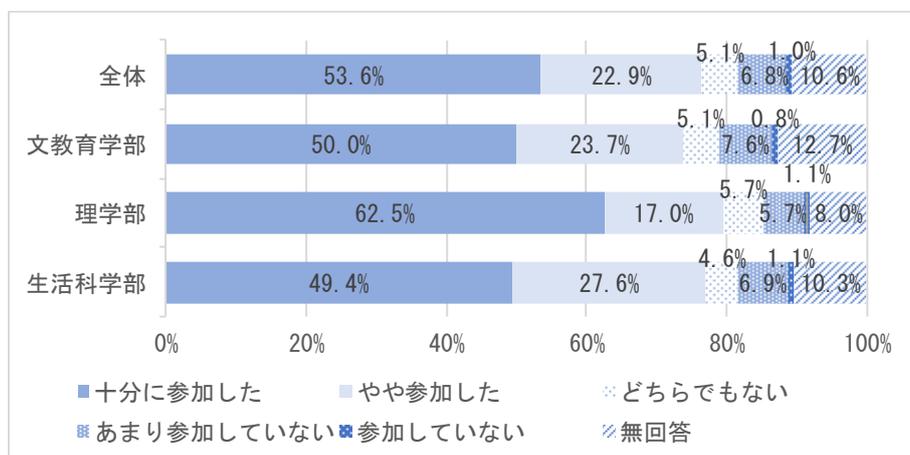
図表 1-8 高等学校で受けた進路指導

図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 68.6%、「女子校」と回答した割合は 21.2%であった。学部別にみると、生活科学部では、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて 20 ポイント程度高い結果であった。



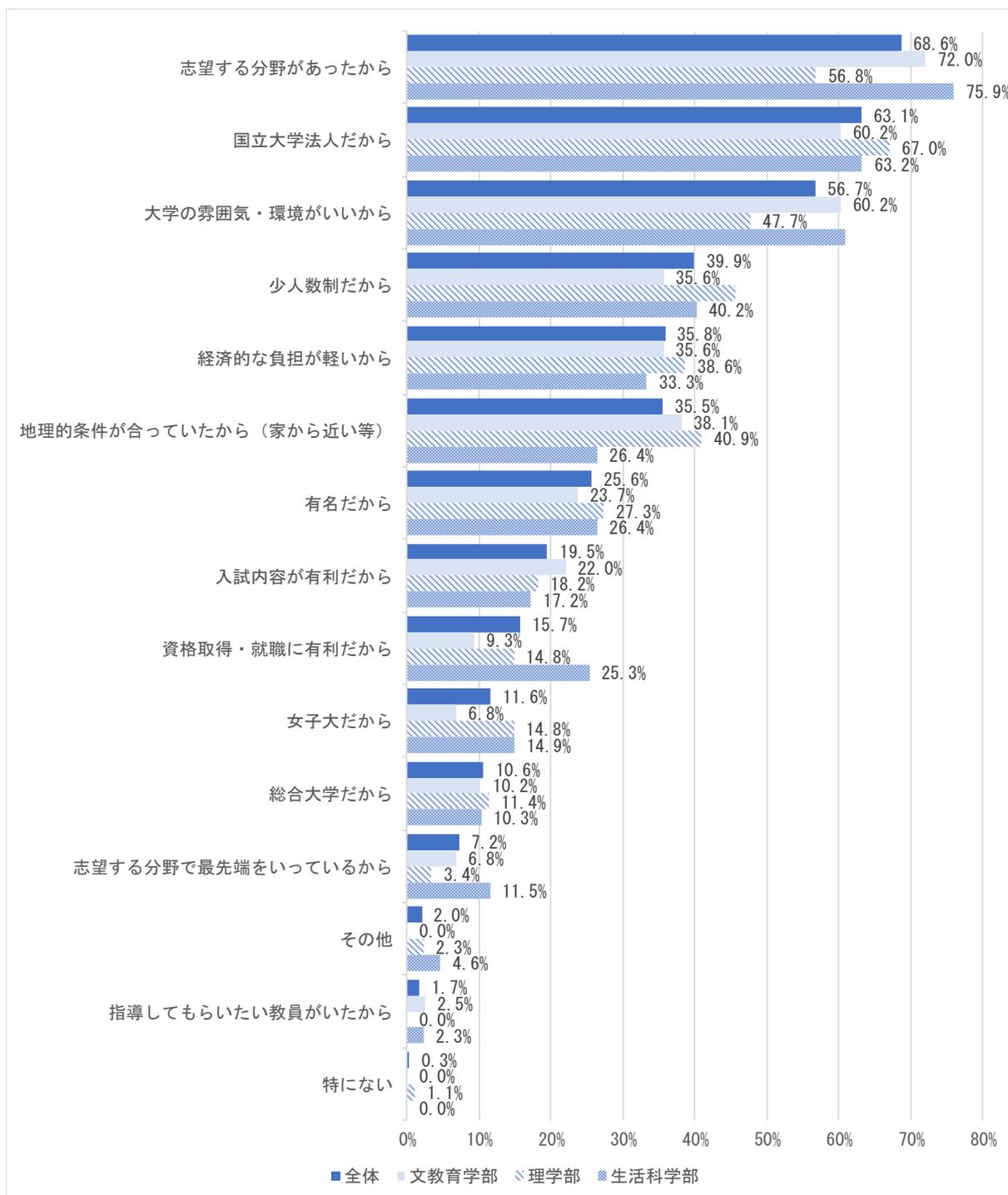
図表 1-9 出身高等学校について（共学/女子校）

図表 1-10 では、高等学校時代の理系科目の学修において、どの程度実験や実習に参加していたかを尋ねた結果である。全体で見ると、「参加した」（「十分に参加した」+「やや参加した」）と回答した割合は 76.5%であり、「参加していない」（「あまり参加していない」+「参加していない」）と回答した割合は、7.8%であった。3 学部で比較すると、「参加した」と回答した割合が最も多いのは理学部の学生で 79.5%であった。



図表 1-10 理系科目の実験・実習の参加度合い

図表 1-11 では、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。



図表 1-11 お茶の水女子大学を選んだ理由（自分の学力や入試難易度以外）

全体で最も高い割合を示しているのは、「志望する分野があったから」で68.6%であり、次に「国立大学法人だから」63.1%、「大学の雰囲気・環境がいいから」56.7%が続く。学部別にみると、文教育学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」であり、理学部では「国立大学法人だから」が67.0%と最も高い割合を示している。

第5章 考察および今後の課題

(1) 平成30年度新入生の特徴と考察

第1章、第2章に示した平成30年度新入生調査より明らかになった特徴をまとめる。

1. 新入生の84.5%は「お茶大を第一志望」として入学しているが、学部間には差異がある

平成30年度新入生において、本学が第一志望である新入生は84.5%である。平成29年度からは約2ポイント、平成28年度からは約6ポイント低下したものの、依然として高い水準にある。ただし、文教育学部および生活科学部の学生の約9割が本学を第一志望とし、この水準にほぼ変化がないのに対して、理学部の第一希望割合は約7割程度で、過去2年間と比較し、低下する傾向が見られた。

2. 学びの意欲が高い一方で、授業についていけるかどうかに対する不安もある

「大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動」において「大学の授業」に回答した学生は99.2%と非常に高い。同時に、「授業についていけるか」について不安・心配事としてあげる学生は75.5%である。大学としては、学生の高い学びに対する意欲を十分に理解し、教育の質の向上と安心して学ぶことができる環境を整えるとともに、授業への不安や心配を取り除くような学生支援をすることが求められる。その他、新入生が頑張りたい活動としてあげた内容について、「留学」は35.4%と、前年度から10ポイント以上上昇していることから、グローバルな学びへの関心が高まる様子もうかがえた。

3. 卒業後の進路希望は「民間企業への就職」「進学」「公務員」が多いが学部による差異あり

大学卒業後の進路希望について複数回答可として尋ねた結果、全体では「民間企業に就職する」53.5%、「大学院などに進学する（海外含む）」43.9%、「公務員」31.0%、「教師など専門職」20.9%であった。学部別の特徴は、理学部で大学院への進学希望者が多く(66.3%)、文教育学部では「民間企業(56.7%)」「公務員(39.3%)」希望者が多いが、「教師など専門職」は他学部より多い(29.2%)。生活科学部は、「民間企業」が7割を超える一方、「進学」希望者も4割を超えていた。

4. 実家から通学する学生は60.2%、自宅外学生は39.8%、仕送り額はやや上昇傾向

入学後の住居の予定として複数回答可として尋ねた結果、全体で「実家から通学」は60.2%、「賃貸アパートやマンション」29.4%、国際学生宿舎は16.3%、お茶大SCCは11.1%と、実家通学者がやや増加した。また、自宅外通学者の「仕送りなし」者は3.6%と減少(平成29年度8.7%)、「10万円以上の仕送りがある」者は38.1%と上昇しており、全体的に仕送り額は上昇する傾向にあった。一方で、仕送り額が5万円未満の学生は1割以上おり、仕送り額に無回答の学生も1割を超えることから、学生の個別状況に配慮しながら経済的支援を継続的に行う必要がある。

5. 大学に期待する学生支援活動は学生・保護者ともに「就職支援」と「進路相談」

大学の学生支援活動への期待(複数回答)は、「就職支援」に期待する人が77.3と最も多く、次いで「進路相談」64.3%、「学習支援」63.3%であった。保護者調査も同様に「就職支援」86.2%、「進路相談」76.5%、「学習支援」63.3%となっていた。学生・保護者ともに、卒業後の学生のキャリア構築において大学への期待が高いことを示すものであり、この傾向は例年通りである。

(2) 奨学金と学生寮に関する考察

第3章で述べた学生支援における奨学金・学生寮の結果についてまとめ、考察する。

① 奨学金

奨学金等制度について新入生の結果をまとめると、「奨学金受給経験のある者」、「学生寮を認知している者」は奨学金等制度を認知している割合が高いことが示された。また保護者調査の結果では、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が1000万円未満の者」、「家計支持者の年収が800万円未満の者」、「奨学金受給経験のある者」、「学生寮を認知している者」、「学生寮を希望している者」について、奨学金等制度の利用を希望する割合が高いことが示された。

奨学金等制度の利用希望について保護者に尋ねた結果の中で、「希望しない」と回答した割合が50.9%であった。奨学金を「希望しない」と回答した割合が50%を超える結果となったのは今年度調査が初めてのことである。また奨学金等制度の種類別に利用希望を尋ねた結果(複数回答)では、本学独自の給付型奨学金である、「桜蔭会奨学金(3年生向け)」と「みがかずば奨学金」の2つが高い利用希望率を示していた。これまでの調査では、すべて貸与型である「日本学生支援機構(第一種奨学金)」が最も高い利用希望率を示していたが、今年度調査では初めて、本学独自の給付型奨学金2つがその利用希望率を上回る結果となった。奨学金の受給を「希望しない」という回答が多い一方で、給付型奨学金については過去最も高い利用希望率を示しており、貸与型よりも給付型奨学金を利用したいと考える保護者が増えていることが推察される。

また、保護者の奨学金等制度の認知率は82.8%と8割を超える一方で、新入生本人の認知率は65.9%と低い結果となっている。奨学金等制度については、保護者のみならず学生自身も理解し情報を得ておくことで、困窮した場合の助けとなることもある。学生自身にも情報がしっかりと届くような広報をしていく必要がある。

② 学生寮

学生寮について新入生の結果をまとめると、「入学後の予定住居が実家以外の者」は学生寮を認知している割合が高いことが示された。

また保護者調査の結果では、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が1000万円未満の者」、「家計支持者年収が800万円未満の者」、「学生寮を認知している者」について、学生寮を希望する割合が高いことが示された。経済支援の一環として学生寮が捉えられていることが推察される。

学生寮の認知について過去7年の結果と比較すると、今年度新入生の認知率63.0%、保護者の認知率54.6%ともに、最も低い認知率を示していた。また保護者が学生寮を「希望しない」と回答した割合も74.7%と過去調査と比べて最も低い割合を示していた。

本学の学部向けの学生寮としては、寮費が比較的安価であり、外国人留学生も入居する個室タイプの国際学生宿舎と、教育寮としての側面も持つルームシェアタイプのお茶大SCCの2つがあり、それぞれの生活スタイルは異なるものである。必要とする学生が多く情報を得た上で自分に合ったスタイルの学生寮を選択できるよう、それぞれの寮の情報を広く公開していく必要がある。

(3) 学生・キャリア支援における課題

平成30年度新入生調査および保護者調査を通じて得られた、本学における学生・キャリア支援の課題は次の3点である。

① 学生の多様な進路希望へ対応したキャリア支援の実践

平成30年度の新入生においても、約9割が第一志望として本学に入学し、高い学習意欲と勤勉さを持ち、進路の希望は、民間企業、大学院への進学、公務員、教員など多様である。よって、本学のキャリア支援についても、教職員は、このような学生のニーズを十分に認識した上で、進路相談や就職（キャリア）支援の利用を促すような活動が求められる。キャリア支援としてはすでに、低学年から参加できる支援行事を開催したり、ワークショップといった、きめ細やかで多様なキャリア支援活動を実践しているが、今後も支援の内容を振り返りながら、キャリア支援の質的向上に努力する必要がある。

同時に、キャリア教育面においても、平成29年度に開始したキャリアデザインプログラムの浸透を目指し、リーダーシップ教育部門とも連携して教育内容を充実させ、学生には、高い知識と教養、専門性を活かせるように自分のキャリアを考える機会を提供するとともに、リーダーシップとコンピテンシーを涵養し得るキャリア教育を実践することが課題である。

さらに、本学の多くの保護者の方々は、大学に対する進路相談や就職支援への期待を寄せ、また学生のキャリア形成への関与が高い。よって、毎年実施する後援会総会での就職・進路情報の提供や大学ホームページを活用した情報提供などを継続し、保護者の期待や要請に応じていく必要があるだろう。

② 個々の事情に配慮した経済的支援の充実

平成30年度は実家から通学予定の新入生が60.2%と平成29年度にくらべて約5ポイント上昇し、自宅外通学の仕送り額については10万円以上仕送りを受ける者の割合は増加し、「仕送りにし」の学生の割合も減少した。また、平均世帯収入も平成26年度以来初めて1000万円を超え、全体としては、学生が経済生活を心配することなく学業に専念できる環境へ向かっている様子が見えてくる。しかし、紙幅の関係上、本報告書には掲載していないが、自宅外から通学する学生の保護者で暮らし向きのゆとりがないと回答する割合が高く、仕送り額の少ない学生では、入学後の「生活・経済」に関する不安・心配が高くなっている。支援する大学としては、これらの現状を十分に認識し、日本学生支援機構や本学独自の奨学金をはじめとし、その他の経済的支援を学生および保護者に十分に広報することが重要である。また、学生からの相談を教職員がきめ細かく学生支援部門につなぎ、すべての学生が学業に専念できるような経済的支援を充実させることが継続的な課題である。

③ 大学院進学希望者へのキャリア支援の充実

本学は、学部卒業後の進路として大学院進学を希望する新入生が全体で4割を超え、理学部が66.3%と顕著に高いが、生活科学部も44.3%、文教育学部も30.3%となっている。また、さらに博士後期課程の進学も視野に入れる学生もいる。よって、大学院進学希望者へのキャリア支援・キャリア教育を引き続き充実させていく必要がある。すでに前期学生に対しては、キャリア副専攻として「公務員」「教員」「産学連携」コースを設け、高い専門性を生かしたキャリア形成ができるような教育を行っている。大学院進学希望者に対して、研究や学びと並行して、早期に学生が自身のキャリア・プランを考える機会を提供するようなキャリア支援の提供が望まれる。

新入生生活調査

<入学予定者用>

(一般入試合格者および私費外国人留学生)

お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、お茶の水女子大学に合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、みなさんのご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはございません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】新入生生活調査担当 (03-5978-5147)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、()内に具体的な内容を記入して下さい。()内に書ききれない場合は、欄外にご記入下さい。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方だけにだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」とか⑪などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、あなたや保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査返送用封筒に入れていただき、**指定の期日（別紙参照）までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしくお願いいたします。

I. まず、あなた自身およびご家族のことについて、お聞きします。

(1) 入学予定の学部学科に○をつけてください。

・文教育学部

1. 人文科学科 2. 言語文化学科 3. 人間社会科学科 4. 芸術・表現行動学科

・理学部

5. 数学科 6. 物理学科 7. 化学科 8. 生物学科 9. 情報科学科

・生活科学部

10. 食物栄養学科 11. 人間・環境科学科 12. 人間生活学科 13. 心理学科

(2) 出身高校について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

A. 高校（設置者）は → 1. 公立 2. 私立 3. 国立 4. 海外 5. 高等学校卒業程度認定試験

B. 種類は → 1. 3年制 2. 中高一貫校 → (3) へ

C. 学科は → 1. 普通科（理数科も含む） 2. 総合学科
3. 専門学科（商業・工業、家庭、農業科など） 4. その他（ ）

(3) 出身高校の所在地の都道府県をご記入ください。高等学校卒業程度認定試験合格者は、受験時に住んでいた都道府県をご記入ください。

1. 都道府県（県名 ） 2. 海 外

(4) あなたのご家族の構成について、同居を問わず、あてはまる方**すべて**に○をつけてください。

1. 父親 3. 兄 5. 弟 7. 祖父 9. 夫 11. 娘
2. 母親 4. 姉 6. 妹 8. 祖母 10. 息子 12. その他（ ）

(5) あなたを含む兄弟姉妹の人数をご記入ください。同居を問わずお答えください。

--	--

人

II. これまでの進路選択や学生生活について、お聞きします。

(1) 出身小学校・中学の設置者について、それぞれあてはまるもの**1つ**に○をつけてください。
転校している場合は、小学校6年次、中学3年次の学校について、お答えください。

小学校は → 1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 海外

中学校は → 1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 海外

(2) あなたは小学校・中学・高校に入学するために受験をしましたか。それぞれあてはまるものに○をつけてください。

小学校は → 1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない

中学校は → 1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない

高校は → 1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない

(3) 本学の受験を決めた時期について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。高等学校卒業程度認定試験合格者は、今回の受験前の1年間を高校3年としてお考えください。

1. 高校入学以前

4. 高校3年4～8月

7. 高校3年1・2月

2. 高校1年

5. 高校3年9・10月

8. 高校卒業以降

3. 高校2年

6. 高校3年11・12月

(4) 受験時には、本学を第一志望としていましたか。

1. はい

2. いいえ

* (5) 高校卒業から現在までの間に経験したこと**すべて**に○をつけてください。

1. 高卒後、他の高等教育機関（高専、専門学校、短大、他の大学など）に入学した

2. 高卒後、フルタイムで働いた

3. 高卒後、浪人した

4. 高卒後、海外留学をした

5. この中にはない

Ⅲ. 大学入学後の学生生活について、お聞きします。

(1) 大学入学後に居住予定の都道府県**1つ**に○をつけてください。

- | | |
|--------|--------------|
| 1. 東京都 | 4. 神奈川県 |
| 2. 埼玉県 | 5. その他の県 () |
| 3. 千葉県 | |

* (2) 大学入学後に予定している住居**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 実家 | 4. 大学の寮 (お茶大SCC) |
| 2. 実家以外の賃貸アパートやマンション | 5. 大学以外の寮 |
| 3. 大学の寮 (国際学生宿舎) | 6. その他 () |

(3) 【(2) で「賃貸アパートやマンション」に○をつけた方にお伺いします】

1か月の家賃 (管理費込み) の予算をご記入ください。千円未満は四捨五入してください。

<input type="text"/>	万	<input type="text"/>	千円
----------------------	---	----------------------	----

(4) 【(2) で「2～6 (実家以外)」に○をつけた方にお伺いします】

1か月あたりの仕送り予定額 (授業料を含まない) についてご記入ください。万円未満は四捨五入してください。

<input type="text"/>	万円	0. 仕送りはない
----------------------	----	-----------

【全員の方に】

(5) 大学に入学後、頑張ろうと思う活動として、あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 大学の授業 | 4. 授業以外での勉強 | 7. ボランティア活動 |
| 2. クラブ・サークル活動 | 5. 友達との交流 | 8. 留学 |
| 3. アルバイト活動 | 6. 趣味 | 9. その他 () |
| | | 10. 特にない |

(6) 【(5) で「アルバイト活動」に○をつけた方にお伺いします】

アルバイト活動をどの程度する予定ですか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 長期休暇期間 (夏、冬、春休み) のみ | 5. 学期中に不定期的に、長期休暇期間にも |
| 2. 学期中、不定期 | 6. その他 () |
| 3. 学期中、定期的に | 7. 未定 |
| 4. 学期中に定期的に、長期休暇期間にも | |

新入生生活調査

＜入学予定者の保護者用＞

(一般入試合格者)

ご子女が、お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、ご子女のお茶の水女子大学合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、ご子女のご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはございません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-5147)

【個人情報について】

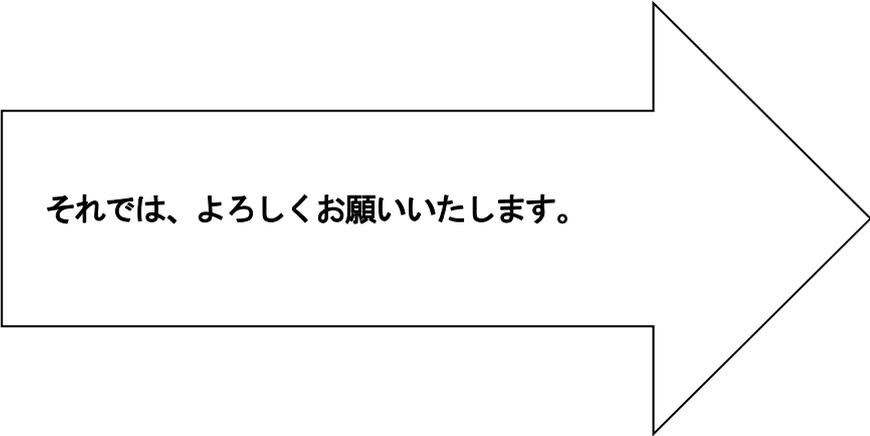
お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、()内に具体的な内容を記入してください。()内に書ききれない場合は、欄外にご記入ください。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方だけにだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」とか⑪などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、ご子女や保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**



それでは、よろしくお願いたします。

【全員の方に】

(7) ご子女が大学に入学した後のご家庭の暮らし向きについて、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ゆとりがない 2. あまりゆとりがない 3. 多少ゆとりがある 4. ゆとりがある

* (8) ご家庭の世帯年収（学校に在学する者を除く同一世帯全員の年収。税込）について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 400万円未満 4. 800万円以上1000万円未満 7. 1400万円以上1600万円未満
2. 400万円以上600万円未満 5. 1000万円以上1200万円未満 8. 1600万円以上1800万円未満
3. 600万円以上800万円未満 6. 1200万円以上1400万円未満 9. 1800万円以上

* (9) 家計を主に支えている方の年収（税込）について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 400万円未満 4. 800万円以上1000万円未満 7. 1400万円以上1600万円未満
2. 400万円以上600万円未満 5. 1000万円以上1200万円未満 8. 1600万円以上1800万円未満
3. 600万円以上800万円未満 6. 1200万円以上1400万円未満 9. 1800万円以上

(10) 本学に入学予定のご子女への、1か月あたりの仕送り予定額（授業料を含まない）についてご記入ください。
万円未満は四捨五入してください。

万円

0. 仕送りはしない

(11) 授業料の負担予定について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
2. 一部をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）
3. ほぼ全額をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）

(12) 以下の奨学金などの制度について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(13) 以下の奨学金などの制度について、希望されるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 希望するものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(14) 以下の本学の学生寮について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 知らない |
|-----------|------------|-----------------|---------|

(15) 以下の本学の学生寮について、入寮を希望するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 特にない |
|-----------|------------|-----------------|---------|

(16) 受験から入学までに困ったこと・悩んだこと**すべて**に○をつけてください。

1. 子どもの体調や精神面のこと
2. 受験・入学のための費用準備
3. 受験・入学手続きのスケジュールの管理
4. 入学後の住まい探し
5. その他（）

(17) ご子女の大学生活が始まって心配なこと**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 授業や単位 | 5. 健康面 |
| 2. 就職や将来 | 6. 日常生活全般 |
| 3. 人間関係 | 7. その他（ ） |
| 4. 生活・経済面 | 8. 特にない |

(18) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|----------|------------|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他 () |
| | 10. 特になし | |

(19) ご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

父親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学 5. 大学院

母親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学 5. 大学院

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

・皆様のご子女に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

・ご子女がお茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。

()

・ご回答者とご子女との関係について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 父親 2. 母親 3. その他 (続き柄は:)

ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。

新入生生活調査 追加質問項目
<一般入試合格者のうち入学予定者>

以下の質問にもお答えください

1. あなたが高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 高校入学以前 2. 高校1年生 3. 高校2年生 4. 高校3年4～8月
 5. 高校3年9～12月 6. 高校卒業以降

2. あなたがお茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。

3. 専門（学科）を選ぶ際に、どなたに相談しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 父親 2. 母親 3. きょうだい 4. 高校の教員 5. 中学の教員
 6. 塾や専門学校の講師 7. 親戚 8. 高校などの先輩 9. 友人
 10. 誰にも相談していない 11. その他[]

4 (1) あなたが専門（学科）を選ぶに当たって、影響を受けた人はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 父親 2. 母親 3. きょうだい 4. 高校の教員 5. 中学の教員
 6. 塾や専門学校の講師 7. 親戚 8. 高校などの先輩 9. 友人
 10. お茶の水女子大学の学生 11. お茶の水女子大学の教職員
 12. 学者・研究者(お茶の水女子大学以外) 13. 影響を受けた人はいない
 14. その他[]

(2) (1) の方から影響を受けた内容はどのようなことでしたか。

(3) (1) で「4. 高校の教員」もしくは「5. 中学の教員」から影響を受けたと回答した方は、その先生の性別と専門、またもしわかれば、卒業した大学も教えてください。

- a. 性別 1. 女性 2. 男性
 b. 先生の専門 []
 c. 卒業大学 []大学

5 (1) あなたが進路を選ぶに当たって高等学校で受けた進学指導はどのようなものでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 個人面談 2. 三者面談 3. 資料室等の情報提供 4. 進路相談

(2) (1) で回答した進学指導に対して、考えた事があれば教えてください。

6. 出身高等学校は共学校でしたか、それとも女子校でしたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 共学校 2. 女子校

7. あなたは、高校時代、理系科目の学修において、十分に実験や実習に参加しましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 十分に参加した 2. やや参加した 3. どちらでもない
4. あまり参加していない 5. 参加していない

8. あなたがお茶の水女子大学を選んだ理由に、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 志望する分野があったから 2. 地理的条件が合っていたから (家から近い等)
3. 少人数制だから 4. 大学の雰囲気・環境がいいから 5. 女子大だから
6. 国立大学法人だから 7. 経済的な負担が軽いから 8. 総合大学だから
9. 有名だから 10. 入試内容が有利だから 11. 資格取得・就職に有利だから
12. 指導してもらいたい教員がいたから 13. 志望する分野で最先端をいつているから
14. その他 () 15. 特にない

・お茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。()

ご協力をありがとうございました。同封の返信用封筒に本体調査票と一緒に封入の上、他の入学関係書類に同封してご返送をお願いいたします。

付表 4

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)1/6

		学部	学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
I.(1)		学部	387	178	104	104	1
		総数		46.0%	26.9%	26.9%	0.3%
I.(2)	出身高校設置者	公立	55.8%	56.2%	44.2%	67.3%	0.0%
		私立	38.0%	35.4%	51.9%	28.8%	0.0%
		国立	4.9%	6.2%	3.8%	3.8%	0.0%
		海外	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		高等学校卒業程度認定試験	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	100.0%
I.(2)	出身高校・種類	該当者	382	174	104	104	0
		3年制	57.6%	56.9%	52.9%	63.5%	0.0%
		中高一貫	40.1%	39.7%	45.2%	35.6%	0.0%
		無回答	2.4%	3.4%	1.9%	1.0%	0.0%
I.(2)	出身高校・学科	該当者	382	174	104	104	0
		普通科(理数科も含む)	94.5%	93.1%	96.2%	95.2%	0.0%
		総合学科	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		専門学科(商業・工業、家庭、農業科など)	0.8%	0.6%	1.0%	1.0%	0.0%
		その他	2.4%	2.3%	1.0%	3.8%	0.0%
		無回答	1.8%	2.9%	1.9%	0.0%	0.0%
I.(3)	出身都道府県	総数	387	178	104	104	1
		国内	97.9%	97.8%	98.1%	99.0%	0.0%
		海外	1.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	1.0%	0.0%	1.9%	1.0%	100.0%
I.(4)	家族構成	総数	387	178	104	104	1
		父親	95.3%	95.5%	92.3%	99.0%	0.0%
		母親	99.2%	98.9%	100.0%	100.0%	0.0%
		兄	19.1%	18.5%	16.3%	23.1%	0.0%
		姉	23.3%	21.3%	26.0%	24.0%	0.0%
		弟	29.7%	28.7%	30.8%	30.8%	0.0%
		妹	28.2%	30.3%	25.0%	27.9%	0.0%
		祖父	36.4%	41.0%	31.7%	33.7%	0.0%
		祖母	47.0%	51.7%	42.3%	44.2%	0.0%
		夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		息子	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		娘	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他	1.3%	1.7%	0.0%	1.9%	0.0%
		無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
I.(5)	兄弟姉妹人数	該当者	321	145	84	92	0
		2人	72.6%	71.0%	69.0%	78.3%	0.0%
		3人	23.4%	24.1%	25.0%	20.7%	0.0%
		4人以上	4.0%	4.8%	6.0%	1.1%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)-a	小学校の設置者	総数	387	178	104	104	1
		国立	4.4%	5.6%	1.9%	4.8%	0.0%
		公立	89.4%	88.8%	89.4%	91.3%	0.0%
		私立	4.9%	3.9%	7.7%	3.8%	0.0%
		海外	1.3%	1.7%	1.0%	0.0%	100.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)-b	中学校の設置者	総数	387	178	104	104	1
		国立	8.3%	9.6%	5.8%	8.7%	0.0%
		公立	61.8%	64.0%	53.8%	66.3%	0.0%
		私立	28.4%	24.7%	39.4%	24.0%	0.0%
		海外	1.6%	1.7%	1.0%	1.0%	100.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-a	小学校受験の有無	総数	387	178	104	104	1
		受験をした	8.5%	7.3%	9.6%	9.6%	0.0%
		受験をしていない	91.0%	91.6%	90.4%	90.4%	100.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-b	中学校受験の有無	総数	387	178	104	104	1
		受験をした	45.2%	46.1%	49.0%	40.4%	0.0%
		受験をしていない	54.5%	53.4%	51.0%	59.6%	100.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-c	高校受験の有無	総数	387	178	104	104	1
		受験をした	64.6%	63.5%	64.4%	67.3%	0.0%
		受験をしていない	35.4%	36.5%	35.6%	32.7%	100.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)2/6

		総数	学部				
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
II.(3)	受験決定時期	総数	387	178	104	104	1
		高校入学以前	3.6%	3.9%	2.9%	3.8%	0.0%
		高校1年	12.7%	15.2%	2.9%	18.3%	0.0%
		高校2年	25.1%	29.8%	15.4%	26.0%	100.0%
		高校3年4～8月	24.5%	24.2%	23.1%	26.9%	0.0%
		高校3年9・10月	5.9%	5.6%	7.7%	4.8%	0.0%
		高校3年11・12月	7.8%	5.6%	12.5%	6.7%	0.0%
		高校3年1・2月	10.6%	10.7%	15.4%	5.8%	0.0%
		高校卒業以降	9.6%	5.1%	20.2%	6.7%	0.0%
		無回答	0.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
II.(4)	第一志望	総数	387	178	104	104	1
		はい	84.5%	89.9%	70.2%	90.4%	0.0%
		いいえ	15.5%	10.1%	29.8%	9.6%	100.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(5)	高校卒業から大学入学までの間に経験したこと	総数	387	178	104	104	1
		高卒後、他の高等教育機関に入学した	1.8%	1.1%	2.9%	1.9%	0.0%
		高卒後、フルタイムで働いた	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		高卒後、浪人した	15.5%	9.0%	25.0%	17.3%	0.0%
		高卒後、海外留学をした	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		この中にはない	73.1%	78.7%	63.5%	73.1%	100.0%
		無回答	10.3%	11.8%	9.6%	8.7%	0.0%
III.(1)	居住予定の都道府県	総数	387	178	104	104	1
		東京都	65.9%	69.1%	62.5%	63.5%	100.0%
		埼玉県	11.6%	12.9%	10.6%	10.6%	0.0%
		千葉県	5.9%	3.9%	8.7%	6.7%	0.0%
		神奈川県	13.2%	10.1%	16.3%	15.4%	0.0%
		その他の県	3.1%	3.9%	1.9%	2.9%	0.0%
		無回答	0.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
III.(2)	居住予定の住居	総数	387	178	104	104	1
		実家	60.2%	59.6%	65.4%	56.7%	0.0%
		実家以外の賃貸アパートやマンション	29.2%	28.1%	26.9%	32.7%	100.0%
		大学の寮(国際学生宿舎)	16.3%	16.3%	13.5%	19.2%	0.0%
		大学の寮(お茶大SCC)	11.1%	11.2%	8.7%	13.5%	0.0%
		大学以外の寮	3.9%	3.9%	4.8%	2.9%	0.0%
		その他	2.1%	2.8%	1.0%	1.9%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
III.(3)	家賃	該当者	113	50	28	34	1
		5万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		5～7万円台	53.1%	50.0%	50.0%	58.8%	100.0%
		8～9万円台	31.9%	30.0%	42.9%	26.5%	0.0%
		10～12万円台	9.7%	14.0%	3.6%	8.8%	0.0%
		13～14万円台	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		15万円以上	1.8%	2.0%	0.0%	2.9%	0.0%
		無回答	3.5%	4.0%	3.6%	2.9%	0.0%
III.(4)	仕送り額	該当者	165	80	38	46	1
		仕送りはない	3.6%	5.0%	5.3%	0.0%	0.0%
		5万円未満	7.9%	7.5%	5.3%	10.9%	0.0%
		5～7万円台	32.7%	26.3%	31.6%	43.5%	100.0%
		8～9万円台	6.1%	2.5%	7.9%	10.9%	0.0%
		10～12万円台	24.2%	26.3%	21.1%	23.9%	0.0%
		13～14万円台	3.0%	2.5%	7.9%	0.0%	0.0%
		15万円以上	10.9%	11.3%	15.8%	6.5%	0.0%
無回答	11.5%	18.8%	5.3%	4.3%	0.0%		
III.(5)	入学後の活動	総数	387	178	104	104	1
		大学の授業	99.2%	98.9%	99.0%	100.0%	100.0%
		クラブ・サークル活動	73.6%	72.5%	70.2%	78.8%	100.0%
		アルバイト活動	69.0%	70.2%	60.6%	75.0%	100.0%
		授業以外での勉強	59.9%	70.2%	48.1%	54.8%	0.0%
		友達との交流	69.0%	68.5%	62.5%	76.0%	100.0%
		趣味	53.5%	55.6%	47.1%	55.8%	100.0%
		ボランティア活動	27.6%	31.5%	16.3%	32.7%	0.0%
		留学	35.4%	39.3%	26.0%	38.5%	0.0%
		その他	0.8%	1.1%	1.0%	0.0%	0.0%
		特にない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)3/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(6)	アルバイト活動予定	該当者	267	125	63	78	1
		長期休暇期間(夏、冬、春休み)のみ	3.4%	4.0%	0.0%	5.1%	0.0%
		学期中、不定期	1.9%	3.2%	0.0%	1.3%	0.0%
		学期中、定期的に	14.2%	16.0%	15.9%	10.3%	0.0%
		学期中に定期的に、長期休暇期間にも	50.9%	48.0%	49.2%	56.4%	100.0%
		学期中に不定期的に、長期休暇期間にも	10.5%	11.2%	11.1%	9.0%	0.0%
		その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
未定	19.1%	17.6%	23.8%	17.9%	0.0%		
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(8)	授業料の負担予定	総数	387	178	104	104	1
		ほぼ全額を保護者が負担予定	87.3%	86.0%	88.5%	88.5%	100.0%
		一部をあなたが負担予定	10.6%	11.2%	10.6%	9.6%	0.0%
		ほぼ全額をあなたが負担予定	1.3%	2.2%	0.0%	1.0%	0.0%
		無回答	0.8%	0.6%	1.0%	1.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	受けたことのある奨学金	総数	387	178	104	104	1
		日本学生支援機構の奨学金	1.8%	2.8%	1.0%	1.0%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		学校独自の奨学金	2.1%	2.2%	1.9%	1.9%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	1.0%	1.7%	0.0%	1.0%	0.0%
		新聞社の奨学金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他の奨学金	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%
		学費免除	1.6%	1.7%	1.9%	1.0%	0.0%
		特待生	5.4%	6.2%	6.7%	2.9%	0.0%
		無回答	88.4%	86.5%	87.5%	92.3%	100.0%
		Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-1 日本学生支援機構の奨学金	該当者	7	5	1
記入あり	57.1%			60.0%	100.0%	0.0%	0.0%
記入なし	42.9%			40.0%	0.0%	100.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-2 地方公共団体の奨学金	該当者	1	1	0	0	0
		記入あり	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-3 学校独自の奨学金	該当者	8	4	2	2	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-4 民間奨学団体の奨学金	該当者	4	3	0	1	0
		記入あり	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-5 新聞社の奨学金	該当者	0	0	0	0	0
		記入あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-6 その他の奨学金	該当者	2	1	1	0	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-7 学費免除	該当者	6	3	2	1	0
		記入あり	66.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-8 特待生	該当者	21	11	7	3	0
		記入あり	90.5%	90.9%	85.7%	100.0%	0.0%
		記入なし	9.5%	9.1%	14.3%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-1 日本学生支援機構の奨学金	該当者	7	5	1	1	0
		給与	28.6%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		貸与	71.4%	60.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-2 地方公共団体の奨学金	該当者	1	1	0	0	0
		給与	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-3 学校独自の奨学金	該当者	8	4	2	2	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-4 民間奨学団体の奨学金	該当者	4	3	0	1	0
		給与	75.0%	66.7%	0.0%	100.0%	0.0%
		貸与	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-5 新聞社の奨学金	該当者	0	0	0	0	0
		給与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-6 その他の奨学金	該当者	2	1	1	0	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)4/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-7 学費免除	該当者	6	3	2	1	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-8 特待生	該当者	21	11	7	3	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の認知	総数	387	178	104	104	1
		日本学生支援機構(第一種奨学金)	33.9%	37.1%	29.8%	32.7%	0.0%
		日本学生支援機構(第二種奨学金)	31.5%	33.7%	26.9%	32.7%	0.0%
		日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	6.7%	8.4%	5.8%	4.8%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	13.4%	16.3%	9.6%	12.5%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	13.4%	14.6%	10.6%	14.4%	0.0%
		みがかずば奨学金	46.3%	55.6%	30.8%	46.2%	0.0%
		桜蔭会奨学金(3年生向け)	9.8%	10.1%	9.6%	9.6%	0.0%
		育児支援奨学金	2.8%	2.8%	2.9%	2.9%	0.0%
		入学料免除制度	16.5%	18.0%	16.3%	14.4%	0.0%
		入学料徴収猶予制度	10.9%	12.4%	8.7%	10.6%	0.0%
		授業料免除制度	20.7%	23.0%	19.2%	18.3%	0.0%
		授業料徴収猶予制度	10.3%	11.8%	7.7%	10.6%	0.0%
知っているものはない	31.8%	23.6%	43.3%	33.7%	100.0%		
無回答	2.3%	2.2%	1.0%	3.8%	0.0%		
Ⅲ.(11)	知っている学生寮	総数	387	178	104	104	1
		国際学生宿舎	45.0%	48.3%	33.7%	51.0%	0.0%
		お茶大SCC	60.5%	66.3%	41.3%	70.2%	0.0%
		小石川寮(大学院生向け)	24.8%	32.0%	15.4%	22.1%	0.0%
		知らない	36.7%	30.9%	54.8%	27.9%	100.0%
無回答	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%		
Ⅲ.(11)	希望する学生寮	総数	387	178	104	104	1
		国際学生宿舎	18.6%	19.1%	15.4%	21.2%	0.0%
		お茶大SCC	12.9%	12.9%	9.6%	16.3%	0.0%
		小石川寮(大学院生向け)	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		知らない	76.5%	76.4%	81.7%	71.2%	100.0%
無回答	1.6%	1.7%	1.9%	1.0%	0.0%		
Ⅲ.(12)	心配なこと	総数	387	178	104	104	1
		授業や単位	66.4%	64.6%	65.4%	70.2%	100.0%
		就職や将来	55.8%	60.1%	48.1%	55.8%	100.0%
		人間関係	49.9%	47.2%	48.1%	55.8%	100.0%
		生活・経済面	34.1%	34.8%	34.6%	31.7%	100.0%
		健康面	14.5%	13.5%	17.3%	12.5%	100.0%
		日常生活全般	22.2%	22.5%	17.3%	26.0%	100.0%
		その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		特にない	11.6%	12.4%	14.4%	7.7%	0.0%
無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%		
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-1 充実したキャンパスライフを送れるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	27.9%	28.1%	23.1%	32.7%	0.0%
		ある程度あてはまる	41.6%	39.3%	47.1%	40.4%	0.0%
		あまりあてはまらない	20.9%	23.6%	21.2%	15.4%	100.0%
		あてはまらない	9.6%	9.0%	8.7%	11.5%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	69.5%	67.4%	70.2%	73.1%	0.0%
あてはまらない(計)	30.5%	32.6%	29.8%	26.9%	100.0%		
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-2 友達ができるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	24.5%	25.3%	20.2%	27.9%	0.0%
		ある程度あてはまる	38.8%	37.1%	45.2%	34.6%	100.0%
		あまりあてはまらない	26.9%	27.0%	26.0%	27.9%	0.0%
		あてはまらない	9.8%	10.7%	8.7%	9.6%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	63.3%	62.4%	65.4%	62.5%	100.0%
あてはまらない(計)	36.7%	37.6%	34.6%	37.5%	0.0%		
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-4 金銭面で負担がかからないか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	20.2%	24.2%	13.5%	20.2%	0.0%
		ある程度あてはまる	37.5%	37.6%	42.3%	31.7%	100.0%
		あまりあてはまらない	29.7%	25.3%	28.8%	38.5%	0.0%
		あてはまらない	12.4%	12.4%	15.4%	9.6%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
あてはまる(計)	57.6%	61.8%	55.8%	51.9%	100.0%		
あてはまらない(計)	42.1%	37.6%	44.2%	48.1%	0.0%		

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)5/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-5 授業についていけるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	32.0%	35.4%	28.8%	29.8%	0.0%
		ある程度あてはまる	43.7%	41.6%	45.2%	45.2%	100.0%
		あまりあてはまらない	20.4%	19.7%	20.2%	22.1%	0.0%
		あてはまらない	3.9%	3.4%	5.8%	2.9%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	75.7%	77.0%	74.0%	75.0%	100.0%
		あてはまらない(計)	24.3%	23.0%	26.0%	25.0%	0.0%
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-6 進級や卒業ができるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	19.1%	22.5%	16.3%	16.3%	0.0%
		ある程度あてはまる	30.2%	25.8%	33.7%	33.7%	100.0%
		あまりあてはまらない	39.8%	39.3%	39.4%	41.3%	0.0%
		あてはまらない	10.9%	12.4%	10.6%	8.7%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	49.4%	48.3%	50.0%	50.0%	100.0%
		あてはまらない(計)	50.6%	51.7%	50.0%	50.0%	0.0%
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-7 将来の目標が見つかるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	22.7%	24.7%	19.2%	23.1%	0.0%
		ある程度あてはまる	29.7%	29.2%	32.7%	26.9%	100.0%
		あまりあてはまらない	32.0%	30.3%	35.6%	31.7%	0.0%
		あてはまらない	15.5%	15.7%	12.5%	18.3%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	52.5%	53.9%	51.9%	50.0%	100.0%
		あてはまらない(計)	47.5%	46.1%	48.1%	50.0%	0.0%
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-8 卒業後ちゃんと就職できるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	30.5%	37.1%	27.9%	21.2%	100.0%
		ある程度あてはまる	37.5%	36.0%	34.6%	43.3%	0.0%
		あまりあてはまらない	22.7%	16.9%	28.8%	26.9%	0.0%
		あてはまらない	9.3%	10.1%	8.7%	8.7%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	68.0%	73.0%	62.5%	64.4%	100.0%
		あてはまらない(計)	32.0%	27.0%	37.5%	35.6%	0.0%
Ⅲ.(14)	期待する学生支援活動	総数	387	178	104	104	1
		経済的支援	23.3%	28.1%	12.5%	25.0%	100.0%
		生活相談	18.6%	18.5%	16.3%	20.2%	100.0%
		健康相談	11.6%	10.7%	10.6%	13.5%	100.0%
		心理相談	16.5%	18.0%	13.5%	16.3%	100.0%
		学習支援	63.3%	68.5%	56.7%	60.6%	100.0%
		進路相談	64.3%	65.7%	60.6%	65.4%	100.0%
		就職支援	77.3%	79.2%	65.4%	85.6%	100.0%
		課外活動支援	34.9%	38.2%	22.1%	41.3%	100.0%
		その他	0.5%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
		特になし	3.6%	2.2%	6.7%	2.9%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅳ.(1)	大学卒業後の進路	総数	387	178	104	104	1
		民間企業に就職する	53.5%	56.7%	30.8%	70.2%	100.0%
		公務員になる	31.0%	39.3%	13.5%	33.7%	100.0%
		教師などの専門職につく	20.9%	29.2%	20.2%	7.7%	0.0%
		自営など、1から3以外の形で就職する	3.4%	3.4%	1.9%	4.8%	0.0%
		大学院などに進学する(海外含む)	43.9%	30.3%	66.3%	44.2%	100.0%
		その他	2.1%	2.8%	1.0%	1.9%	0.0%
		決めていない	16.5%	18.5%	16.3%	13.5%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-1 すぐに就職して最初から正社員・ 正規の職員になる	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	41.3%	51.1%	20.2%	45.2%	100.0%
		ある程度思う	40.3%	39.9%	36.5%	45.2%	0.0%
		そう思わない	17.6%	8.4%	42.3%	8.7%	0.0%
	無回答	0.8%	0.6%	1.0%	1.0%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-2 すぐに就職するが、正社員・正規 の職員にこだわらない	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	2.6%	3.4%	0.0%	3.8%	0.0%
		ある程度思う	20.9%	28.1%	10.6%	18.3%	100.0%
		そう思わない	74.9%	66.3%	88.5%	76.9%	0.0%
	無回答	1.6%	2.2%	1.0%	1.0%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-3 すぐに大学院などに進学する	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	24.0%	9.6%	55.8%	16.3%	100.0%
		ある程度思う	39.3%	39.3%	30.8%	48.1%	0.0%
		そう思わない	35.7%	49.4%	12.5%	35.6%	0.0%
	無回答	1.0%	1.7%	1.0%	0.0%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)6/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-4 就職してから大学院への進学を考 える	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	1.3%	1.1%	1.0%	1.9%	0.0%
		ある程度思う	17.3%	19.7%	17.3%	13.5%	0.0%
		そう思わない	80.1%	77.5%	80.8%	83.7%	100.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	1.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-5 資格試験・公務員試験などに合格 するまで就職しない	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	2.1%	1.7%	2.9%	1.9%	0.0%
		ある程度思う	19.1%	17.4%	19.2%	21.2%	100.0%
		そう思わない	77.3%	79.2%	76.9%	75.0%	0.0%
		無回答	1.6%	1.7%	1.0%	1.9%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-6 卒業後すぐには就職 しなくてもよい	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	7.0%	4.5%	14.4%	3.8%	0.0%
		ある程度思う	26.9%	25.8%	32.7%	23.1%	0.0%
		そう思わない	64.9%	68.0%	51.9%	72.1%	100.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	1.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-7 最初の就職先にできるだけ 長く勤める	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	31.5%	30.9%	33.7%	29.8%	100.0%
		ある程度思う	47.8%	46.6%	44.2%	53.8%	0.0%
		そう思わない	19.4%	20.8%	21.2%	15.4%	0.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	1.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-8 何年かして転職や独立をする	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	3.9%	5.6%	1.0%	3.8%	0.0%
		ある程度思う	37.0%	38.8%	28.8%	41.3%	100.0%
		そう思わない	57.9%	53.9%	69.2%	53.8%	0.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	1.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-9 結婚・出産後も仕事を続ける	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	58.9%	60.1%	63.5%	51.9%	100.0%
		ある程度思う	35.7%	34.3%	26.9%	47.1%	0.0%
		そう思わない	4.1%	3.9%	8.7%	0.0%	0.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	1.0%	0.0%
IV.(3)	就職や将来への親の関与-a 父親	総数	387	178	104	104	1
		まったく関与しない	5.7%	6.2%	6.7%	3.8%	0.0%
		あまり関与しない	27.4%	31.5%	26.9%	21.2%	0.0%
		どちらとも言えない	13.2%	11.8%	13.5%	15.4%	0.0%
		まあまあ関与する	43.7%	41.0%	39.4%	51.9%	100.0%
		非常に関与する	7.0%	7.3%	6.7%	6.7%	0.0%
		父親はいない	2.6%	1.7%	5.8%	1.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%		
IV.(3)	就職や将来への親の関与-b 母親	総数	387	178	104	104	1
		まったく関与しない	2.3%	2.8%	1.9%	1.9%	0.0%
		あまり関与しない	21.4%	24.2%	18.3%	19.2%	100.0%
		どちらとも言えない	12.7%	10.1%	15.4%	14.4%	0.0%
		まあまあ関与する	49.1%	50.0%	46.2%	51.0%	0.0%
		非常に関与する	13.7%	11.8%	17.3%	13.5%	0.0%
		母親はいない	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%		
[データ活用の許可]	総数	387	178	104	104	1	
	はい	99.7%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	
	いいえ 無回答	0.0% 0.3%	0.0% 0.6%	0.0% 0.0%	0.0% 0.0%	0.0% 0.0%	
[個人情報登録の許可]	総数	387	178	104	104	1	
	はい	97.2%	96.6%	97.1%	98.1%	100.0%	
	いいえ 無回答	1.8% 1.0%	2.2% 1.1%	1.9% 1.0%	1.0% 1.0%	0.0% 0.0%	
[受験番号]	総数	387	178	104	104	1	
	記入あり	99.7%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	
	記入なし	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
[お茶大入試方法]	総数	387	178	104	104	1	
	一般	75.7%	66.3%	84.6%	83.7%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・文教育学部	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・理学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・生活科学部	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	AO	5.4%	6.2%	4.8%	4.8%	0.0%	
	高校 不明	2.1% 15.8%	2.8% 23.0%	1.0% 9.6%	1.9% 9.6%	0.0% 0.0%	

付表5

新入生調査 基礎集計表 (保護者) 1/3

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(1) 家計を支えている人	総数	383	176	101	104	1
	父親	93.7%	92.6%	93.1%	96.2%	100.0%
	母親	9.1%	10.2%	8.9%	7.7%	0.0%
	入学予定者本人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 家計を支えている人の職業	総数	383	176	101	104	1
	勤労者	89.6%	89.2%	90.1%	89.4%	100.0%
	個人営業	4.2%	3.4%	4.0%	5.8%	0.0%
	法人経営者、自由業者	3.9%	4.0%	3.0%	4.8%	0.0%
	農林水産業者	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	働いていない	1.3%	1.1%	3.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(3) 父親の職業	総数	383	176	101	104	1
	フルタイム勤務	87.7%	88.1%	85.1%	89.4%	100.0%
	パートタイム勤務	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	自営	5.7%	4.5%	5.0%	8.7%	0.0%
	無職	2.3%	2.8%	3.0%	1.0%	0.0%
	いない	2.6%	2.3%	5.0%	1.0%	0.0%
	無回答	1.3%	1.7%	2.0%	0.0%	0.0%
(4) 父親の職種	該当者	336	155	86	93	1
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	16.4%	18.1%	16.3%	14.0%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	22.9%	18.7%	29.1%	23.7%	100.0%
	管理職(会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など)	38.1%	34.2%	39.5%	43.0%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	11.9%	12.3%	10.5%	12.9%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	6.5%	12.3%	2.3%	1.1%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	0.3%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	1.5%	1.9%	0.0%	2.2%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	0.6%	0.0%	1.2%	1.1%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業員など)	1.2%	1.9%	1.2%	0.0%	0.0%
	その他	0.6%	0.6%	0.0%	1.1%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	(5) 母親の職業	総数	383	176	101	104
フルタイム勤務		24.0%	22.7%	28.7%	21.2%	0.0%
パートタイム勤務		44.6%	47.2%	39.6%	46.2%	0.0%
自営		5.0%	1.7%	8.9%	6.7%	0.0%
無職		23.5%	25.0%	20.8%	23.1%	100.0%
いない		1.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		1.8%	1.1%	2.0%	2.9%	0.0%
(6) 母親の職種	該当者	92	40	29	22	0
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	51.1%	47.5%	48.3%	63.6%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	管理職(会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など)	6.5%	7.5%	3.4%	9.1%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	26.1%	30.0%	31.0%	9.1%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	3.3%	2.5%	3.4%	4.5%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	2.2%	2.5%	3.4%	0.0%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	4.3%	2.5%	3.4%	9.1%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	6.5%	7.5%	6.9%	4.5%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	(7) 入学後の暮らし向き	総数	383	176	101	104
ゆとりがない		12.8%	17.0%	9.9%	7.7%	0.0%
あまりゆとりがない		41.0%	42.6%	44.6%	34.6%	100.0%
多少ゆとりがある		37.3%	31.8%	37.6%	47.1%	0.0%
ゆとりがある		6.5%	5.7%	6.9%	7.7%	0.0%
無回答	2.3%	2.8%	1.0%	2.9%	0.0%	
(8) 世帯年収	総数	383	176	101	104	1
	400万円未満	5.5%	8.5%	3.0%	2.9%	0.0%
	400万円以上600万円未満	7.8%	8.5%	6.9%	6.7%	100.0%
	600万円以上800万円未満	13.6%	15.9%	11.9%	11.5%	0.0%
	800万円以上1000万円未満	22.5%	21.0%	25.7%	22.1%	0.0%
	1000万円以上1200万円未満	21.4%	20.5%	21.8%	22.1%	0.0%
	1200万円以上1400万円未満	12.0%	11.4%	10.9%	14.4%	0.0%
	1400万円以上1600万円未満	7.8%	5.7%	8.9%	10.6%	0.0%
	1600万円以上1800万円未満	3.1%	2.8%	3.0%	3.8%	0.0%
	1800万円以上	3.9%	2.8%	5.9%	3.8%	0.0%
	無回答	2.3%	2.8%	2.0%	1.9%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (保護者)2/3

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(9) 家計を支えている人の年収	総数	383	176	101	104	1
	400万円未満	8.4%	13.1%	3.0%	5.8%	0.0%
	400万円以上600万円未満	11.7%	10.8%	13.9%	10.6%	100.0%
	600万円以上800万円未満	20.4%	21.6%	16.8%	21.2%	0.0%
	800万円以上1000万円未満	24.3%	23.3%	30.7%	20.2%	0.0%
	1000万円以上1200万円未満	17.5%	17.0%	15.8%	20.2%	0.0%
	1200万円以上1400万円未満	7.8%	6.8%	7.9%	9.6%	0.0%
	1400万円以上1600万円未満	3.9%	2.8%	5.9%	3.8%	0.0%
	1600万円以上1800万円未満	1.0%	0.6%	1.0%	1.9%	0.0%
	1800万円以上	2.9%	2.3%	3.0%	3.8%	0.0%
	無回答	2.1%	1.7%	2.0%	2.9%	0.0%
(10) 仕送り額(万円)	総数	383	176	101	104	1
	仕送りはしない	52.5%	48.9%	59.4%	52.9%	0.0%
	5万円未満	5.0%	5.1%	4.0%	5.8%	0.0%
	5～7万円台	13.6%	13.6%	12.9%	13.5%	100.0%
	8～9万円台	3.1%	1.1%	3.0%	6.7%	0.0%
	10～12万円台	11.2%	13.6%	7.9%	10.6%	0.0%
	13～14万円台	2.6%	1.7%	3.0%	2.9%	0.0%
	15万円台以上	6.3%	7.4%	5.9%	4.8%	0.0%
		無回答	5.7%	8.5%	4.0%	2.9%
(11) 授業料の負担予定	総数	383	176	101	104	1
	ほぼ全額を保護者が負担予定	88.5%	84.7%	92.1%	91.3%	100.0%
	一部をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)	8.6%	10.8%	6.9%	6.7%	0.0%
	ほぼ全額をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)	1.8%	2.8%	1.0%	1.0%	0.0%
		無回答	1.0%	1.7%	0.0%	1.0%
(12) 奨学金の認知	総数	383	176	101	104	1
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	68.4%	67.0%	69.3%	70.2%	0.0%
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	61.4%	60.2%	59.4%	65.4%	0.0%
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	12.8%	13.1%	14.9%	10.6%	0.0%
	地方公共団体の奨学金	24.8%	28.4%	16.8%	26.0%	0.0%
	民間奨学団体の奨学金	21.9%	22.2%	23.8%	19.2%	0.0%
	みがかずば奨学金	39.2%	42.6%	35.6%	36.5%	0.0%
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	13.6%	14.2%	13.9%	11.5%	0.0%
	育児支援奨学金	6.8%	5.1%	7.9%	8.7%	0.0%
	入学料免除制度	32.9%	35.8%	28.7%	32.7%	0.0%
	入学料徴収猶予制度	22.7%	27.8%	14.9%	22.1%	0.0%
	授業料免除制度	32.4%	34.7%	29.7%	31.7%	0.0%
	授業料徴収猶予制度	22.2%	26.7%	19.8%	17.3%	0.0%
	知っているものはない	14.9%	13.1%	16.8%	15.4%	100.0%
	無回答	2.3%	3.4%	1.0%	1.9%	0.0%
(13) 奨学金の希望	総数	383	176	101	104	1
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	14.6%	16.5%	13.9%	12.5%	0.0%
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	8.6%	7.4%	8.9%	9.6%	0.0%
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%
	地方公共団体の奨学金	6.3%	6.8%	4.0%	6.7%	0.0%
	民間奨学団体の奨学金	13.1%	11.4%	12.9%	15.4%	0.0%
	みがかずば奨学金	15.1%	15.3%	12.9%	16.3%	0.0%
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	15.9%	14.8%	14.9%	18.3%	0.0%
	育児支援奨学金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	入学料免除制度	3.1%	5.7%	2.0%	0.0%	0.0%
	入学料徴収猶予制度	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	授業料免除制度	6.5%	9.7%	5.0%	2.9%	0.0%
	授業料徴収猶予制度	1.3%	2.3%	0.0%	1.0%	0.0%
	希望するものはない	50.9%	51.1%	53.5%	48.1%	100.0%
	無回答	8.1%	6.8%	8.9%	9.6%	0.0%
(14) 知っている学生寮	総数	383	176	101	104	1
	国際学生宿舎	45.4%	46.0%	41.6%	47.1%	100.0%
	お茶大SCC	52.7%	52.8%	48.5%	55.8%	100.0%
	小石川寮(大学院生向け)	26.1%	26.7%	22.8%	27.9%	0.0%
	知らない	43.3%	42.0%	50.5%	39.4%	0.0%
	無回答	2.1%	2.8%	0.0%	2.9%	0.0%
(15) 入寮を希望する学生寮	総数	383	176	101	104	1
	国際学生宿舎	19.1%	18.8%	15.8%	23.1%	0.0%
	お茶大SCC	13.8%	13.1%	12.9%	16.3%	0.0%
	小石川寮(大学院生向け)	2.1%	1.7%	1.0%	3.8%	0.0%
	特にない	74.7%	73.9%	81.2%	69.2%	100.0%
	無回答	3.1%	4.0%	1.0%	3.8%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (保護者)3/3

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(16) 受験から入学までに困ったこと	総数	383	176	101	104	1
	子どもの体調や精神面のこと	59.8%	56.8%	62.4%	61.5%	100.0%
	受験・入学のための費用準備	33.7%	40.3%	33.7%	23.1%	0.0%
	受験・入学手続きのスケジュールの管理	49.9%	52.8%	50.5%	45.2%	0.0%
	入学後の住まい探し	29.2%	28.4%	26.7%	32.7%	100.0%
	その他	3.7%	2.3%	4.0%	4.8%	0.0%
	無回答	4.7%	5.1%	3.0%	5.8%	0.0%
(17) 心配なこと	総数	383	176	101	104	1
	授業や単位	34.2%	33.0%	38.6%	31.7%	0.0%
	就職や将来	48.8%	51.1%	48.5%	46.2%	0.0%
	人間関係	50.7%	48.3%	60.4%	45.2%	0.0%
	生活・経済面	31.9%	35.8%	29.7%	26.9%	0.0%
	健康面	47.8%	48.3%	48.5%	46.2%	0.0%
	日常生活全般	34.5%	35.2%	33.7%	33.7%	100.0%
	その他	2.9%	1.7%	4.0%	3.8%	0.0%
	特になし	12.0%	11.4%	12.9%	12.5%	0.0%
無回答	1.6%	2.8%	0.0%	1.0%	0.0%	
(18) 期待する学生支援活動	総数	383	176	101	104	1
	経済的支援	25.6%	27.3%	24.8%	23.1%	0.0%
	生活相談	23.0%	22.2%	19.8%	26.9%	0.0%
	健康相談	26.4%	22.7%	28.7%	29.8%	0.0%
	心理相談	31.3%	28.4%	31.7%	35.6%	0.0%
	学習支援	63.4%	64.2%	66.3%	58.7%	100.0%
	進路相談	76.5%	75.0%	82.2%	74.0%	100.0%
	就職支援	86.2%	91.5%	73.3%	90.4%	100.0%
	課外活動支援	26.1%	28.4%	25.7%	23.1%	0.0%
	その他	1.3%	0.6%	2.0%	1.9%	0.0%
特になし	1.0%	0.6%	2.0%	1.0%	0.0%	
無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
(19) 両親の最終学歴・父親	総数	383	176	101	104	1
	中学・高校	9.4%	11.4%	8.9%	6.7%	0.0%
	高専	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%
	専門学校・短大	4.4%	4.0%	5.9%	3.8%	0.0%
	大学	65.5%	68.2%	58.4%	67.3%	100.0%
	大学院	18.5%	14.2%	22.8%	22.1%	0.0%
無回答	1.6%	1.7%	3.0%	0.0%	0.0%	
(19) 両親の最終学歴・母親	総数	383	176	101	104	1
	中学・高校	15.1%	18.2%	10.9%	14.4%	0.0%
	高専	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	専門学校・短大	36.6%	41.5%	35.6%	28.8%	0.0%
	大学	43.1%	33.0%	49.5%	53.8%	100.0%
	大学院	4.4%	5.7%	4.0%	2.9%	0.0%
無回答	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
[データ活用の許可]	総数	383	176	101	104	1
	はい	99.5%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%
	いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
[個人情報登録の許可]	総数	383	176	101	104	1
	はい	93.0%	94.3%	89.1%	94.2%	100.0%
	いいえ	6.8%	5.1%	10.9%	5.8%	0.0%
無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
[受験番号]	総数	383	176	101	104	1
	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[お茶大入試方法]	総数	383	176	101	104	1
	一般	75.5%	65.9%	84.2%	83.7%	0.0%
	推薦(帰国含む)・文教育学部	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・理学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・生活科学部	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	AO	5.5%	6.3%	5.0%	4.8%	0.0%
高校	2.1%	2.8%	1.0%	1.9%	0.0%	
不明	15.9%	23.3%	9.9%	9.6%	0.0%	
[回答者の続柄]	総数	383	176	101	104	1
	父親	24.3%	25.0%	21.8%	26.0%	0.0%
	母親	75.2%	74.4%	77.2%	74.0%	100.0%
	その他	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人文科学 科	なんとなく。科目が少ない
	学びたい比較歴史学コースが設置されていたから
	学科に興味があったから
	学芸員の資格を取得したかった
	興味があったから
	後期がある学科で、一番興味がありそうだったから
	史学を学びたいと考えており、他大学（第1志望）も文学部をえらんでいたから
	自分が学びたい学問に、落ちついた環境で取り組むことができるから
	自分が興味のある学問について深く学ぶことができると考えたから
	自分の興味・関心に合っていたから
	人文科学科のイメージは湧きにくいけど、地理や哲学が楽しそうだった
	人文科学科の哲学・倫理・美術史コースで学びたいと思ったから
	人類の営みに興味を持っていたから
	推薦入試の特徴が面白いと思ったから
	世界史に興味があったから
	世界史に興味があったため
	世界史に興味があったため
	西洋史に興味があったから
	地理や歴史に興味があったため
	哲学に興味があるから
	哲学を学びたかったから
	内容が興味深いように思ったから
	日本史に興味があったから
	美術史に興味があったから
	美術史や哲学に興味があったから
	美術史学、特に平安時代の絵巻物について研究したいため
	文学、美術を学びたいと思い、専攻があったから
	歴史が好きで、もっと学びたいと思ったから
歴史に興味があったから	
歴史を学びたいと思ったから	
歴史学に興味があったから。古典文学に特に興味があった。学べる学問の幅が広いと思ったから	
歴史学を主に勉強したいと思ったから	
言語文化 学科	センター試験の結果を考慮したから ・留学に興味があったから
	フランス語を学びたかったから
	以前から日本語や古典に興味を持っており、当大学のサイトで卒業論文のテーマ一覧を見て強く惹かれたため
	英語についてもっと学びたいから
	英語や言語が好きだから。お茶の水ならば言語のみでなく、様々なことを学べると思ったから
	英語を学んで使えるようになりたいから
	外国語に興味があったため
	興味を持ったから
	元々日本文学、日本語について学びたいと考えており、高校生活においてその意志が固まったため
	元々翻訳に興味があり、勉強したいと思っていたから
	言語に関心があり、英語が好きだったため
	言語に興味があり、少人数で意欲的に学びたいと思った
	言語に興味があるから
	言語学・記号学に興味があったため
	言語学に興味があったから
	言葉が好きで、丁寧な指導を受けたいと思ったから
古典を勉強したかったから	
語学に興味があったから	
広い視野を持つことができると思ったから	

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 2/6

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
言語文化 学科	高校1年生のときに学校の「アメリカ研修」に参加し、そこでさらに英語に興味を持ち、言語文化学科で英語についての学びや文化の理解も深めたいと思ったからです
	国語科の教員免許が取得できるから
	国際関係・言語に興味があるから
	国際社会で活躍したかったから
	私は編集業や翻訳家、作家といった分野を志しており、大学では語学力や洗練された表現力を身につけたいと考えたため
	自分が学びたいと思う学科だったから
	自分が興味を持っていることを学ぶことができると思ったからです
	自分のやりたいことができ、かつ資格や免許等がとれるから
	自分のやりたいことができそうだったから
	自分のやりたいことができる学科だから
	自分の興味のある学問ができるから
	種々の言語を学ぶことができ、多くの視点から文化を学ぶことができると考えたから
	周辺の環境の良さ 授業内容
	小さいころから本が好きで、語学に興味をもったから
	先生の勧めもあり、自分のやりたいこともできるようなので
	他大学では日本文学や日本語学のみしか学べないが、言語文化学科では両方をしっかり学ぶことができるため
	中国語を学びたいと思ったから
	中国語を学びたかったから
	定員が多いから
	読書、文章を作ることが好きのため。昔から国語の授業に楽しみを感じていたため、文学の教養をさらに身につけたいと思ったため
	日本語について学びたいと思ったから
	日本語について詳しく学びたいから
	日本語に興味があるから
	日本語以外の言語について学びたいと思ったし、留学制度なども充実していたから
	日本文学を学びたいと考えているから
	文学に興味があったから
	文学を学びたいと思ったから
	文学を学ぶことで、現在自分が置かれている世界の現状や人間そのものについてより深く理解したいと思った。言語自体に対する興味も幼少期からあった
	文学を専門に学びたかったから
	文学作品に対する深い読解力と、文学作品等を通して感じたことを言葉で的確に表現する方法を学び、どのように表現すれば、わかりやすく、深く相手の心に伝えることができるのかということの研究したいから
	文学作品の背景の読解や、母国語である日本語をより細かく学問として学ぶことに興味があったから
	文学作品や言語全般に関心があるから
翻訳家になりたいから	
人間社会 学科	オープンキャンパスやゼミナールでの先生がすてきたと思ったから
	センター試験の得点を見て
	ホームページを見ていいなと思ったから
	学びたいことが詳しく学べそうだったから
	学校推薦入試を受験した時まで心理学を希望していたのですが、将来の夢が明確でないことに気づき、大学生の間にもっと深く学びたいと考え、最も興味があつてかつ分野が狭すぎない学科を選ぼうと思ったからです
	教育学を学びたかったから
	興味があったから
	興味のある事柄はたくさんあったが、全て社会学につながると思い、お茶の水女子大学で社会学を学ぶなら人間社会科学科が適していると判断したから
	自分がやりたい勉強ができると感じたため
	自分が学びたいことがあったから
	自分が学びたいものがあるから。日程が合ったから

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 3/6

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人間社会 学科	社会学に興味があったから
	社会学に興味があったから
	社会学に興味があったから
	先行したい学問に近かったから
	特定の分野にこだわらず、広く「人間」の活動を観察し、分析したいと思ったから。アドミッションポリシーに深く共感したから
	内容に興味があったから
	貧困やジェンダーの問題に興味があったため
	幅広い分野を学ぶことができると思ったから
芸術・表 現行動学 科	バレエを習っていて、舞踊について学びたいと思ったから
	ホームページで知り、興味を持った後にオープンキャンパスで自分にぴったりな学科だと思ったため
	音楽が勉強しなかったから
	音楽を学びたいから
	音楽を実技だけでなく学問として学びたいと思ったから
	好きなことを学びたいと思ったから
	国立大学で舞踊を学べるから
	自分が勉強したいことが学べるから
	小さいころから舞踊に興味があり、今まで学ぶ機会がなかった 実技以外の側面について学んでいきたいと考えたから
	総合大学で音楽を学びたいから
	大学でも舞踊を学びたかったから
	舞踊における技術的な面、知識的な面双方の習得をめざし、夢を実現するため
	舞踊について理論と実技の両面から研究できるから
	舞踊を専門的に学びたかったから
踊りを学びたいと思ったから	
数学科	一番興味をもったから
	元々数学が好きで、更に深く学びたいと思ったからです
	将来、その学問の研究者になりたいと思ったから
	数学が好きだから
	数学が好きだから
	数学が得意なので
	数学の楽しさをもっと知りたいことと、教職をとれること
	数学を学びたいと思ったから
中学が高校の数学の先生となり、地元の中学、高校の学習支援の向上の役に立ちたいと考えたから	
物理学科	2次試験の配点が高く自分にとって有理だと考えたため
	センター試験の配点
	宇宙のはじまりや、自然界の法則に興味があったため
	興味がある分野について学べる学科だったため
	元々、宇宙が好きで漠然と宇宙について学びたいと考えていた。そこでお茶の水女子大学のパンフレットを見ていたときに物理学科で宇宙物理学の研究室を見つけたから
	好きな教科だったため
	高校生の時から興味のある学科だったため
	自宅からの距離、入試難易度・科目が自分に合っていた
	授業を受けていて、おもしろく興味を持ったから
	物理が好きだから
	物理が好きだから
	物理が好きだから
	物理の楽しさを知り、もっと深く学びたいと思ったため
	物理学に興味を持ったから
化学科	なじみの土地にあるので
	もともと、化学が大好きで、たくさん実験をしたかったから
	化学が好きだから
	化学が好きでもっと深く勉強したいと思ったから
	化学が好きで研究を先行する学科に入ろうと思った

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 4/6

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
化学科	化学が得意で興味のある分野だったから
	化学に興味があったから
	後期日程があり、自分のやりたいことに近かったから
	考え抜くことが好きなので、理科が現役時代に好きになり、浪人時代には化学に面白みを感じ、究めていきたいと思ったから
	実験が好きで、将来研究職に就きたいから
	生命化学を学びたかったから
	勉強していて最もおもしろく感じたから
生物学科	好きである為
	好きなものだから
	高校1年生のときに担任していただいた先生が生物の先生でその先生に教えていただいた生物が面白いと感じ、興味をもった
	高校で生物を習って、生命のすばらしさを知り、もっと生物を学びたいと思ったからです。再生医療や癌、薬などの研究の面から、病気の人の役に立ちたいです
	再生医療に関わる仕事がしたいと思っているので、最も近い研究ができる学科であると思い、志望しました
	生物、特に人間について興味があったから
	生物が好きだから
	生物が好きだから
	生物が好きだからです
	生物が好きで、より生物について学びたいと思ったから
	生物が好きで、生き物が進化の過程を経て今日の姿になった理由を知りたかったので
	生物に興味があったから
	生物に興味があるから
	生物学についての教養を深めたいと考えたため
生物学に興味があったため	
生物学科 生物学が好きで基礎研究能力を向上させたかったため	
歴史があるため	
情報科学科	オープンキャンパスに行って興味をもったから
	オープンキャンパスの模擬授業で興味を持ったから
	コンピュータを使いたかったから
	システム関係の仕事に就きたいから
	はっきりとした夢が定まっていなかったが、就職に強いと思ったから
	プログラミングができて、クリエイティブなことをしたいと思ったから
	プログラミングに興味があったから
	プログラムやグラフィクスに大いに興味があったから
	以前より、プログラミング等に興味があった為
	学校案内を見て、興味を持ったから
	興味があったから
	興味があったから
	興味があった分野であったから
	興味がある分野であったから
	興味のあることを学べるから学部・学科であったから
	興味のある分野だったから
	後期試験の合格人数が多くて、配点がセンターを重視していたから。理学部・工学部に入りたかったから
	今後、AIなどの技術に関係ある職業に就きたいと思っていたからです
	試験形式が自分に合っていたから
	将来の職業のために情報技術を学びたいと思ったから
情報という分野に興味があったから	
情報科学という分野に興味がある。時代に合っている。就職が良い	
情報科学に興味があったから	
情報科学に興味があったから	
情報系のことを学びたかったから	

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 5/6

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
情報科学 科	親の仕事に近い内容だったので興味があった
	人工知能など急激に発展する情報技術に関わりたと思ったため
	生活に深く関わる内容だと思ったから
	二次試験での科目の比率が選べて、自分にあった科目を選択できたから
	入学試験に物理を使用しない、将来性がある、就職率がよい
食物栄養 学科	どうしても食品系の学科に入りたいから
	一番興味のある学科だったから
	栄養について学びたかったから
	栄養について学びたくて、さらに管理栄養士の資格が欲しかったから
	栄養について興味があり、将来も栄養関係の職に就きたいと思っているから
	管理栄養士になりたいから
	管理栄養士になりたいから
	管理栄養士になりたかったから
	管理栄養士の養成課程であるから
	希望の仕事に就くため
	興味のあることを学べるから
	自分のやりたいこと、学びたいことが一番学べると思ったから
	実習が多く、自分の興味に合うことを学べると思ったから
	将来、食品開発に携わりたと思ったため
	将来の目標を達成させるため
	将来管理栄養士になりたかったため
	小学校四年生から高校三年生の夏まで通っていた料理教室で、食に興味を持ち、食を通して、多くの人の健康をサポートしていきたいと考えたからです。貴学の少人数で行うより専門的で実践的な授業で栄養に関する知識を身に付けたいと考えたからです
	食、栄養に対して興味があるから
	食に関わる学問を学びたいから
	食に興味があり、栄養学を学びたいと思ったから
	食べ物が体に作用する仕方について興味をもったから
	食品に関する勉強をしたかったから
	食品の有機化学の分野に興味をもった
	食物について幅広く学びたいため
	人間が生きる上で欠くことのできない“食”を科学の視点で学びたかったから
	弟が昔重度のアレルギー持ちであり、食や健康に幼いころから興味があったのに加え、中高の尊敬する家庭科の先生と同じ所で学びたいと思ったから
	病院で管理栄養士として働きたいから
優れた管理栄養士になるために、よりレベルの高いところで、より意識の高い仲間と、より専門的な知識を得たいと思ったから	
人間・環 境学科	1、2年次でいろんなことが学べるから
	オープンキャンパスに行き、興味の持てる学科だったため
	つくることが好きで、住居・生活などの分野に興味があったから
	ものづくりについて幅広く学ぶことができると考えたから
	一級建築士の資格を取得したいから
	一級建築士の受験資格が得られるから
	建築をはじめとして身近環境に興味があったから
	建築学を勉強できるから
	建築関連に興味があったため
	建築士になりたいから
	授業内容に興味があったから
	将来は建築の仕事に携わりたいため、その学問に関連することを学びたかったから
	人と関わるのが好きで、理科が好きだから
	多様な分野について学べると思ったから
都市計画がしたいと思ったから	
人間生活 学科	いろいろなことを学べると聞いたから

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 6/6

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人間生活 学科	やりたいと思っていた保育学が含まれていたから。調べていくうちにその学科の内容に非常に興味をもったから
	家政学部的なところに行きたかった。特に服飾に興味があるから
	学びたい科目が全てあり、履修できると知ったから
	貴大学の大学案内を読み、「一つの方向からではなく多角的に問題に取り組む」というこの学科の特徴に魅力を感じたから
	興味があることを幅広く学習できるから
	私が学びたいと思っている分野が国立大の中では貴校にしかなかったから
	自分が学びたい事とあっていたから
	自分の学びたいことが学べ、また、将来が狭くならないと思ったから
	社会学を学ぶことができるから
	社会学を幅広く学ぶことができるから
	授業の内容
	少人数で教育してくださる所
	身近な出来事について学べるから。また、社会学系のさまざまな領域を学べるから
	人間の社会や生活について学びたいと思ったから
	政治や経済に興味があったから
	生活に重点を置いた社会学を学べるから
	前から興味があった社会学・マスコミ系の勉強ができ、理系の科目にも触れることができると思ったから
	他の大学ではあまり見られない学科で、おもしろそうだったから
	被服・家政学を学びたいため
	幅広い分野について学習することができると思ったから
	幅広く学習できそうだったから
	幅広く実学的なことを学べると思ったから
	服飾文化に興味を持ったから
文化について学びたいと思ったから	
文系の幅広い分野が学べるため。高校の時に、「特に1番学びたいもの」を見つけられなかったので、学びの幅が広い学科を選んだ	
勉強する内容に面白さを感じたから。同じ学部内に理系の人がいるから	
様々なことを学んでから自分の学びたいことが選べるから	
心理学科	以前から興味のある内容が学べる学科だったから
	興味があったから
	興味があったから
	高校生活をふまえて、心理学を学びたいと感じたから
	自分が興味のある分野が学べると思ったから
	自分の人生を通じて人の心の大切さに気付いたため。精神面で不安定な人の手助けをする方法を専門的に学びたい
	心理学が学べる大学を探す中で、今年心理学科として新設され今まで分かれていた研究・臨床の分野が統合しより相対的に学ぶことができるようになったことを知り、興味を持ったから
	心理学に興味があったから
	心理学に興味があったから。またオープンキャンパスで話を聞いたから
	心理学の分野に非常に強い関心があったから
	心理学を学びたいから
	心理学を学びたかったから
	心理学を主として学びたかったから
	中学生のころから心理学を勉強したいと思っていたから
	日常生活でおきる事柄と心の動きの関係について学びたかったから。新しくできる国家資格の受験資格を得られるから

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選ぶにあたって、影響を受けた内容」 1/4

専門（学科）を選ぶにあたって、影響を受けた内容	影響を受けた人（複数回答）										入学学科		
	父親	母親	きょうだい	高校教員	中学教員	塾等の講師	親戚	高校などの先輩	友人	お茶大の学生		お茶大教職員	学者等（お茶大以外）
進みたい道に進むこと	○	○	○	○									食物栄養
物理の楽しさを教えてもらいました	○	○	○					○			○		物理学科
作品を読み込むことで見る魅力、作者（筆者）の意図を考察するおもしろさ、母国語を正しくあやつる難しさなどを感じ、この学科で学ぶことに興味をもちました	○	○	○	○	○	○					○	○	言語文化学科
大学に入学してからの生活、授業の体制をお茶の水女子大学生から教えていただき、魅力を感じたこと	○	○		○	○	○			○				化学科
どんなことを学びたいかを考える上で話をきいた	○	○		○	○	○			○				人間生活学科
文学研究や人文学の意義について再発見できた	○	○		○	○	○		○					言語文化学科
日本文学の奥深さ、面白さ	○	○		○	○	○							言語文化学科
親、先生：自分の学力レベルとの兼ね合い 本校の学生：校風の自由さ、自立精神がすばらしいと気づかされた	○	○		○	○	○				○			人間社会学科
強く勧められた	○	○		○	○	○				○			食物栄養
自分が本当に学びたいことは何かを理解すること	○	○		○	○	○							言語文化学科
学習内容やカリキュラムなどを一緒に調べて教えてもらった	○	○		○	○	○							化学科
学力や興味関心を考慮すると人間生活学科が良いと言われた	○	○		○	○	○							人間生活学科
お茶の水女子大学の利点、学校生活の様子など	○	○		○	○	○				○			人間社会学科
専門職として働ける	○	○		○	○	○							情報科学科
卒業後のことも見こして、学科をえらぶこと。資格をとるのか、など	○	○		○	○	○							人間生活学科
自分でやりたいことを学びなさい	○	○		○	○	○						○	食物栄養
舞踊コースを教えるもらった	○	○		○	○	○							芸術・表現行動学科
大学時代の話を聞いた	○	○		○	○	○							物理学科
学科に関する社会的な状況など	○	○		○	○	○							情報科学科
資格の取得について	○	○		○	○	○							人間・環境学科
歴史学への興味が生まれた オープンキャンパスで授業を受けて、学びたいと思った	○	○		○	○	○				○			人文科学科
分野の幅が広く、面白そうだと立ちそうだと言葉、意思が固まった。地理の楽しさを学んだ	○	○		○	○	○							人文科学科
自分の知らない学問を知ったこと	○	○		○	○	○							人間社会学科
ものづくりで身近な生活にアプローチする学問はどうか、ということ	○	○		○	○	○				○			人間・環境学科
その学科での勉強について。どのようなことをするか、など	○	○		○	○	○							物理学科
父親の仕事	○	○		○	○	○							情報科学科
最近A I分野が重要視されているということ	○	○		○	○	○							情報科学科
父が外食関係の職についていて自分もやってみてみたいと思った	○	○		○	○	○							食物栄養
父が建築関係の仕事についているから	○	○		○	○	○							人間・環境学科
1つの専門に絞るのではなく、経済学や社会学など広い分野が学べると聞いたから	○	○		○	○	○							人間生活学科
母親が本大学をすすめてくれた。姉が後押ししてくれた	○	○	○										言語文化学科

追加質問票自由記述「専門（学科）を選ぶにあたって、影響を受けた内容」 2/4

専門（学科）を選ぶにあたって、影響を受けた内容	影響を受けた人（複数回答）										入学学科		
	父親	母親	きょうだい	高校教員	中学教員	塾等の講師	親戚	高校などの先輩	友人	お茶大の学生		お茶大教職員	学者等（お茶大以外）
お茶の水女子大学に自分のやりたい分野ができるコースがあると教えてもらった	<input type="checkbox"/>	芸術・表現行動学科											
薬学を選ぶか食物栄養学を選ぶか迷い、助言をもらった	<input type="checkbox"/>	食物栄養											
教育がその人の人生にずっと付き添うこと	<input type="checkbox"/>	人間社会学科											
自分がやりたいことを学ぶことの後押しになった	<input type="checkbox"/>	芸術・表現行動学科											
数学が面白いこと	<input type="checkbox"/>	数学科											
高校の授業担当の先生がとても面白い方で、生物が好きになった	<input type="checkbox"/>	生物学科											
自分の興味に当てはまっていそうだと、教えてもらった	<input type="checkbox"/>	食物栄養											
資格を取った方が良いということ	<input type="checkbox"/>	人間・環境学科											
生物学科の方が向いていると助言して頂いたために、志望する決意を固めることができました	<input type="checkbox"/>	生物学科											
おいしい食事を作ってくれたことが、食に興味を持つきっかけになりました	<input type="checkbox"/>	食物栄養											
同じ学部を受ける先輩がいたことで、志望する気持ちが強まった	<input type="checkbox"/>	芸術・表現行動学科											
学べる内容について	<input type="checkbox"/>	人間生活学科											
世の中には様々な人がいるということ	<input type="checkbox"/>	人間生活学科											
母親が大学時代に美術史学を専攻しており、自身も興味を持つようになった	<input type="checkbox"/>	人間社会学科											
母の知人の娘さんが社会学をやっており、その話を私にしてくれたため、社会学という分野を知ることができた	<input type="checkbox"/>	人間社会学科											
学科の存在を知った	<input type="checkbox"/>	人間社会学科											
母親に学科を教えてもらった	<input type="checkbox"/>	芸術・表現行動学科											
母もお茶大出身で、中学の時からお茶大に入りたいたいと考えていて、学部の特徴や校風などについて話を聞き、自分の興味ある分野のことなども視野に入れ学科を選んだ	<input type="checkbox"/>	食物栄養											
教授法	<input type="checkbox"/>	人間・環境学科											
弟がアレルギー持ちであった。貴校の学生がとても生き生きとしていて自分もそうなりたいと思った	<input type="checkbox"/>	生物学科											
女子大であることは、共学の大学でも文系は女性が多いことを考えると、そこまで特殊な環境とはいえないし、気にすることはないということ	<input type="checkbox"/>	食物栄養											
就職に強い	<input type="checkbox"/>	人文科学科											
こういう研究もできるといふことを知り、興味を受けたこと	<input type="checkbox"/>	情報科学科											
建築への興味を共に養った	<input type="checkbox"/>	言語文化学科											
就職の際にいいのではと示唆されました	<input type="checkbox"/>	人間・環境学科											
人（子供）を率いていく力、人間性を感じた	<input type="checkbox"/>	人間生活学科											
授業で扱った文章や友人との会話から言語への興味をもった	<input type="checkbox"/>	人文科学科											
その学科に関する授業が、おもしろかった。（学校の授業と、大学の模擬授業）	<input type="checkbox"/>	言語文化学科											
読書の面白さや、翻訳の面白さをおしえてくれた	<input type="checkbox"/>	人文科学科											
幅広い教養を持つ人は魅力的であるということ	<input type="checkbox"/>	言語文化学科											
国語を生業とすることを勧められたこと	<input type="checkbox"/>	言語文化学科											
授業が楽しくて、数学の面白さを知ることができた	<input type="checkbox"/>	数学科											
副校長が物理の先生で、様々な実験を通して物理学の面白さを教えて下さった	<input type="checkbox"/>	物理学科											

追加質問票自由記述「専門（学科）を選ぶにあたって、影響を受けた内容」 3/4

専門（学科）を選ぶにあたって、影響を受けた内容	影響を受けた人（複数回答）										入学学科			
	父親	母親	きょうだい	高校教員	中学教員	塾等の講師	親戚	高校などの先輩	友人	お茶大の学生		お茶大教職員	学者（お茶大以外）	その他
その先生のおかげで化学がとて好きになれたから														化学科
自分も史学を学びたいと思うようになった														人文科学科
なぜそうなるのかをわかりやすく教えてくれたため														物理科学科
直接言われた訳ではないですが、授業や実験を通して科学の世界は広い、と感じました														化学科
生物のおもしろさ、お茶の水女子大学の教育方針の良さを教わった														生物科学科
学科で学習できること														人間生活学科
先生、先輩がお茶大の卒業生で、たくさん話をきく機会があった。高校の卒業研究が社会学系で、先生にすすめられた														人間社会学科
評判														言語文化学科
生物の授業を通して分子生物学のおもしろさを知った														化学科
担任の先生から、お茶の水女子大学の食物栄養学科で勉強をするOGの話を聞き、その先輩とお茶の水女子大学に興味を持つようになった														食物栄養
高校の教員や友人は困っている時に助けてもらい、その経験から心理学部を意識しはじめた														心理学科
専門分野についていきいきと語っているのを見て憧れた														化学科
尊敬している高校の先生の授業でのお話が興味深かったです。同じ高校の先輩でお茶の水女子大学の方がその学科で充実しているというお話をきいたこと														人間社会学科
水女子大学としていての姿を見た														芸術・表現行動学科
入学する学科で学んでいる学生と話したところ、とても充実した学習ができると理解した														人間・環境学科
社会でおきている出来事に関心を持ち、自分の意見をはっきりと主張しつつも他の意見もきいて考える姿勢に強く憧れたこと														人間生活学科
歴史の楽しさ、奥深さを学んだ														人文科学科
哲学を学ぶメリットや学んだ結果何が得られたか。数学と哲学との関連性について														人文科学科
西洋史が面白いということ														人文科学科
勧めをうけた														人文科学科
お茶の水はたのしい														人文科学科
勧めていただいた														人文科学科
現代文の授業														人文科学科
物事の考え方やとらえ方が独特でかつ合理的な先生がおり、その先生の専門の分野を学んでみたいと思った														人文科学科
学校の世界史の授業がおもしろかったこと														人文科学科
発展途上国での教育支援（青年海外協力隊）に参加していたこと														言語文化学科
先生の授業が好きで、もっと知りたいと思うようになったこと														言語文化学科
教育の傍ら作家も職業としてしている人物で、それまでのどの教員よりも言葉やその使い方に気を遣っていた様子に影響を受けた														言語文化学科
好きなことが学べる学科を探すように言われたこと														言語文化学科
この大学の存在を教えていただいたこと														言語文化学科

追加質問票自由記述「専門（学科）を選ぶにあたって、影響を受けた内容」 4/4

専門（学科）を選ぶにあたって、影響を受けた内容	影響を受けた人（複数回答）										入学学科			
	父親	母親	きょうだい	高校教員	中学教員	塾等の講師	親戚	高校などの先輩	友人	お茶大の学生		お茶大の教職員	学等（お茶大以外）	その他
先輩方やお茶大生の舞台をみて感動した														芸術・表現行動学科
大学で学んでいることや、その楽しさを教えていただいた														食物栄養
先輩が実際に学んでいること														人間生活学科
学校にある、先輩のレポートを読んで、「副プログラム」で他の分野も学ぶことができるところに魅力を感じ、ぜひここで学びたい、と強く思いました														言語文化学科
オープンキャンパスの模擬授業での学生、教職員の方々の雰囲気を見て、より入りたいたいという思いが強まった。ぜひお茶の水女子大学で心理学を学びたいと感じた														心理学
同じ夢を語ってかっこいいと感じた														食物栄養
世界史に関する興味深いエピソードを教えてもらった														人文科学科
友人と哲学に関する話を聞いて、大学で学びたいという興味が出てきた														人文科学科
お茶の水を原学した人たちが色々な角度で感觸を言っていた														言語文化学科
留学した友人を見て、異なる言語への関心が強まった														言語文化学科
「食」に興味があった														食物栄養
友人に食物栄養科という学科があることを教えてもらった														食物栄養
色々な視点から物事を考えたと考えも変わっていくこと														人文科学科
オープンキャンパスでの模擬授業や質問														人文科学科
商学や法学といった一つの方向から問題に取り組みるのではなく包括的に物事を見ることで問題をよりよく解決できるということ														人間生活学科
オープンキャンパスでの学科説明で、実験を中心とした学習を行うこと、少人数でじっくりと学べること、体系的に心理学を学べることに心ひかれた														心理学
高校の先輩で、お茶の水女子大学に通っている方にお話を聞いて、言語文化学科があることを知り、興味を持ちました														言語文化学科
雰囲気														芸術・表現行動学科
オープンキャンパスで学生生活や学んでいることについてお話をうかがいました														人間生活学科
アパレル関係の企業へ就職している卒業生がいたから														人間生活学科
発達の学科についてのお話														心理学
本、TV														人文科学科
自然界で起こる現象を人間の考えで説明したり理解できること														物理科学科
情報技術の発達による未来の世界を予想した著書に影響を受けた														情報科学科
楽しそうに研究していた														情報科学科
学科内容														数学科
クラシックバレエ以外の踊りも魅力的であること														芸術・表現行動学科
奨学生の頃、ダンスのレッスンの後の会話の中で、大学でダンスを学ぶ、という選択技があることと、貴学の舞踊教育学コースの紹介をもらった														芸術・表現行動学科
定年退職された後も、浪人生のために、長い目でみると地元のために一生懸命授業をしてくださった鴨水館の先生の姿を見て、影響をうけた														数学科
就きたい企業がITに関するところが多かったこと														情報科学科
食育の必要さや栄養のこと														食物栄養
LGBTの方が自分の人生に悩み銀行を辞めて(他)大学の心理学科に3年次入学されたこと														心理学

追加質問票自由記述「高等学校で受けた進学指導に対して、考えたこと」 1/2

高等学校で受けた進学指導	高等学校で受けた進学指導			入学科
	個人面談	三者面談	資料室等	
高等学校で受けた進学指導に対して、考えたこと				
進学指導の先生が進路の情報をたくさんご存じで心強かった 有意義なものであったと思う	○	○	○	化学科
自分では考えに限界があるので幅が広がってよかった 情報を収集し、人と話事で自分の興味・関心が整理されたり、勉強をやるモチベーションが上がったり、受験に向けて頑張ることができました	○	○	○	芸術・表現行動学科 言語文化学科
親身になって相談のって下さったり、アドバイスを下さったりしたのでも心強かったです お茶の水女子大学の入学試験に関する細かな情報が思うように受け取れなかった。(例えば、解答用紙の解答欄の大きさなど、答案に直接関わることについて)	○	○	○	言語文化学科 情報科学科
予備校等のシステムを利用しながら、自分の学力や入試の難易度についてわかりやすく話してくださったと思う 先生もわからないことが多かったらしいので、卒業生でお茶大受験者or入学者の話をもつとできれば良かった 担任の先生に限らず、先生方がとても親身に相談のって下さったので、受験校の変更などがうまくいったように思う	○	○	○	心理学科 心理学科 人間社会学科 人間社会学科
先生方は、センター後ではなく、センター前から、個人の能力を考え、現実的な進学指導をすべきだと思う 出身高校では貴校を受験された先輩が少なく、知りたい情報が、なかなか入手できない 高校側から、推薦をすすめるようなことは一切なかった。自分から行動して、推薦入試などをうけて、合格の可能性高めればよかったと思っ	○	○	○	人間社会学科 人間社会学科
生活科学部があるから 他大学の授業をうけられるので視野が広がると思ったから	○	○	○	人間社会学科 人間社会学科
関西の高校だったため、関東の大学の情報が少なく、苦労しました 手厚かった	○	○	○	人文科学科 人文科学科
自分が本当に行きたい大学を見極め、努力することが大切である 元は薬学部志望でしたが、面談を通して分子生物学、生命工学を勉強したいと思った なるべく多くの先生の意見を聞いた方が良いという事	○	○	○	生物科学科 生物科学科
進路資料室にある大学のパンフレット等がだいぶ古いものがあった。定期的に新しいものに変えた方がよいと思った とても満足はいくものだった ていねいに見て下さいました	○	○	○	言語文化学科 言語文化学科 人文科学科
学校の先生はどんな進路でも全力で応援してくれた 先生のアドバイスで自分の進路が明確に定まった 先生、両親が「本人の意思を尊重する」という方針を執ってくれ、ありがたかったです	○	○	○	言語文化学科 言語文化学科 人文科学科
私の場合、中高一貫校で4年間担任をもって下さった先生が高校3年生の時も担当となつたので、信頼感もあり、自分のことをよく理解している先生と面談や進路相談ができたことが良かったと思います	○	○	○	人文科学科 人文科学科
センター試験の点数 自分に向いているものは何かを考えた 無理に国立大を勧められるのは不愉快だった 質問に答えて、自分の適性から、自分により合う職業を紹介してもらった企画があり、とてもためになった 教員個人の意見を	○	○	○	生物科学科 生物科学科 芸術・表現行動学科 情報科学科
1年時に担任の都府で面談を受けることができず、少し不安な気持ちで文理選択をした。全国の公立高校がもう少し丁寧な進学指導にあたってくれれば良いと思う	○	○	○	食物栄養 心理科学科

追加質問票自由記述「高等学校で受けた進学指導に対して、考えたこと」 2/2

高等学校で受けた進学指導に対して、考えたこと	高等学校で受けた進学指導			入学科
	個人面談	三者面談	資料室等	
私の苦悩の本質に誰一人気付けてくれなかった。私自身も自分の抱える問題から目をそらしていた	○	○		心理学科
生徒の意志を尊重しているなと思いました	○	○		人間社会学科
あくまで形式上のもので、特には受けていません	○	○		生物学科
模試の結果などから、どの教科を中心に勉強すればよいかを指導してもらったので、わかりやすかったです	○	○		生物学科
個人面談は不安に思っていることを口に出しやすく、有り難いと思いました	○	○		生物学科
先生が頑固で、よく意見がぶつかった	○	○		生物学科
親身になって私の考えを第一に指導していただきました	○	○	○	化学科
充分だったと思います	○	○	○	言語文化学科
先生方は、色々な選択肢を提示して下さったので、視野を広げることができました	○	○	○	言語文化学科
わからないことを細かく教えて下さってとても感謝しています	○	○	○	情報科学科
個人面談は教員の経験や考えに左右されがちである	○	○	○	人間社会学科
個人の意思を尊重し、浪人も後押ししてくれました。しかし、高1の時点で明確な志望校を提示する必要があったことは、焦りの気持ちを生んだと思います	○	○	○	人文科学科
大学入試にも推薦があることを知ったのがかなり遅かった。(私の聞き逃しかもしれないが)1年のころから推薦についてはくわしく話すべきだと思った	○	○	○	物理学科
生徒主体で決めることができ	○	○	○	化学科
過去にお茶の水女子大学に進学した人や志望している人が非常に少なかったため、データも少なくあまり役に立たなかった	○	○	○	言語文化学科
資料室にあった合格体験記が役に立った	○	○	○	言語文化学科
自分の意志が強かったので特に影響を受けなかった	○	○	○	食物栄養
丁寧に話を聞いていただけ良かったです	○	○	○	言語文化学科
進路や学習方法に口出しされることは一切なく、自分の主体性に任せて下さっている気がして、とてもありがたかった	○	○	○	食物栄養
進路指導に関して不熱心である			○	人間・環境学科

平成30年度 新入生の生活に関する調査報告書

発行日：平成31年3月

発行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

東京都文京区大塚2-1-1

TEL 03-5978-2646

FAX 03-5978-5894

E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp
